

## SURE: Shizuoka University REpository

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/>

Title	韓国における日本大衆文化の調査研究(3)
Author(s)	馬居, 政幸; 曹, 永達; 夫, 伯; 関根, 英行; 宋, 在鴻; 尹, 汝 晚
Citation	静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会科学篇. 50, p. 35- 94
Issue Date	2000-03-23
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00002907">http://doi.org/10.14945/00002907</a>
Version	publisher
Rights	

This document is downloaded at: 2015-07-11T13:08:23Z

## 韓国における日本大衆文化の調査研究（3）

Researches on Japanese massculture in Korea (3)

馬 居 政 幸・曹 永 達・夫 伯・関 根 英 行  
宗 在 鴻・尹 汝 晩

Masayuki UMAI, Young-dal CHO, Baek POE, Hideyuki SEKINE,  
Jaehong SONG, Yeoman YUN

（平成11年11月4日受理）

### 1. 本研究の課題と経緯

我々は1995年以来、科学研究費補助金（国際学術研究）、「韓国における日本大衆文化の調査研究」（研究代表者 馬居政幸）のテーマのもとに、韓国において以下の調査を実施してきた。

- ① 韓国青少年への日本の大衆文化浸透状況とそのことへの評価の実態を明らかにするための資料やデータを収集すること
- ② その分析を通じて日韓両国の青少年における相互理解促進のための課題と方法を明らかにすること
- ③ 韓国だけではなくアジア全体に浸透しつつある日本大衆文化の影響や問題を解明するための調査研究の方法を検討するための基礎データを得心すること

特に95年度ではソウル市、96、97年度では、ソウル市、釜山市、大田市、春川市（97年は金大中氏の出身地の光州市に変更）で比較のための継続調査（関係者への聞き取りと小・中・高校生への質問紙調査—96年2254名、97年2360名）を実施した。加えて、家庭や地域での生活様式の変化に関する聞き取り調査と小・中・高校の授業課程と学校行事の調査や教科書ならびに第7次教育課程に関する資料を収集・分析した。さらにその総合的な分析をふまえて98年度調査を実施し、本報告書においてその調査結果の内容を報告する。なお98年度調査を含め、これまでの調査結果の総合的な分析の詳細については、本年度末にまとめる報告書に譲りたい。

### 2. 98年度質問紙調査結果から

#### 1) 調査の概要

- ① 調査時期 1998年12月（ソウルのみ2月）

## ② 調査対象者数

	初等学校 (男 女)	中学校 (男 女)	高等学校 (男 女)	計 (男 女)
ソウル	193 ( 88 105)	187 ( 95 92)	200 (100 100)	592 ( 289 303)
大田	198 (109 89)	199 ( 97 102)	196 ( 99 97)	594 ( 305 289)
光州	195 ( 96 99)	207 (102 105)	196 ( 97 99)	601 ( 296 305)
釜山	197 (108 89)	201 ( 94 107)	166 ( 98 68)	572 ( 305 267)
計	783 (401 382)	794 (388 406)	758 (394 364)	2359 (1195 1164)

## ③ 調査項目

(1)韓国大衆文化接触頻度〔①漫画②映画③大衆歌謡④ゲーム⑤雑誌、写真集⑥衛星放送⑦インターネットを通じた大衆文化接触〕 (2)日本に関連するものの接触頻度〔①日本の翻訳漫画②日本の映画(アニメ)③日本の大衆歌謡④日本のゲーム⑤日本の雑誌、写真集⑥日本の衛星放送⑦インターネットを通じた日本文化の接触〕 (3)日本に関連した物の購買頻度〔①日本の翻訳漫画②日本の映画③日本の大衆歌謡④日本のゲーム⑤日本の雑誌、写真集〕 (5)日本に関連するものへの接触状況〔①日本の翻訳漫画②日本の翻訳漫画映画③未翻訳の日本の漫画映画④日本の童謡や大衆歌謡の接触頻度⑤コンピューターやテレビゲームの有無⑥テレビゲームの利用頻度⑦日本の写真や雑誌に対する読み方⑧CGやインターネットの利用頻度〕 (6)日本に関連するものの印象〔(2)と同様〕 (7)所有数〔①韓国漫画の単行本②韓国語に翻訳された単行本③未翻訳の日本漫画の単行本④韓国歌謡テープ⑤韓国歌謡CD⑥日本歌謡テープ⑦日本歌謡CD⑧韓国語に翻訳された日本漫画ビデオ⑨未翻訳の日本漫画ビデオ⑩日本のドラマビデオテープ⑪韓国のゲームソフトプログラム⑫日本のゲームソフトプログラム⑬日本のファッション雑誌⑭日本の女性写真集⑮日本の学用品⑯日本でつくられた服⑰日本のキャラクター商品〕 (8)使用頻度〔①日本語を使用する②日本のファッションをまねる③日本の歌手の歌を歌う④日本の漫画の主人公をまねる〕 (9)最初に接触した年齢〔(2)と同様〕 (10)初めて見たアニメや漫画の年齢 (11)接触媒体〔①未来少年コナン②ガッチャマン③鉄人28号④銀河鉄道999⑤ど根性ガエル⑥ベルサイユのバラ⑦千年女王⑧ミンキーモモ⑨マジンガーZ⑩アタックアタック⑪エバンゲリオン⑫セーラームーン⑬スラムダンク〕 (12)日本に関連するものに最初に接触したきっかけ〔①友達②先輩・後輩③兄弟・姉妹④両親⑤家にあった⑥漫画・カラオケ・レコード店の人⑦自分で見つけて⑧テレビや新聞広告⑨雑誌⑩インターネット〕 (13)日本の漫画についての印象 (14)日本や日本人に対する考え

## 2) 調査結果の要約

## (1) 日本大衆文化への接触率の高さ

日本の翻訳漫画に全体として8割以上が接している。中でも中学校男子が一番多く、9割以上が接している。日本のゲームも全体として7割以上が接しており、特に男子の8割以上が接している。日本の映画(アニメ)には、全体として6割以上が接している。ただし、日本のアニメに最初に接した年齢の平均は10歳であるが、前年と同様に「未来少年コナン」「ガッチャマン」など具体的な番組を、韓国で放映されていた番組名で聞くと、初めて見た年齢の平均は8歳となっていることから、実際はかなり早いうちから、自覚することなしに、より高い比率で日本の映画(アニメ)に接していると思われる。日本の大衆歌謡に接しているのは全体として約4割と、他の文化に比べて少ないが、日本歌謡は本調査を行った時点ではまだ、

輸入禁止で公的に接する機会がほとんどないにも関わらず、約4割が接していると答えているのは決して少ない数ではない。また日本の学用品を持っているのが約7割、「日本に旅行に行きたい」「日本でしばらく生活してみたい」と思っているのが半数以上いる。

## (2) 性差の特性

漫画や映画（アニメ）やゲームなど、日本文化のほとんどは男子の接触率が高い。中でもゲームは性差が大きい。漫画雑誌・単行本・テープ・ビデオなど、日本の物の所有数も男子の方が多。だが、韓国歌謡テープ・学用品の所有数は女子のほうが多いことを考えると、日本文化が完全に開放されたら女子の所有数が男子の所有数を上回ることも考えられる。日本の漫画に対する印象では、「おもしろい」「かっこいい」というプラスイメージは男子の肯定度が高い。マイナスイメージの「暴力的」は男子の方が肯定が多いが、「いやらしい」は男女ほぼ同じである。日本や日本人に対する考えでは、男子より女子のほうがマイナスイメージが強い。しかし、「日本でしばらく生活してみたい」「日本語を勉強したい」の肯定度は女子のほうが高い。

## (3) 学年（初等学校・中学校・高等学校）の特性

日本文化への接触は、総数（「ほぼ毎日」「一週間に数回」「半月に数回」「一ヶ月に数回」「数ヶ月に数回」接している者の合計）も頻度（「ほぼ毎日」「一週間に数回」の合計）も中学校が最も高く、次いで高等学校、小学校と続く。日本や日本人に対する考えについては、「日本国民の才能が韓国国民より優れている」「韓国は将来日本と対等になる」というような自国と関連する項目においては、学年が上がるに従って、日本にとってプラスイメージはより否定的、マイナスイメージはより肯定的になる。学年が高い方が日本に敵対感を持っている傾向が見られる。だが、「日本人と友達になりたい」「日本の文化・技術を学びたい」というような行動に関する項目は、学年が上がるに従って肯定が増えている。

## 3) 調査結果の概要

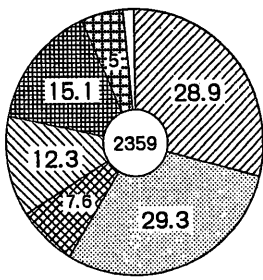
### ① 漫画

全体として「ほぼ毎日」から「数ヶ月に数回」も含めて（以下〔接触総数〕とする）93.2%が漫画に接している。加えて、男子では一位が「ほぼ毎日」（33.3%）であるのに対し、女子では「一週間に数回」（29.3%）が一位である。二位は男子が「一週間に数回」（29.3%）、女子が「ほぼ毎日」（24.3%）である。若干男子の方が女子より〔頻度〕（「ほぼ毎日」と「一週間に数回」の合計：以下同）が高い。

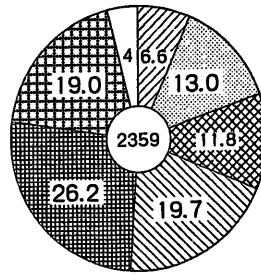
【学年別】では、学年が上がるに従って、〔頻度〕（初一71.5%、中一61.1%、高一41.3%）は減るが、〔接触総数〕（初一92.0%、中一94.6%、高一94.0%）となっている。【性学年別】に見てみると、初等男子は一位が「ほぼ毎日」（42.6%）、二位が「一週間に数回」（27.2%）で一番頻繁に漫画に接している。初等女子もわりと頻繁だが、「ほぼ毎日」（34.0%）より「一週間に数回」（39.3%）である。中学男子については「ほぼ毎日」（38.4%）で「一週間に数回」（29.1%）である。高校男子になると「ほぼ毎日」（18.0%）はぐっと減り、「一週間に数回」（32.2%）、「一ヶ月に数回」（16.8%）となる。〔接触総数〕で見ても、一番多いのは中学男子（97.1%）であり、二番目が高校男子（95.2%）である。中学女子と高校

(1) 韓国大衆文化接触頻度 (図1)

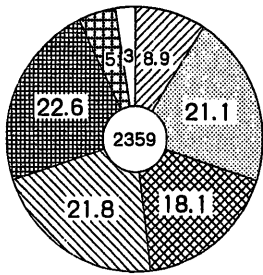
①漫画



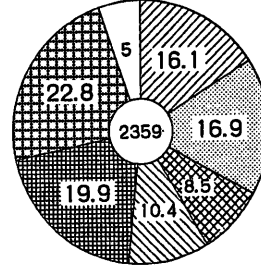
⑤雑誌、写真集



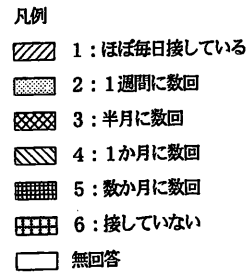
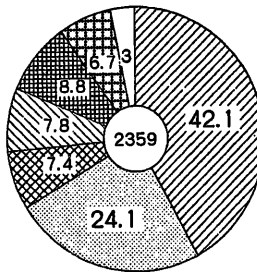
②映画



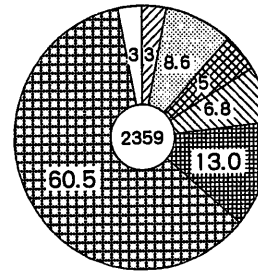
⑥衛星放送



③大衆歌謡



⑦インターネットを通じた大衆文化接触



④ゲーム

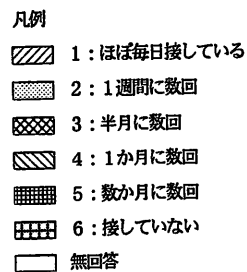
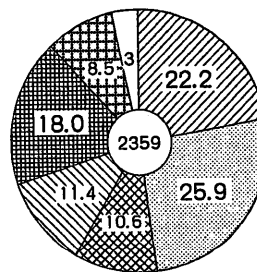


図1 韓国大衆文化接触頻度

女子は高校女子の方がより〔頻度〕(中女54.9%、高女31.6%)が低いがほぼ同じ傾向で、中学女子は「一週間に数回」(28.1%)と一番多く、高校女子では「数ヶ月に数回」(33.5%)と一番である。【成績】では、下位は他に比べ「ほぼ毎日」(45.9%)が多い。

【地域学年別】では、初等学校はソウルと釜山が同じ傾向で「ほぼ毎日」(ソウル55.4%、大田29.8%、光州30.3%、釜山38.6%)が多く、大田と光州は「一週間に数回」(ソウル22.8%、大田35.9%、光州38.5%、釜山35.0%)が多い。中学校はソウルで「ほぼ毎日」(ソウル37.4%、大田27.1%、光州33.3%、釜山32.3%)がやや多い。高等学校もソウルで「ほぼ毎日」(ソウル22.5%、大田14.8%、光州9.2%、釜山12.0%)接する子がやや多い。全体的にソウルは〔頻度〕が高い。

## ② 映画 (アニメ)

全体として、〔接触総数〕は、92.5%である。【性別】では、女子の方が〔頻度〕(男子33.2%、女子26.7%)はやや低いが、男女ほぼ同じ傾向で、「一週間に数回」(男子23.5%、女子18.6%)、「数ヶ月に数回」(男子22.0%、女子23.3%)が多く、「ほぼ毎日」(男子9.7%、女子8.1%)は少ない。

【学年別】では、「ほぼ毎日」(初等学校10.5%、中学校11.5%、高等学校4.5%)は少ない。だが学年が上がるに従って〔頻度〕(初—33.7%、中—33.3%、高—22.7%)が減り、〔接触総数〕(初—86.3%、中—95.5%、高—96.2%)が増える。【性学年別】を見ると、どの学年も〔頻度〕(初男35.4%、初女31.9%、中男39.2%、中女27.6%、高男24.7%、高女20.6%)は男子の方が高い。

## ③ 大衆歌謡

全体として、〔接触総数〕は90.2%である。〔接触総数〕は漫画とほとんど変わらないが、「ほぼ毎日」(42.1%)、「一週間に数回」(24.1%)と〔頻度〕は高い。【性別】では、男女共に「ほぼ毎日」(男子38.9%、女子45.4%)が一番多い。〔頻度〕(男子61.3%、女子71.2%)は女子の方が高く、〔接触総数〕(男子87.9%、女子92.4%)も女子の方がやや多い。

【学年別】では、学年が上がるに従って〔接触総数〕(初—81.3%、中—94.4%、高—94.8%)が増え、〔頻度〕(初—48.7%、中—74.2%、高—76.0%)も高くなっている。【性学年別】で見ると、初等男子以外は「ほぼ毎日」(初男17.5%、初女29.3%、中男44.3%、中女55.2%、高男55.6%、高女51.6%)が一番多く、また高校を除いて、女子の方が高い。

【地域学年別】では、「ほぼ毎日」(初—ソウル21.8%・大田20.2%・光州20.5%・釜山30.5%/高—ソウル60.5%・大田57.1%・光州38.8%・釜山59.0%)で、ソウルと釜山においてやや高い。

## ④ ゲーム

全体として、〔接触総数〕は88.2%で、男子9割(92.1%)、女子8割(84.2%)が接しており男女の差が大きく、〔頻度〕(男子63.9%、女子31.9%)は女子がかなり低い。だが女子も「数ヶ月に数回」では25.9%が接しており、今後ゲーム文化が女子に広がる可能性もある。

【学年別】では、〔頻度〕(初—49.4%、中—54.7%、高—40.0%)は中学校が高く、〔接触総数〕(初—82.4%、中—92.5%、高—89.4%)でも中学校が多い。【性学年別】に見ると、初等学校では男子は「ほぼ毎日」(男子31.4%、女子10.7%)が一番多いが、女子の方は「一週間に数回」(男子30.2%、女子25.9%)が多い。中学男子では「ほぼ毎日」(47.9%)、「一週間に数回」(26.3%)とかなり頻繁である。高校男子も「ほぼ毎日」(21.1%)、「一週間に数回」(35.0%)と比較的頻繁に接している。これに対し中学女子と高校女子は「数ヶ月に数回」(中—25.1%、高—33.8%)が一番多く、接してはいるものの頻度が低いことがわかる。

#### ⑤ 雑誌・写真集

全体として、〔接触総数〕は77.3%である。男女とも「数ヶ月に数回」(男子26.4%、女子25.9%)が一番多いが、〔接触総数〕(男子73.1%、女子81.2%)も〔頻度〕(男子16.6%、女子22.5%)も女子の方が高い。【学年別】では、学年が上がるに従って〔接触総数〕(初—58.1%、中—85.8%、高—88.7%)が増え、初等学校と中学校・高等学校との差が大きい。また「ほぼ毎日」(初—4.9%、中—10.2%、高—4.2%)が中学校でやや高い。【性学年別】で見ると、男子は学年が上がるに従って〔接触総数〕(初男50.3%、初女66.0%、中男81.1%、中女90.1%、高男88.2%、高女88.7%)は増えており、女子では中学女子が一番高い。〔頻度〕(初男11.9%、初女17.3%、中男21.6%、中女31.7%、高男16.2%、高女17.8%)は中学女子が高い。女子中高生向けのファッション雑誌が多いためだと思われる。

#### ⑥ 衛星放送

全体として、〔接触総数〕は71.8%である。男女とも〔接触総数〕(男子71.7%、女子71.8%)はほぼ同じだが、〔頻度〕(男子36.0%、女子29.9%)は男子の方がやや高い。

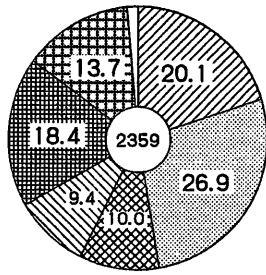
【学年別】では、学年が上がるに従って〔接触総数〕(初—64.9%、中—73.8%、高—77.5%)は増えている。【性学年別】で見ると、「ほぼ毎日」(初男17.0%、初女19.1%、中男20.1%、中女13.8%、高男16.0%、高女11.0%)、「一週間に数回」(初男18.0%、初女17.0%、中男16.5%、中女15.0%、高男21.1%、高女13.7%)とどの学年も比較的頻繁に接している。

#### ⑦ インターネットを通じた韓国大衆文化

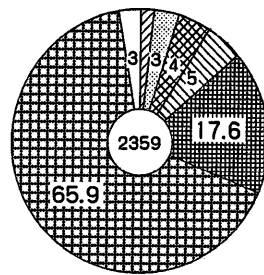
全体として、〔接触総数〕は36.3%と少なく、【性別】で見ると、男子の方が〔接触総数〕(男子42.4%、女子30.3%)は高い。インターネットの普及率自体が低いのだと思われる。【学年別】では、〔接触総数〕(初—31.6%、中—37.2%、高—40.8%)は高等学校が一番多く、〔頻度〕(初—13.0%、中—12.5%、高—9.7%)では初等学校が高い。性学年別による差はほとんどない。

(2) 日本に関連するものの接触頻度 (図2)

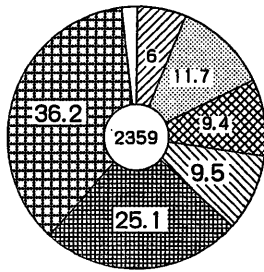
①日本の翻訳漫画



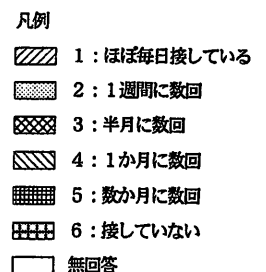
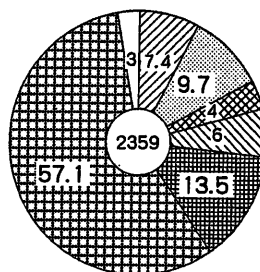
⑤日本の雑誌、写真集



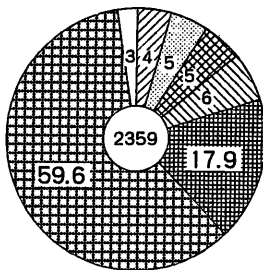
②日本の映画



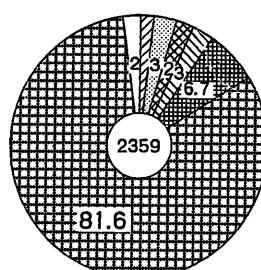
⑥日本の衛星放送



③日本の大衆歌謡



⑦インターネットを通じた日本文化の接触



④日本のゲーム

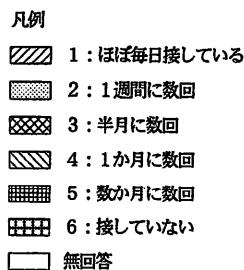
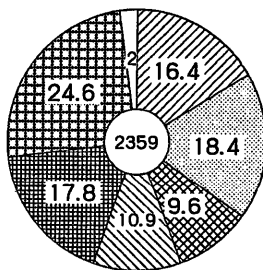


図2 日本に関連するものの接触頻度



## ① 日本の翻訳漫画

韓国の漫画の〔接触総数〕は93.2%であったのに対し、日本の翻訳漫画の〔接触総数〕84.8%とやや低いが、8割以上が接している。【性別】では、〔接触総数〕（男子87.9%、女子81.7%）は男子の方が多く、〔頻度〕（男子51.9%、女子42.0%）も男子の方が高い。男女ともに「一週に数回」（男子27.3%、女子26.5%）が一番多い。

【学年別】では、学年が上がるに従って〔接触総数〕（初一78.6%、中一87.4%、高一88.9%）が増えている。【性学年別】を見ると、初等学校は〔接触総数〕（男子80.9%、女子76.2%）は女子より男子の方が多く、「ほぼ毎日」（男子25.2%、女子17.3%）も男子の方が多く、「一週間に数回」（男子29.2%、女子31.7%）、「数ヶ月に数回」（男子9.5%、女子12.8%）は女子のほうがやや多い。中学男子は「ほぼ毎日」（30.2%）が一番高く、「一週間に数回」（29.9%）が次いで二位である。また、高校男子・中学女子は「一週間に数回」（高男23.4%、中女28.1%）が一番高く、高校女子は「数ヶ月に数回」（33.5%）である。また高校男子の〔接触総数〕は92.0%で、韓国の漫画の〔接触総数〕とたいして変わりがない。初等学校の場合、韓国の漫画への接触は非常に高い。そのことから考えると、日本の漫画と自覚しないで読んでいる可能性が考えられる。雑誌・単行本と区別してないが、雑誌であれば日本の漫画が載っている。単行本も日本の漫画と理解できるかわからない。実際はもっと多くが日本の翻訳漫画に触れていると思われる。

【地域学年別】では、どの学年も「ほぼ毎日」（初一ソウル29.0%、大田19.2%、光州12.8%、釜山24.4%、中一ソウル29.9%、大田17.1%、光州28.0%、釜山24.4%、高一ソウル19.5%、大田9.2%、光州10.7%、釜山14.5%）はソウルが一番多い。

## ② 日本の映画（アニメ）

韓国の映画の〔接触総数〕は92.5%であったのに対し、日本の映画の〔接触総数〕は61.7%とやや低めである。【性別】では、韓国の映画と同じく男子の方が〔接触総数〕（男子63.1%、女子60.3%）は高い、また〔頻度〕（男子19.1%、女子16.2%）も同様である。

【学年別】では、〔接触総数〕（初一53.1%、中一68.6%、高一63.6%）は中学校が一番高く、〔頻度〕（初一16.6%、中一23.2%、高一13.2%）も中学校が一番高い。だが、韓国の映画では初等学校は33.7%で一番高かったことを考えると、日本の映画を日本のものだと認識せずに見ている可能性があるため、実際は韓国の映画と同じように初等学校の頻度が高くなるのではないだろうか。【性学年別】で見ると、初等学校は〔接触総数〕（男子51.7%、女子54.8%）は女子の方が高く、〔頻度〕（男子16.7%、女子16.5%）は男女同じぐらいである。中学校では〔接触総数〕（男子72.2%、女子65.0%）も〔頻度〕（男子27.9%、女子18.7%）も男子の方が高区、男女の差が他学年より大きい。高等学校の〔接触総数〕（男子66.5%、女子60.6%）は男子の方が多く。

【地域学年別】では、ソウルの〔頻度〕（初一ソウル19.7%、大田15.6%、光州15.4%、釜山15.8%、中一ソウル21.9%、大田19.1%、光州21.2%、釜山30.3%、高一ソウル19.0%、大田12.8%、光州17.6%、釜山13.2%）が他地域に比べて高いが、中学校では、釜山がかなり高くなっている。

## ③ 日本の大衆歌謡

韓国の大衆歌謡の〔接触総数〕が90.2%に対し、日本の大衆歌謡の〔接触総数〕は37.9%とかなり少ない。【性別】では、〔接触総数〕（男子41.1%、女子34.5%）も〔頻度〕（男子11.0%、女子6.8%）も男子の方が高い。

【学年別】では、〔接触総数〕（初—23.4%、中—40.4%、高—50.3%）は学年が上がるに従って増えており、韓国歌謡と同じ傾向にある。〔頻度〕（初—5.7%、中—10.8%、高—10.4%）は初等学校と中・高等学校との間に差ができています。【性学年別】で見ると、初等学校と高等学校は〔接触総数〕（初男22.3%、初女24.6%、中男43.1%、中女37.9%、高男59.1%、高女40.9%）は初等学校では女子が、中学校と高等学校では男子の方が高く、〔頻度〕（初男5.4%、初女6.0%、中男13.9%、中女7.8%、高男14.2%、高女6.3%）でも同様である。

## ④ 日本のゲーム

韓国のゲームの〔接触総数〕が88.1%であるのに対し、日本のゲームの〔接触総数〕は73.1%とやや少ないが、日本漫画をのぞく他の文化に比べて高い数値を示している。【性別】では、〔接触総数〕（男子86.1%、女子60.0%）は女子6割に対し、男子は8割強と、とても多くが日本のゲームに接している。〔頻度〕（男子52.0%、女子17.2%）も男子の方が高い。これは韓国のゲームと同じである。

【学年別】では、中学校の〔接触総数〕（初—63.3%、中—79.0%、高—78.0%）で一番高く、〔頻度〕（初—31.4%、中—41.9%、高—31.4%）も中学校が高く、韓国と同じ傾向にある。【性学年別】に見ると、どの学年も男子の方が〔接触総数〕（初男73.5%、初女52.4%、中男91.5%、中女67.2%、高男93.5%、高女61.2%）も〔頻度〕（初男44.4%、初女17.8%、中男65.5%、中女19.4%、高男47.0%、高女14.5%）も高い。

## ⑤ 日本の雑誌・写真集

韓国の雑誌・写真集の〔接触総数〕が77.3%であるのに比べ、日本の雑誌・写真集の〔接触総数〕は31.4%と少なく、日本の大衆歌謡と同じくらいである。【性別】では、韓国の雑誌・写真集とは違い〔接触総数〕（男子36.5%、女子26.2%）も〔頻度〕（男子6.4%、女子3.3%）も男子の方が高い。

【学年別】では〔接触総数〕（初—15.9%、中—37.5%、高—41.8%）は学年が上がるに従って高くなる点は韓国の雑誌・写真集と同じ傾向にある。【性学年別】に見ると、韓国の雑誌・写真集の〔接触総数〕は中学校女子（90.1%）が一番多いのと違い、最も〔接触総数〕が多いのは高校男子（50.8%）である。これは97年度調査でも確認したが、日本の雑誌・写真集が大人の男性向けの雑誌・写真集だからだと思われる。女子が接するのは専らファッション誌であり日本のものへの接触は少ないが、韓国で出版されているファッション誌の内容は日本のファッション誌の内容とほぼ同じである。

## ⑥ 日本の衛星放送

韓国の衛星放送の〔接触総数〕が71.8%であるのに比べると、日本の衛星放送の〔接触総数〕は40.1%と半分ほどではあるが、約4割が接している。【性別】では、〔接触総数〕（男

子45.4%、女子34.7%)も〔頻度〕(男子22.8%、女子11.1%)も男子の方が高く韓国と同じ傾向にある。

【学年別】では、〔接触総数〕(初一30.4%、中一44.7%、高一46.0%)は学年が上がるに従って増えるが、〔頻度〕(初一10.9%、中一21.3%、高一19.5%)は中学校が一番高い。

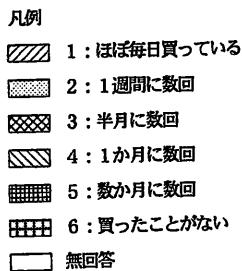
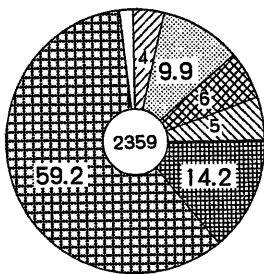
【性学年別】でみると、〔頻度〕(初男13.0%、初女8.6%、中男28.6%、中女14.3%、高男27.9%、高女10.4%)は中学男子が一番高い。

⑦ インターネットを通じた日本文化

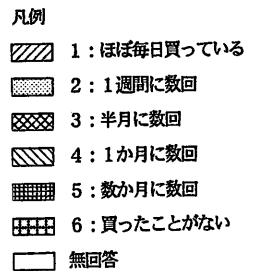
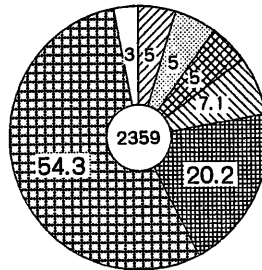
インターネットを通じた韓国の大衆文化への〔接触総数〕が36.3%であるのに対し、インターネットを通じた日本文化への〔接触総数〕は16.1%とさらに少ない。インターネットの普及率自体が低いのだと思われる。傾向は韓国と同じで、高等学校の〔接触総数〕(初一11.7%、中一17.0%、高一19.7%)が高い。

(3) 日本に関連するものの購買頻度 (図3)

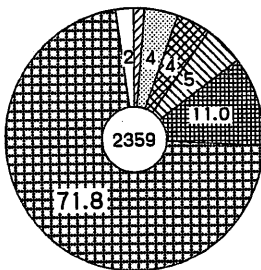
①日本の翻訳漫画



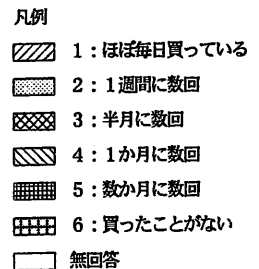
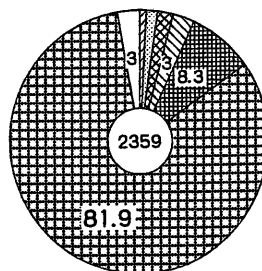
④日本のゲーム



②日本の映画



⑤日本の雑誌、写真集



③日本の大衆歌謡

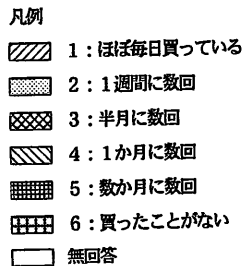
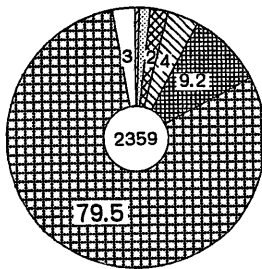


図3 日本に関連するものの購買頻度

## ① 日本の翻訳漫画

日本の翻訳漫画の〔購買者総数〕(「ほぼ毎日」から「数ヶ月に数回」の合計：以下同)は39.2%である。【性別】では男子の〔購買者総数〕は45.4%、女子は32.8%と明らかに男子の方が多い。

【学年別】では、中学校が〔購買者総数〕(初—38.9%、中—41.1%、高—37.3%)が一番多く、〔頻度〕(初—17.0%、中—15.0%、高—9.3%)は学年が上がるに従って少なくなっている。【性学年別】で見ると、どの学年も〔購買者総数〕(初男41.7%、初女36.2%、中男50.1%、中女32.4%、高男44.5%、高女29.5%)も、〔頻度〕(初男19.0%、初女15.0%、中男19.1%、中女11.1%、高男10.7%、高女7.7%)も男子の方が高く、中でも〔購買者総数〕は中学男子が、〔頻度〕も中学男子がもっとも多い。

## ② 日本の映画(アニメ)

日本の映画(アニメ)の〔購買者総数〕は25.9%である。漫画に比べればやや少ないが、日本の子ども達が韓国のビデオを持ってないことを考えると、決して少ない数ではないだろう。【性別】では、〔購買者総数〕(男子30.7%、女子20.9%)も、〔頻度〕(男子5.8%、女子4.7%)もやや男子の方が高い。【学年別】では、〔購買者総数〕(初—32.0%、中—26.5%、高—18.2%)も、〔頻度〕(初—9.0%、中—5.0%、高—2.7%)も初等学校が他に比べてやや高い。

## ③ 日本の大衆歌謡

日本の大衆歌謡の〔購買者総数〕は17.6%と数値上は少ない。【性別】では、やや男子の〔購買者総数〕(男子21.1%、女子13.8%)が多い。【性学年別】で見ると、〔購買者総数〕(初男15.9%、初女15.4%、中男24.4%、中女11.6%、高男23.6%高女14.0%)は中学男子が多い。

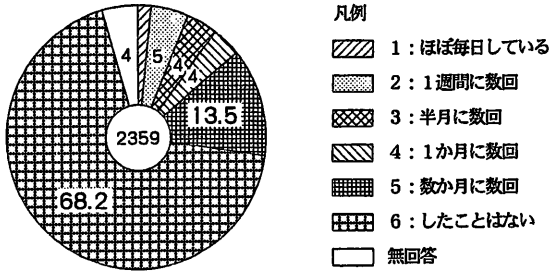
## ④ 日本のゲーム

日本のゲームの〔購買者総数〕は42.5%と漫画とほぼ同じである。購買頻度は「数ヶ月に数回」(20.2%)が一番高い。【性別】では、接触頻度と同じように〔購買者総数〕(男子54.1%、女子30.7%)も、〔頻度〕(男子14.6%、女子5.9%)も男子の方が高い。【学年別】では、〔購買者総数〕(初—46.9%、中—48.8%、高—31.8%)は中学校において一番で、〔頻度〕(初—14.4%、中—11.4%、高—4.6%)は学年が上がるに従って、低くなる。

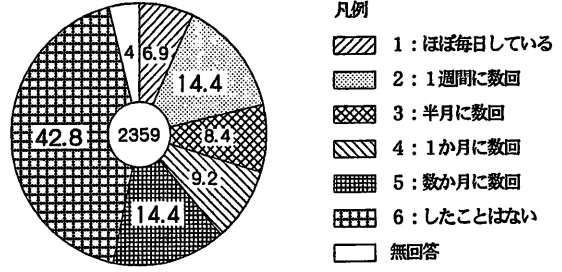
## ⑤ 日本の雑誌・写真集

日本の雑誌・写真集の〔購買者総数〕は15.2%である。接触頻度と同じように〔購買者総数〕(男子17.3%、女子13.1%)も男子の方が多い。購買頻度は「数ヶ月に数回」(男子9.1%、女子7.5%)が一番高く、【学年別】でも同じである(初—6.3%、中—9.1%、高—9.5%)。

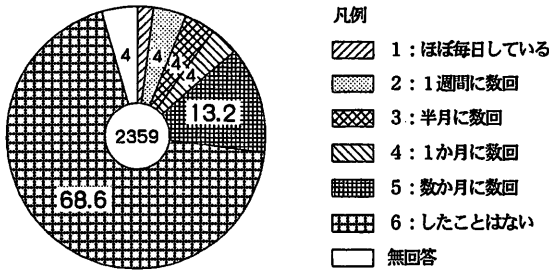
①自分で買った漫画雑誌で読む



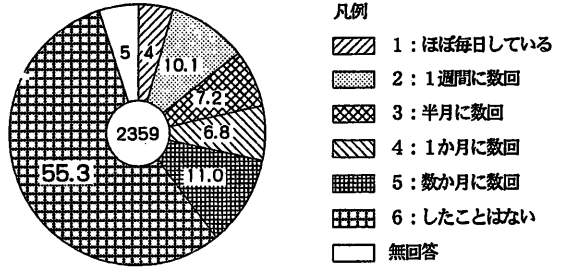
⑥漫画雑誌を漫画・貸本屋で借りて家で読む



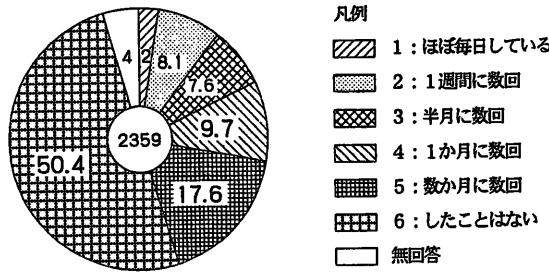
②自分で買った単行本で読む



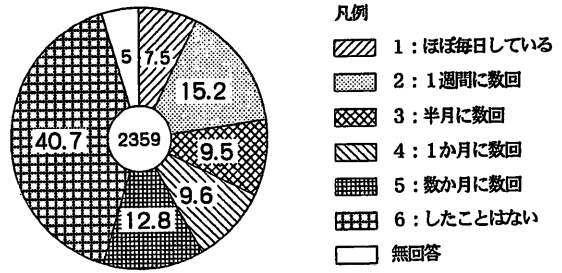
⑦単行本を漫画・貸本屋で読む



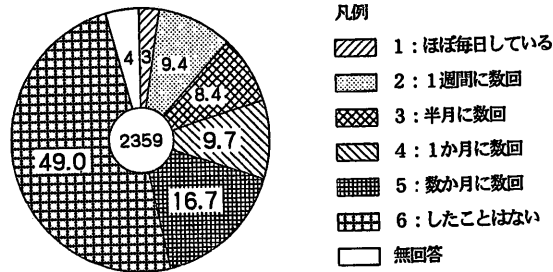
③友達や先輩、後輩に借りた漫画雑誌で読む



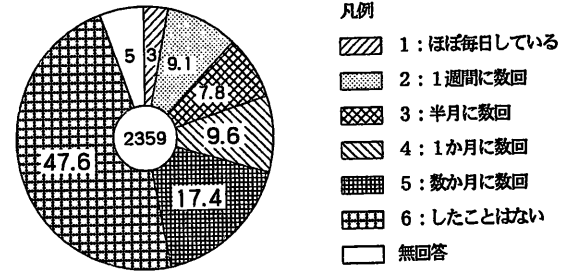
⑧単行本を漫画・貸本屋で借りて家で読む



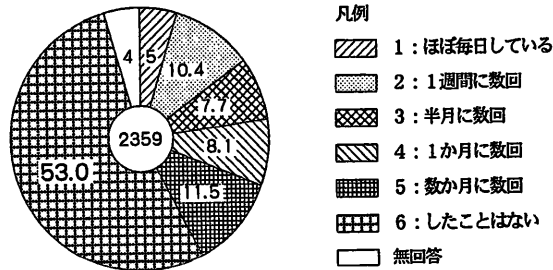
④友達や先輩、後輩に借りた単行本で読む



⑨画雑誌や単行本を何人かで読む



⑤漫画雑誌を漫画・貸本屋で読む



⑩日本の翻訳漫画について他の人と話す

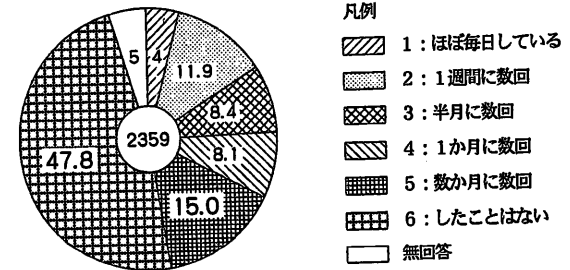


図5 日本の翻訳漫画

## (4) 日本に関連するものへの接触状況

## ① 日本の翻訳漫画 (図5)

全体として、〔総数〕(「ほぼ毎日」「数ヶ月に数回」の合計：以下同)を見てみると、自分で買った漫画雑誌(雑誌27.4%、単行本26.9%)よりは友達や先輩・後輩に借りたり(雑誌45.4%、単行本46.7%)、貸本屋で借りて読む(雑誌53.3%、単行本54.6%)方が多い。貸本屋では、貸本屋で借りた漫画は貸本屋で読む(雑誌42.5%、単行本39.6%)よりは家に持ち帰って読む(雑誌53.3%、単行本54.6%)方が多い。また「漫画雑誌・単行本を何人かで読む」(47.0%)「日本の翻訳漫画について他の人と話す」(47.6%)といったように、日本の翻訳漫画が人とのコミュニケーションのきっかけや手段となっている。

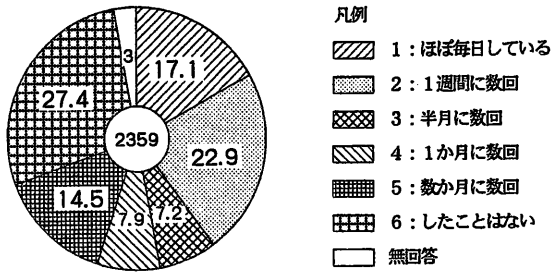
【性別】では、〔総数〕、〔頻度〕(「ほぼ毎日」と「自分で買った」を足したもの)も女子より男子の方が高い。(〔総数〕漫画雑誌：男37.7%、女16.7%、単行本：男38.6%、女15.1%)自分で買って読んだり、友達に借りて読むのは男女とも「数ヶ月に数回」が一番高いのに対し、貸本屋で借りて読むのは女子が「数ヶ月に数回」が一番高いのに対し、男子は「一週間に数回」が一番高い。【学年別】では、〔総数〕が「自分で買った漫画雑誌で読む」(初—24.9%、中—32.7%、高—24.5%)、「自分で買った単行本で読む」(初—20.8%、中—31.5%、高—28.7%)は中学校が特に高く、他は中学校、高等学校が高い。「友達や先輩、後輩に借りた漫画雑誌で読む」(初—30.8%、中—52.5%、高—52.8%)、「友達や先輩、後輩に借りた単行本で読む」(初—24.0%、中—54.2%、高—63.0%)は高等学校が高くなっているが、〔頻度〕は中学校の方が高くなっている。〔頻度〕においては、「自分で買った漫画雑誌で読む」(初—7.8%、中—7.3%、高—4.0%)、「自分で買った単行本で読む」(初—7.3%、中—7.3%、高—4.2%)が初等学校、中学校が高く、他は中学校、高等学校が高い。【性学年別】にみると、中学生男子が〔総数〕、〔頻度〕ともに非常に高く次いで高校男子が高くなっている。日本の翻訳漫画を何人かで読んだり、それについて話したりするのは女子より男子の方が〔総数〕も〔頻度〕も高い。

## ② 日本の翻訳漫画映画(アニメ)(図6)

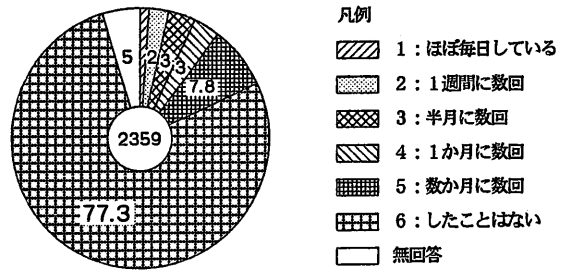
全体として、「友達や先輩・後輩に借りてみる」(24.4%)や「ビデオ店で借りて自分や友達の家で見る」(18.1%)よりは、「自分の家のテレビ放送で見る」(69.6%)や「有線放送で見る」(47.7%)の方が多く、漫画と違って借りる方が少ない。また、「一人で見る」(32.7%)より「何人かで見る」(42.5%)が多く、「日本の映画について他の人と話す」(36.5%)など、漫画と同じく人とのコミュニケーションのきっかけや手段となっている。

【性別】では、〔総数〕は「自分の家のテレビ放送で見る」が男女ともに69.7%と同じである他はどれも男子の方が高い。〔頻度〕においても「何人かで見る」(男子10.3%、女子10.9%)とほぼ同じである他は男子の方が高くなっている。【学年別】では、「自分の家のテレビ放送で見る」〔総数〕(初—71.3%、中—74.3%、高—63.1%)、〔頻度〕(初—44.4%、中—48.0%、高—27.0%)ともに初等学校と中学校が高い。「有線放送で見る」では、〔総数〕(初—45.0%、中—54.0%、高—44.1%)、〔頻度〕(初—22.2%、中—29.1%、高—14.4%)ともに中学校が一番高い。【性学年別】でみると、漫画と同じくどの項目も中学校男子の〔総数〕が多い。「何人かで見る」のは、〔総数〕は中学校男子が高いが(〔総数〕初男36.8%、初女38.8%、中男50.4%、中女43.3%、高男48.5%、高女37.4%)〔頻度〕は初等学校も男

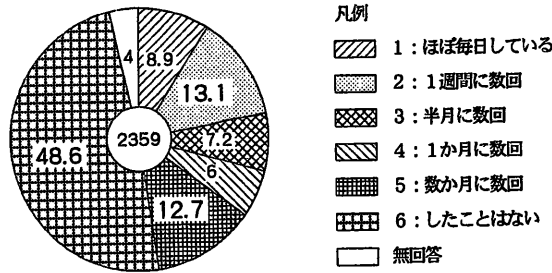
①自分の家のテレビ放送で見る



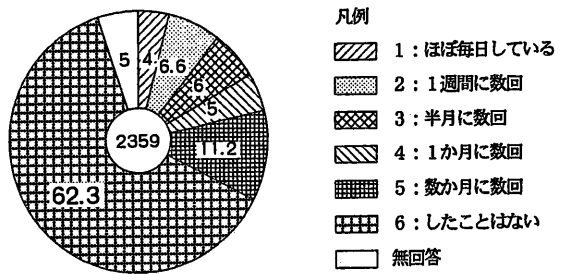
⑥ビデオ店で借りて自分や友達の家で見る



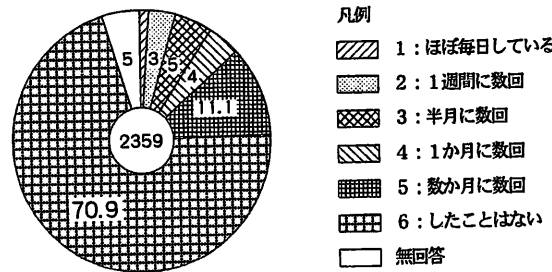
②有線放送で見る



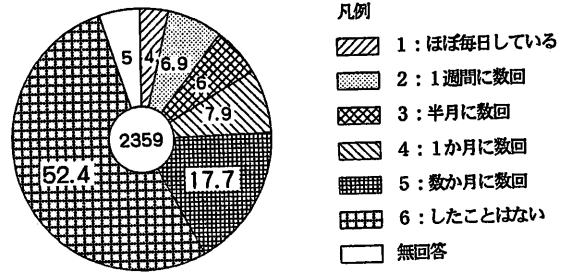
⑦一人で見る



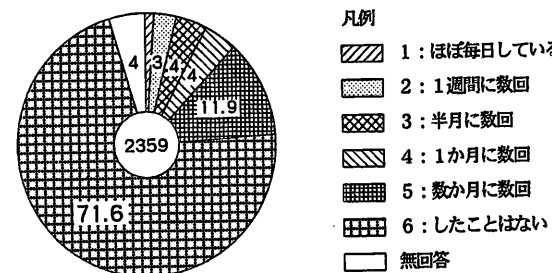
③友達や先輩、後輩に借りて見る



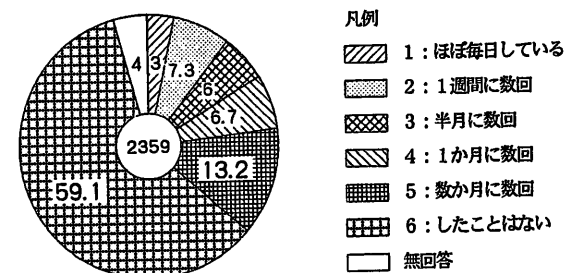
⑧何人かで見る



④友達や先輩、後輩の家で見る



⑨翻訳日本映画について他の人と話す



⑤ビデオ店で見る

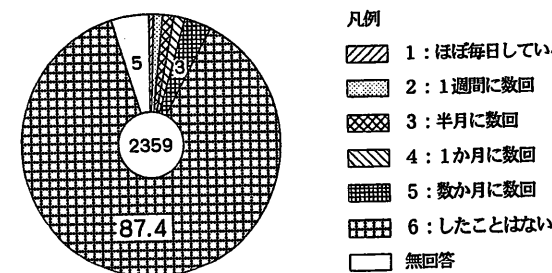
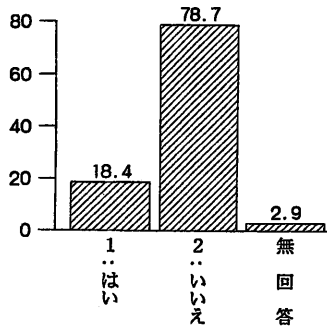
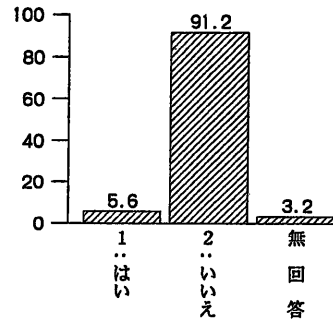


図6 日本の翻訳映画(アニメ)

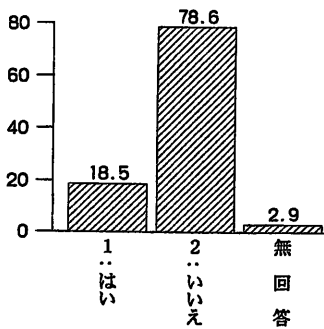
①友達や先輩、後輩に借りて見たことがある  
件数=2359



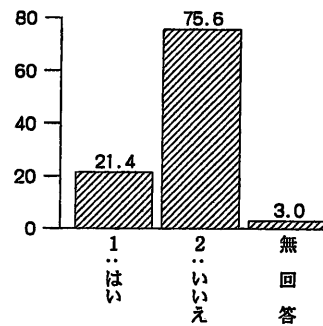
⑤日本から帰った人から貰って見たことがある  
件数=2359



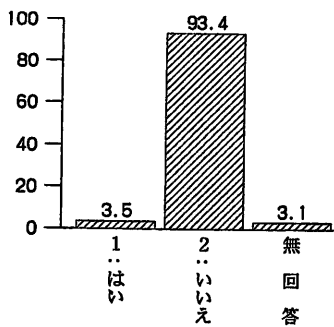
②友達や先輩、後輩の家で見たことがある  
件数=2359



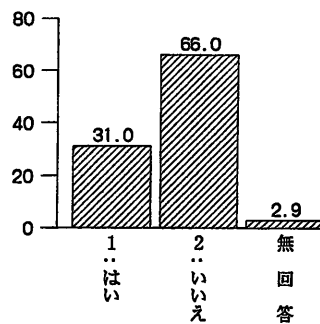
⑥一人で見たことがある  
件数=2359



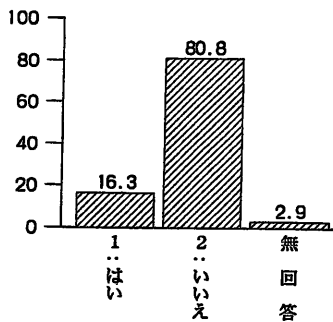
③ビデオ店の中で見たことがある  
件数=2359



⑦何人かで見たことがある  
件数=2359



④ビデオ店で借り友達や自宅で見たことある  
件数=2359



⑧見たことについて他の人と話したことがある  
件数=2359

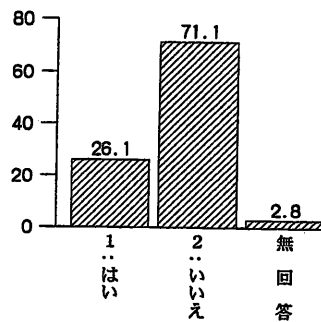


図7 日本の未翻訳映画 (アニメ)



女ともに中学校に並んで高く、また男子より女子の方がやや高くなっている（〔頻度〕初男12.7%、初女12.8%、中男12.2%、中女12.8%、高男6.1%、高女6.3%）「日本の映画について人と話す」のは、〔総数〕は高校男子が高い数値を示しているが（〔総数〕初男28.9%、初女30.4%、中男42.9%、中女37.6%、高男46.8%、高女32.6%）、〔頻度〕はやはり中学校男子が高くなっている。（〔頻度〕初男10.5%、初女7.6%、中男17.2%、中女12.0%、高男9.7%、高女7.6%）

### ③ 日本の未翻訳映画（アニメ）（図7）

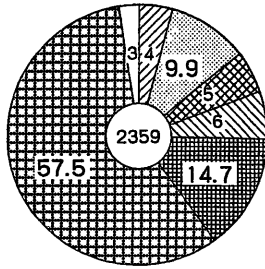
全体として、日本の未翻訳の映画を見たことがある子は翻訳映画に比べたらそれほど多くはない。だが、「ビデオ店で借りて自宅や友達の家で見たことがある」（16.3%）、「友達の家で見たことがある」（18.5%）「友達や先輩・後輩に借りて見たことがある」（18.4%）と少なくとも1割以上は未翻訳すなわち日本語の映画に接しているのである。また、未翻訳映画も「一人で見たことがある」（21.4%）より「何人かで見たことがある」（31.0%）方が多く、「見たことについて他の人と話したことがある」（26.1%）というように人とのコミュニケーションのきっかけや手段となっている。

【性別】では、「友達や先輩・後輩に借りてみたことがある」（男子26.4%、女子10.1%）、「友達や先輩の家で見たことがある」（男子25.1%、女子11.8%）、「ビデオ店で借りて自宅や友達の家で見たことがある」（男子20.8%、女子11.7%）といったように接しているのは女子より男子の方が多い。また、「一人で見たことがある」（男子29.0%、女子13.6%）、「何人かで見たことがある」（男子35.8%、女子26.1%）、「見たことについて他の人と話したことがある」（男子32.1%、女子19.9%）と男子の方がかなり積極的に日本のアニメに接していると思われる。【学年別】では、「友達や先輩・後輩に借りて見たことがある」（初—9.6%、中—19.3%、高—26.6%）のは学年が上がるに従って増えるが、「ビデオ店で借りて自宅や友達の家で見る」（初—22.1%、中—15.1%、高—11.2%）、「ビデオ店の中で見たことがある」（初3.8%、中3.4%、高3.3%）のは学年が上がるに従って減る。他は学年が上がるに従って増えるものが多い。【性学年別】で見ると、「ビデオ店で借りて自宅や友達の家で見たことがある」（初男27.7%、初女16.2%、中男19.1%、中女11.3%、高男15.5%、高女6.6%）は初等男子が一番多く、「ビデオ店の中で見たことがある」（初男4.2%、初女3.4%、中男5.9%、中女1.0%、高男5.3%、高女1.1%）は中学校男子が最も多いが、ほかは全て高校男子が多い。

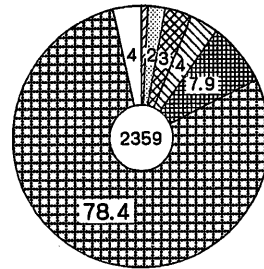
### ④ 日本の童謡や大衆歌謡の接触頻度（図8）

全体として、(2)で触れたとおり日本の大衆歌謡への〔接触総数〕は37.9%だが、接触ルートを細かく聞いていくと、「衛星放送を通してみる」（39.8%）が最も高く、次いで「ラジオで聞く」（22.5%）、「友達に借りて聞く」（19.4%）、「友達の家で聞く」（17.9%）、「日本の本やCDを売っている店で聞く」（17.2%）など、入手困難なこともあって（Q2, Q3参照）買って聞くことは少ない。〔頻度〕はどれも「数ヶ月に数回」が高く、それほど頻繁には接していない。一番接している「衛星放送を通してみる」で「数ヶ月に数回」（14.7%）、「一週間に数回」（9.9%）、「一ヶ月に数回」（5.9%）、「ほぼ毎日」（4.1%）といった具合である。「日本の童謡や大衆歌謡について人と話す」（24.7%）のは他の文化に比べやや少ない。

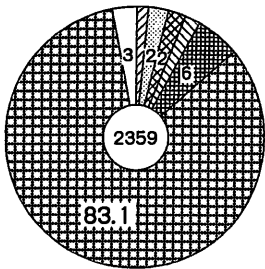
①衛星放送を通して見る



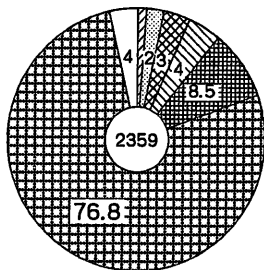
⑤友達や先輩、後輩の家で聞く



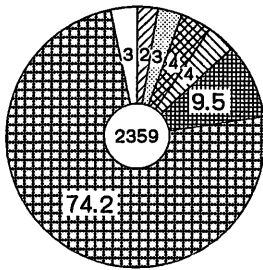
②路上店でテープを買って聞く



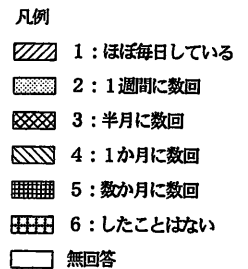
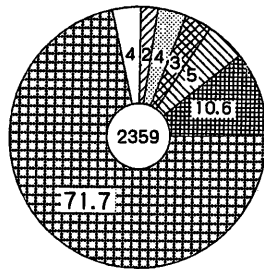
⑥友達や先輩、後輩に借りて聞く



③ラジオで聞く



⑦日本の童謡や大衆歌謡について他の人と話す



④日本の本やCDを売っている店で聞く

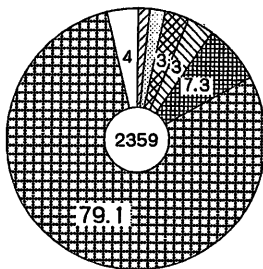


図8 日本の童謡や大衆歌謡の接触頻度

【性別】では、どの接触ルートにおいても男子の方が〔総数〕も〔頻度〕もやや高い傾向にある。【学年別】では、「衛星放送を通して見る」(初—31.4%、中—46.7%、高—41.8%)は中学生が高いが、「友達や先輩に借りて聞く」(初—8.8%、中—18.6%、高—31.6%)のは学年が上がるに従って〔総数〕は増える。「ラジオで聞く」(初—23.0%、中—21.4%、高—19.1%)のは学年が上がるに従って〔総数〕は減る。また、「日本の童謡や大衆歌謡について人と話す」(初男13.9%、初女17.8%、中男25.2%、中女25.1%、高男40.9%、高女25.2%)のは学年が上がるに従って〔総数〕が増えており、中学校・高等学校では男子の方が高いが、初等学校では女子の方が高い。

#### ⑤ コンピューターやテレビゲームの有無 (図9)

全体として、「韓国製のコンピューターを持っている」(65.5%)が一番多く、「韓国製のテレビゲーム機を持っている」(40.7%)、「日本製テレビゲーム機を持っている」(24.7%)、「日本以外の外国製コンピューターを持っている」(6.3%)の順で、「日本製のコンピューターを持っている」は2.1%しかない。

【性別】では、「韓国製テレビゲーム機を持っている」(男子37.5%、女子43.9%)、「日本製テレビゲーム機を持っている」(男子28.5%、女子20.8%)「韓国製コンピューターをもっている」(男子68.8%、女子62.2%)というように男子の方が所有者の割合が高い。【学年別】では、「韓国製コンピューターを持っている」(初—59.5%、中—73.0%、高65.2%)、「日本製テレビゲーム機を持っている」(初—24.1%、中—30.0%、高—20.3%)は中学校が最も高くなっているが、「韓国製のテレビゲーム機を持っている」(初—51.1%、中—42.7%、高—27.2%)は学年が上がるに従って減る。

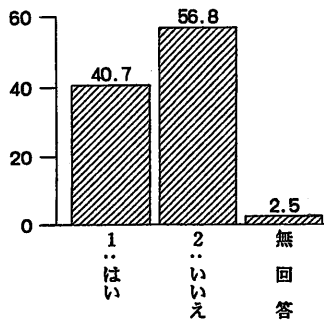
#### ⑥ テレビゲームの利用頻度 (図10)

全体として、「韓国製テレビゲームを一人でする」(56.8%)、「日本製テレビゲームを一人でする」(36.1%)、「韓国製テレビゲームを何人かでする」(50.1%)、「日本製テレビゲームを何人かでする」(35.7%)といったように何人かでやるより一人でやる方がやや多い。これはテレビゲームの性格上の問題だと思われる。頻度は、「数ヶ月に数回」が一番高く、それほど高い頻度で接していない。「日本製ゲームをゲームセンターでする」(53.0%)、「韓国製ゲームをゲームセンターでする」(50.2%)と日本製の方が多くなっている。「日本製ゲームについて何人かで話をする」(37.8%)というのは、たとえ一人でゲームをやっているとしても友達と情報を交換しながら進めていることのあらわれだと思われる。日本の翻訳漫画について高い数値である。

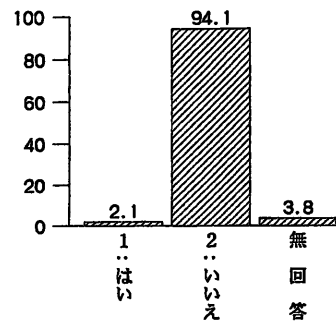
【性別】では、韓国製テレビゲームに関して、一人でする場合にはやや男子の方が多いが、何人かでする場合はやや女子の方が多くなっている〔総数〕(一人：男子58.1%、女子55.5%/何人か：男子48.0%、女子51.7%)日本製のテレビゲームに関して、〔総数〕(一人：男子45.5%、女子26.3%/何人か：男子46.1%、女子25.4%)は男子の方が多い。〔頻度〕は韓国製(一人：男子27.1%、女子18.8%/何人か：男子16.3%、女子13.9%)日本製(一人：男子21.9%、女子8.7%/何人か：男子15.2%、女子5.4%)のどちらも男子の方が高い。ゲームセンターでするのは、韓国製のゲーム(男子62.3%、女子37.9%)も日本製のゲーム(男子71.6%、女子33.9%)も男子が多い。【学年別】では、日本製ゲームを

する〔総数〕(一人：初—29.6%、中—43.0%、高—35.7%/何人か：初27.8%、中—43.6%、高—36.7%)は中学校が高く、ゲームセンターである場合も日本製・韓国製共に同様である。韓国製ゲームをする〔総数〕(一人：初—59.5%、中—60.8%、高—49.4%/何人か：初—57.0%、中—53.0%、高—39.3%)は、何人かである場合に初等学校がもっとも高く、〔頻度〕では一人、何人かの両方で初等学校が高くなっている。

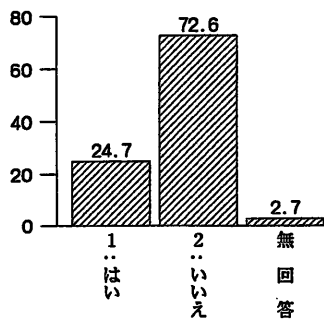
①韓国製テレビゲーム機を持っている  
件数=2359



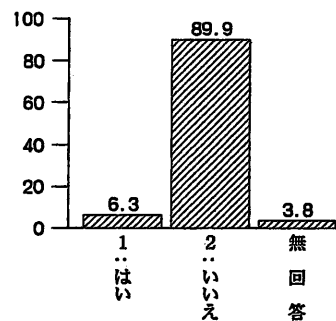
④日本製コンピューターを持っている  
件数=2359



②日本製テレビゲーム機を持っている  
件数=2359



⑤日本以外の外国製コンピューターを持っている  
件数=2359



③韓国製コンピューターを持っている  
件数=2359

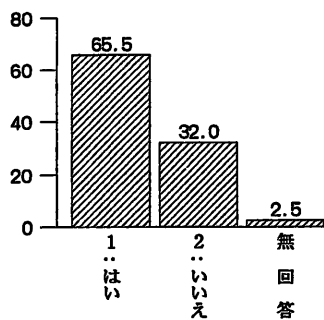
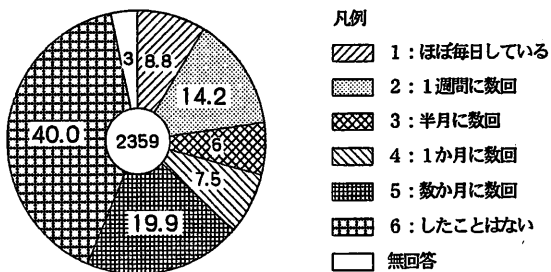
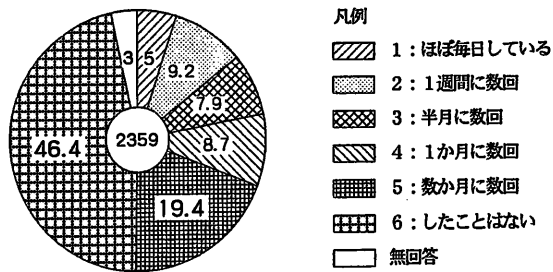


図9 コンピューターやテレビゲームの有無

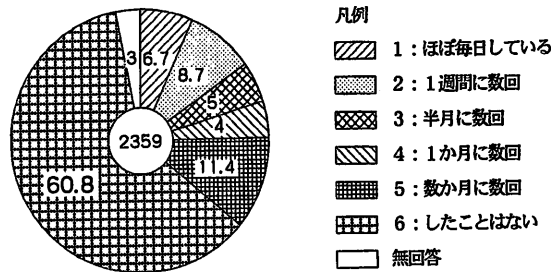
①韓国製テレビゲームを一人でする



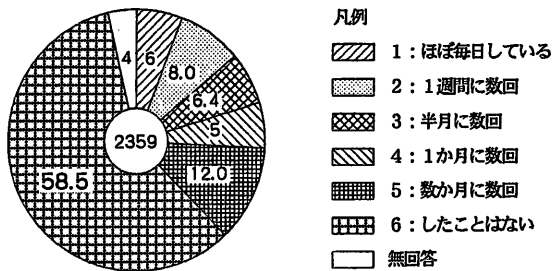
⑥韓国製ゲームをゲームセンターでする



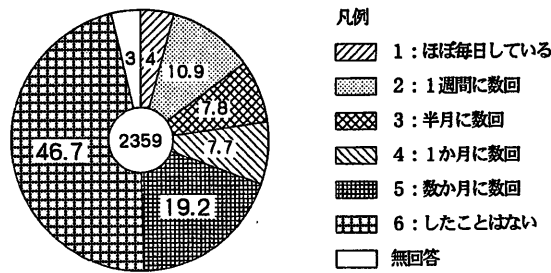
②日本製テレビゲームを一人でする



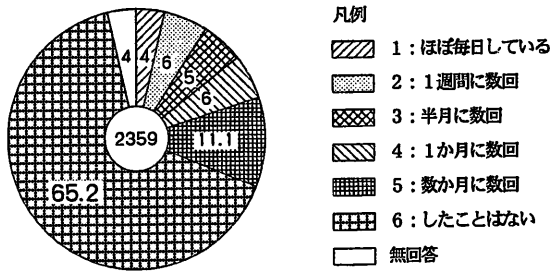
⑦日本製ゲームについて何人かで話をする



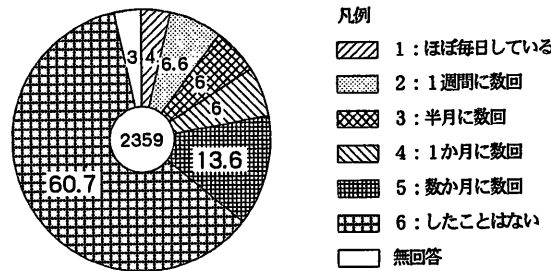
③韓国製テレビゲームを何人かでする



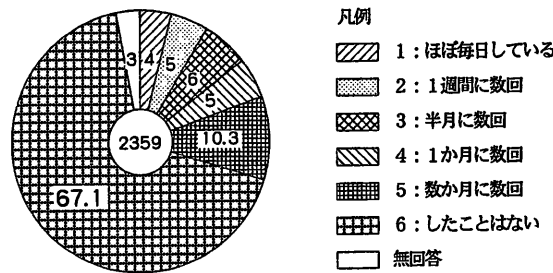
⑧韓国製ゲームを友人に借りて使う



④日本製テレビゲームを何人かでする



⑨日本製ゲームを友人に借りて使う



⑤日本製ゲームをゲームセンターでする

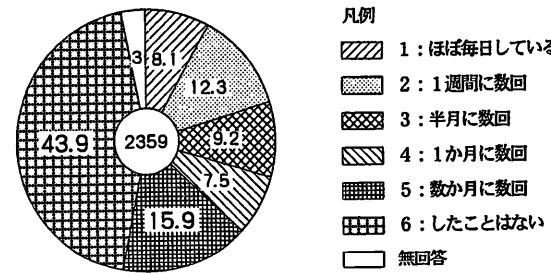


図10 テレビゲームの利用頻度

⑦ 日本の写真や雑誌に対する読み方

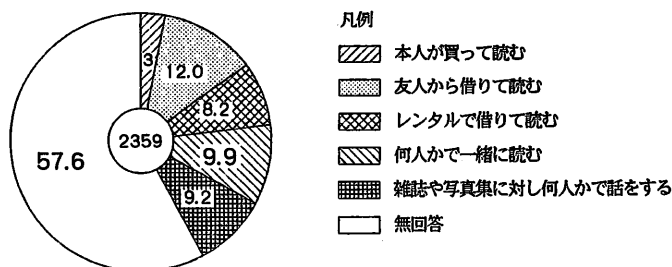


図11 日本の写真や雑誌に対する読み方

日本の写真や雑誌に対する接触頻度自体が低く、全体でも「無回答」が57.6%と多い。では、どのような接触の仕方をしているかという、「友人から借りて読む」が12.0%と最も多く、「何人かで一緒に読む」(9.9%)、「雑誌や写真に対

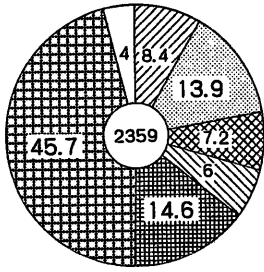
し何人かで話をする」(9.2%)と続いており、「本人が買って読む」は3.2%と最も低く、友人などを通しての接触が主である。【学年別】では、「友人から借りて読む」(初—6.1%、中—13.9%、高—16.2%)が学年が上がるほど高くなり、「写真や雑誌に対し何人かで話をする」(初—10.0%、中—9.6%、高—8.3%)は学年が上がるほど低くなっている。【性学年別】では、「友人から借りて読む」(初男—5.7%、初女—6.5%、中男—18.6%、中女—9.4%、高男—23.4%、高女—8.5%)は中高生男子の割合が高い。「レンタルで借りて読む」(初男—9.7%、初女—6.0%、中男—8.5%、中女—11.1%、高男—6.6%、高女—7.4%)、「雑誌や写真集に対し何人かで話をする」(初男—10.2%、初女—9.7%、中男—8.0%、中女—11.1%、高男—7.4%、高女—9.3%)においては中学校女子の割合が高くなっている。

⑧ CG (コンピューターゲーム) やインターネットの利用頻度 (図12)

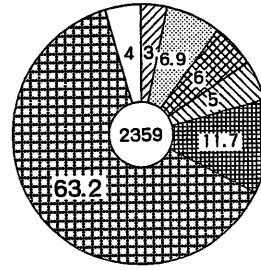
全体として、「韓国製CGをひとりでする」(50.4%)が最も多く、「韓国製CGを何人かでする」(42.6%)、「日本製CGを一人でする」(38.8%)、「日本製CGを何人かでする」(32.5%)と韓国製CGに接する方が多いが、少なくとも4割近くが日本製のCGに接している。「インターネットを通してCGをする」(17.4%)子が少ないのはインターネットの普及率が低いからだと思われる。「日本製CGについて何人かで話す」(25.3%)ことは日本製ゲームに比べ少ないが、約2割強の子にとってコミュニケーションのきっかけや手段となっている。頻度は、一人でするのは「数ヶ月に数回」(韓国製CG—14.6%、日本製CG—10.6%)と「一週間に数回」(韓国製CG—13.9%、日本製CG—10.5%)が高い。何人かでするのは「数ヶ月に数回」(韓国製CG—15.4%、日本製CG—11.7%)が高い。

【性別】では、「韓国製CGを一人でする」(〔総数〕男子59.7%、女子41.1%、〔頻度〕男子30.4%、女子14.1%)、「日本製CGを一人でする」(〔総数〕男子53.2%、女子23.8%/〔頻度〕男子27.0%、女子8.2%)というように男子の方が〔総数〕も〔頻度〕も高く、女子は特に日本製CGにあまり接していない。【学年別】では、〔総数〕、〔頻度〕共に中学校がもっとも高いただし、「韓国製CGを何人かでする」は初等学校が最も高い。特に韓国製・日本製ともに一人でやる場合に高い。【性学年別】でみると、中学校男子は一人でCGに接する割合が高く、「韓国製CGを一人でする」(〔総数〕69.1%、〔頻度〕43.3%)、「日本製のCGを一人でする」(〔総数〕67.0%、〔頻度〕42.0%)「日本製CGについて何人かで話す」の〔頻度〕も最も高くなっている(〔頻度〕初男8.4%、初女2.3%、中男24.5%、中女4.2%、高男12.5%、高女1.7%)。

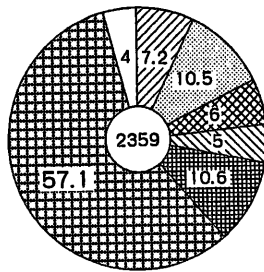
①韓国製CGを一人でする



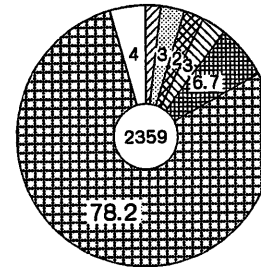
④日本製CGを何人かでする



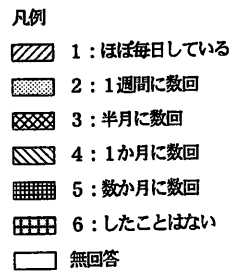
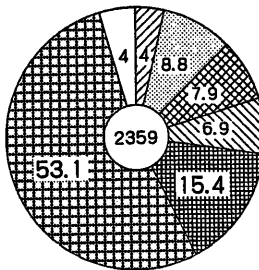
②日本製CGを一人でする



⑤インターネットを通してCGをする



③韓国製CGを何人かでする



⑥日本製CGについて何人かで話す

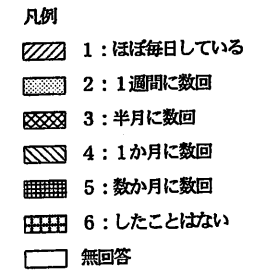
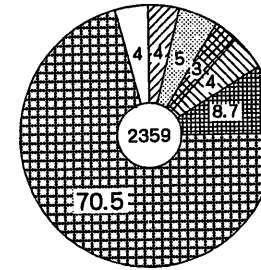
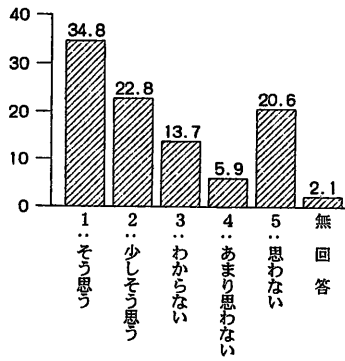


図12 CGやインターネットの利用頻度

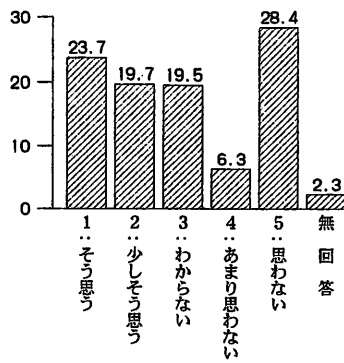
(5) 日本に関連するものの印象 (図13)

① 「面白い」

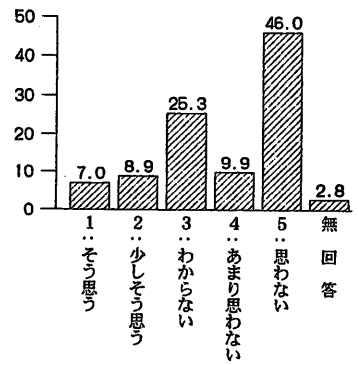
①日本の翻訳漫画  
件数=2359



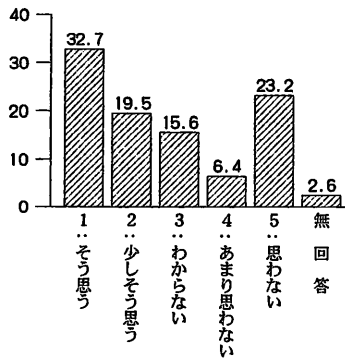
②日本の映画  
件数=2359



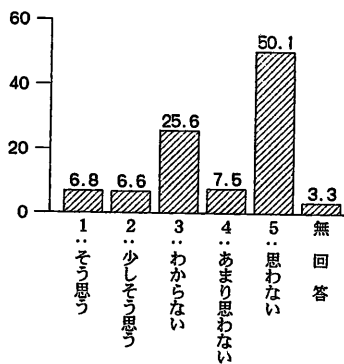
③日本の大衆歌謡  
件数=2359



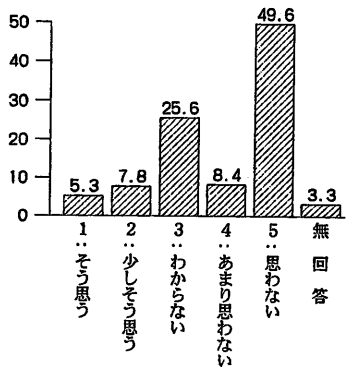
④日本のゲーム  
件数=2359



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=2359



⑥日本の衛星放送  
件数=2359



⑦インターネット上の日本文化  
件数=2359

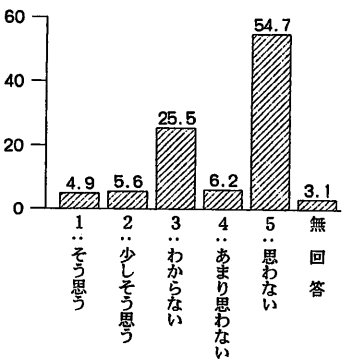
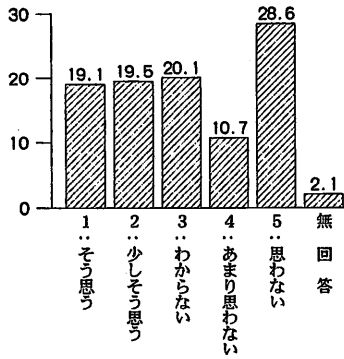


図13 日本に関連するものの印象①「面白い」

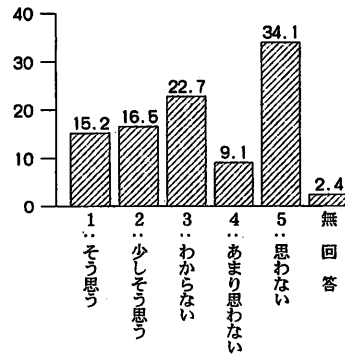


② 「カッコいい」

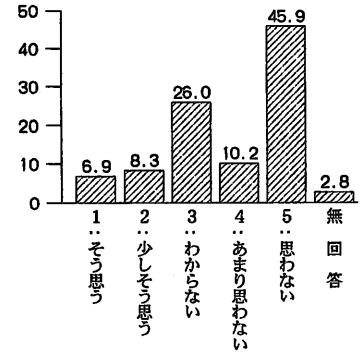
①日本の翻訳漫画  
件数=2359



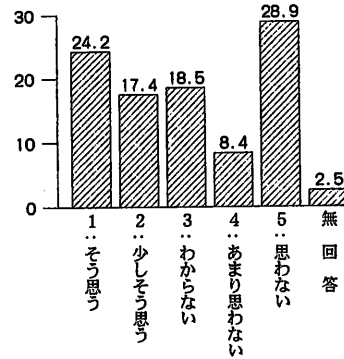
②日本の映画  
件数=2359



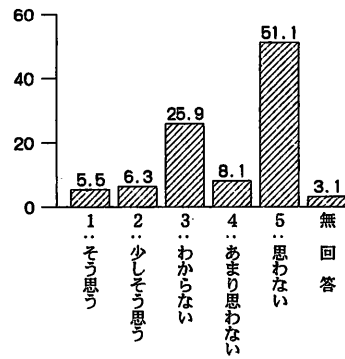
③日本の大衆歌謡  
件数=2359



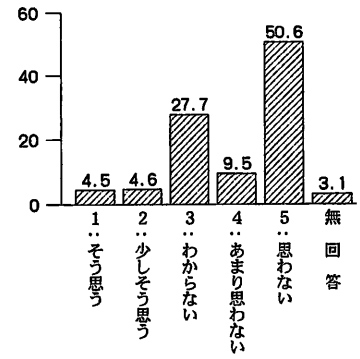
④日本のゲーム  
件数=2359



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=2359



⑥日本の衛星放送  
件数=2359



⑦インターネット上の日本文化  
件数=2359

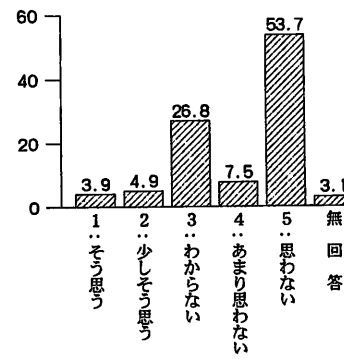
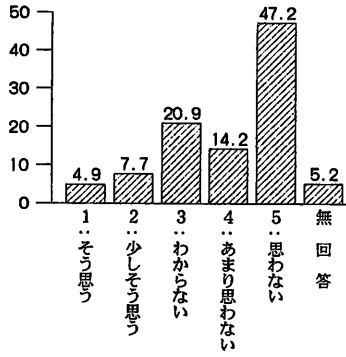


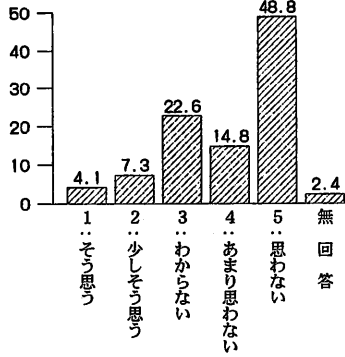
図13 日本に関連するものの印象②「カッコいい」

③ 「役に立つ」

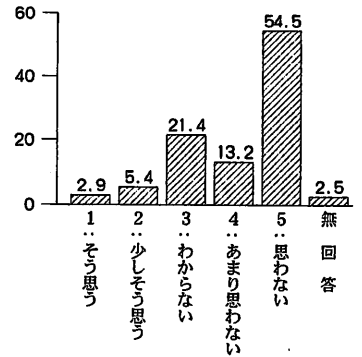
①日本の翻訳漫画  
件数=2359



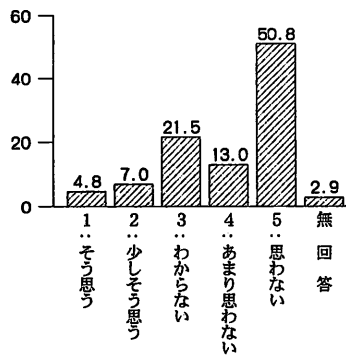
②日本の映画  
件数=2359



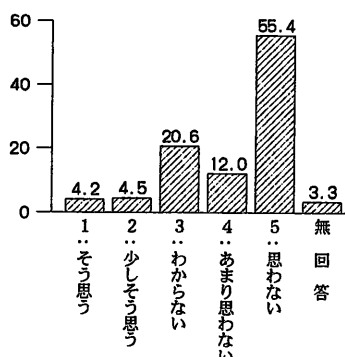
③日本の大衆歌謡  
件数=2359



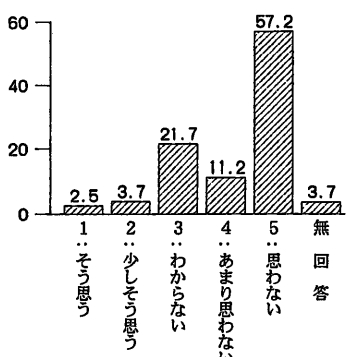
④日本のゲーム  
件数=2359



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=2359



⑥日本の衛星放送  
件数=2359



⑦インターネット上の日本文化  
件数=2359

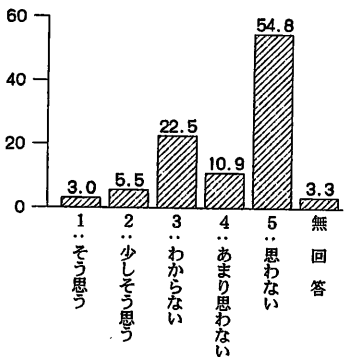
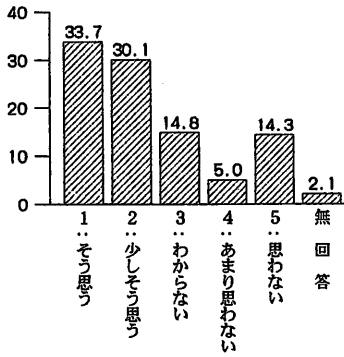


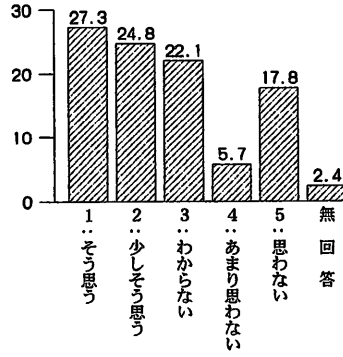
図13 日本に関連するものの印象③「役に立つ」

④ 「いやらしい」

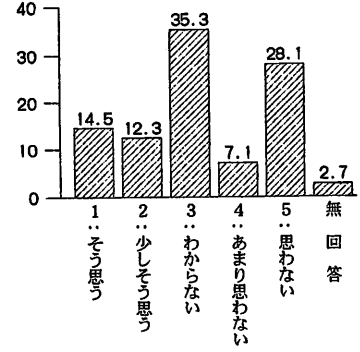
①日本の翻訳漫画  
件数=2359



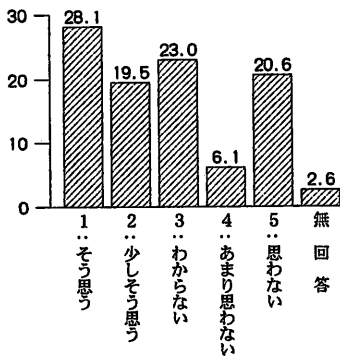
②日本の映画  
件数=2359



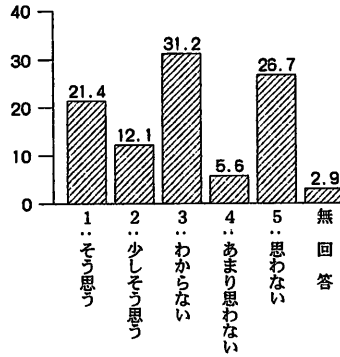
③日本の大衆歌謡  
件数=2359



④日本のゲーム  
件数=2359



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=2359



⑥日本の衛星放送  
件数=2359

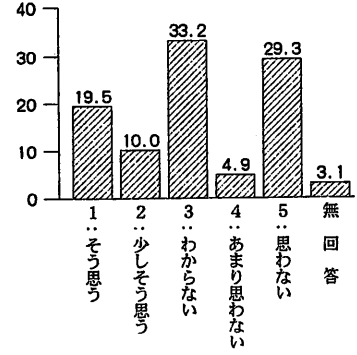
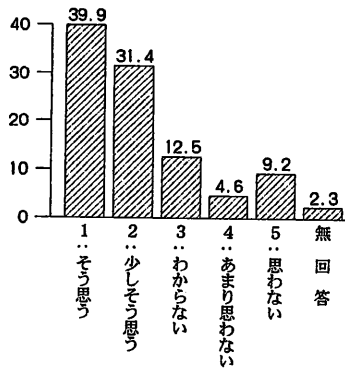


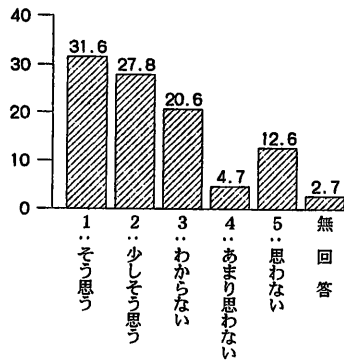
図13 日本に関連するものの印象④「いやらしい」

⑤ 「暴力的」

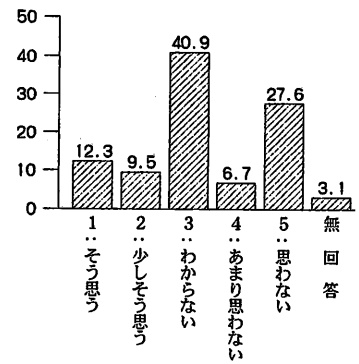
①日本の翻訳漫画  
件数=2359



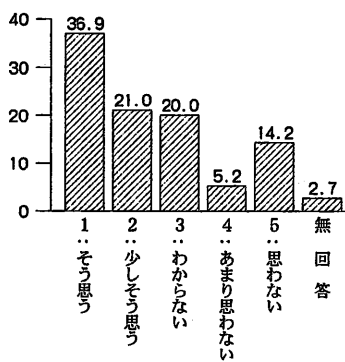
②日本の映画  
件数=2359



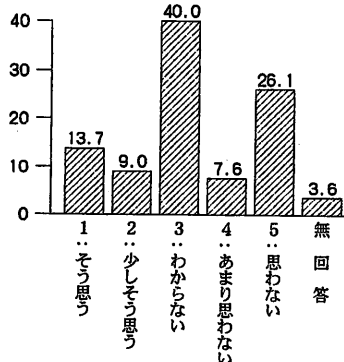
③日本の大衆歌謡  
件数=2359



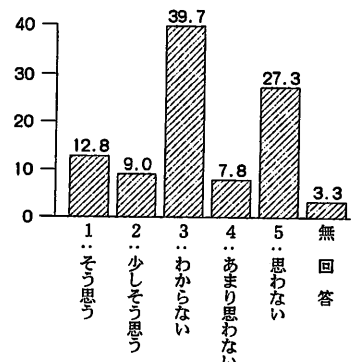
④日本のゲーム  
件数=2359



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=2359



⑥日本の衛星放送  
件数=2359



⑦インターネット上の日本文化  
件数=2359

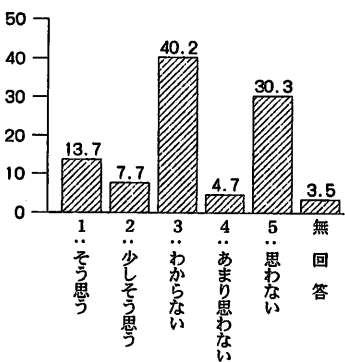
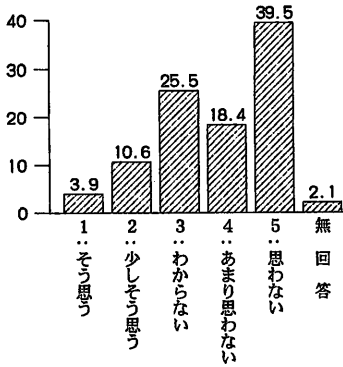


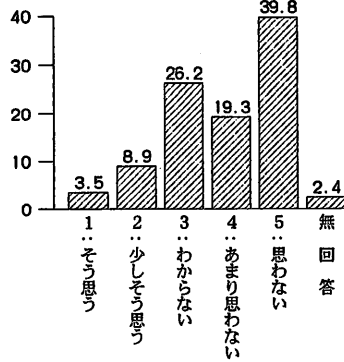
図13 日本に関連するものの印象⑤「暴力的」

⑥ 「罪悪感」

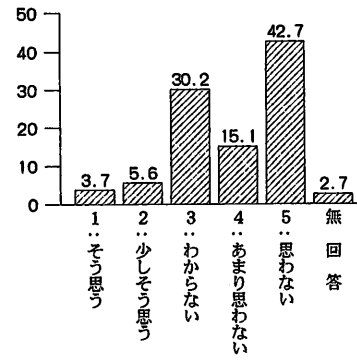
①日本の翻訳漫画  
件数=1552



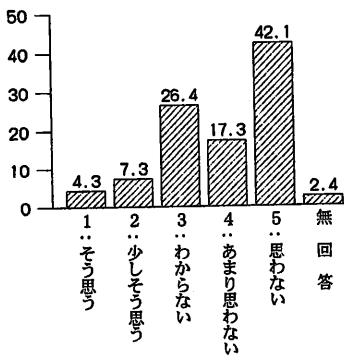
②日本の映画  
件数=1552



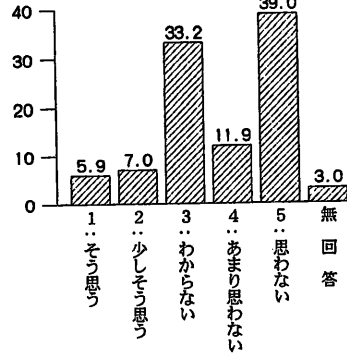
③日本の大衆歌謡  
件数=1552



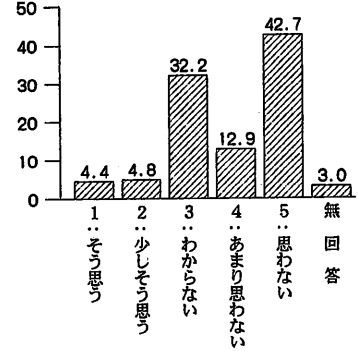
④日本のゲーム  
件数=1552



⑤日本の雑誌の写真集  
件数=1552



⑥日本の衛星放送  
件数=1552



⑦インターネット上の日本文化  
件数=1552

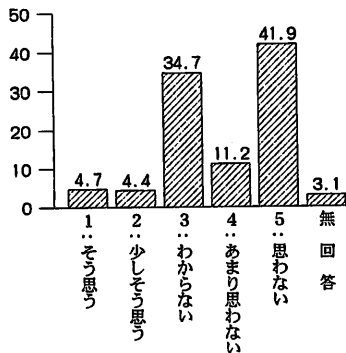


図13 日本に関連するものの印象⑥「罪悪感」

\* 「面白い」「カッコいい」「役に立つ」「いやらしい」「暴力的」は初等学校・中学校・高等学校に答えてもらってるが、「罪悪感」は初等学校には難しいので、中学校・高等学校にしか答えてもらっていない。

『そう思う』『少しそう思う』を『肯定派』、『あまり思わない』『思わない』を『否定派』とする。

### ① 日本の翻訳漫画

全体として、日本の漫画は約6割が「面白く」(57.6%)、約4割が「カッコいい」(38.6%)と肯定する反面、6割以上が「いやらしい」(63.8%)、7割が「暴力的」(71.3%)であるという印象を持っている。「役に立つ」(12.6%)とはほとんど思っていない。「罪悪感」は1割(14.5%)が肯定している。

【性別】では、「面白い」(肯定：男子61.6%、女子53.4%)、「カッコいい」(肯定：男子44.5%、女子32.5%)、「暴力的」(肯定：男子74.1%、女子68.5%)は女子より男子のほうが多く、「いやらしい」(肯定：男子61.6%、女子66.1%)、は女子のほうが多い。「罪悪感」『わからない』(男子25.3%、女子25.6%)が多く、「罪悪感」(肯定：男子15.8%、女子13.3%)はやや女子のほうが多い。【学年別】では、「面白い」(肯定：初—42.7%、中—64.4%、高—66.8%)、「カッコいい」(肯定：初—31.5%、中—45.6%、高—39.3%)、「いやらしい」(肯定：初—51.0%、中—67.7%、高—74.4%)、「暴力的」(肯定：初—64.5%、中—71.8%、高—79.0%)は学年が上がるに従って増えるが、「罪悪感」(肯定：中—16.4%、高—12.6%)はやや中学が高い。【性学年別】に見ると、「面白い」(否定：初男38.1%、初女39.2%、中男17.2%、中女23.4%、高男14.7%、高女26.6%)「カッコいい」(否定：初男46.1%、初女46.1%、中男27.1%、中女37.5%、高男28.5%、高女51.1%)が中学校と高等学校において男子より女子の方が否定が多い。初等学校は男女ほぼ同じである。「罪悪感」(肯定：中男17.0%中女15.8%、高男14.4%、高女10.4%)は中学・高等学校とも男子のほうが多い。

### ② 日本の映画 (アニメ)

全体として、4割以上が「面白い」(43.4%)と思う反面、5割が「いやらしい」(52.1%)、6割近くが「暴力的」(59.4%)であるという印象を持っている。「カッコいい」は31.7%が肯定で、4割以上(43.2%)が否定している。「役に立つ」も11.4%しかいない。「罪悪感」は12.4%が肯定している。

【性別】では、「面白い」(肯定：男子46.2%、女子40.5%)、「いやらしい」(肯定：男子52.9%、女子51.1%)、「暴力的」(肯定：男子62.3%、女子56.4%)は女子より男子のほうが多い。「罪悪感」は『わからない』(男子25.3%女子27.0%)が多いが、『肯定派』(男子14.6%、女子10.2%)は男子の方が多い。【学年別】では、「面白い」(肯定：初—29.4%、中—51.5%、高—50.0%)、「いやらしい」(肯定：初—43.3%、中—54.4%、高—59.5%)、「暴力的」(肯定：初—53.9%、中—57.3%、高—68.2%)は学年が上がるに従って増えるが、「罪悪感」(肯定：中—13.3%、高—11.7%)は少し減る。【性学年別】に見ると、「面白い」(肯定：中男53.1%、中女50.0%、高男53.8%)と半数以上が肯定している。「面白い」『否定派』(初男47.6%、初女49.8%、中男26.5%、中女30.3%、高男20.6%、高女33.2%)はどの

学年も男子より女子の方が多い。また「暴力的」『否定派』が初等学校（男子24.1%、女子22.0%）に多い。「罪悪感」（肯定：中男13.4%、中女12.8%、高男15.8%、高女7.4%）は中学校・高等学校ともに男子の方が多い。

### ③ 日本の大衆歌謡

全体として、「面白い」（15.9%）も「かっこいい」（15.2%）も「役に立つ」（8.3%）も肯定は少なく、5割から6割が否定している。「いやらしい」（肯定26.8%/否定35.2%）、「暴力的」（肯定21.8%/否定34.3%）、は否定の方が多いが、2割が肯定している。また『わからない』が「いやらしい」（35.3%）と「暴力的」（40.9%）で多い。「罪悪感」『肯定派』は9.3%で、5割以上（57.8%）は感じておらず、3割（30.2%）は『わからない』としている。

【性別】では、「かっこいい」『否定派』（男子53.7%、女子58.5%）はやや女子の方が多い。「いやらしい」（男子29.8%、女子41.0%）「暴力的」（男子36.1%、女子45.8%）で『わからない』は男子より女子の方が多い。【性学年別】を見ると、「いやらしい」（肯定：初男22.4%、初女25.4%、中男35.6%、中女21.1%、高男33.2%、高女24.5%）と中男・高男で3割以上が肯定している。「暴力的」（肯定：初男21.2%、初女20.5%、中男25.7%、中女17.7%、高男26.4%、高女20.6%）は男子は学年が高いほうが多い。「罪悪感」（肯定：中男10.6%、中女7.6%、高男13.7%、高女5.2%）は、漫画や映画と同じく、男子の方が多い。

### ④ 日本のゲーム

全体として、5割以上が「面白く」（52.2%）、4割以上が「かっこいい」（41.6%）と思う反面、4割以上が「いやらしい」（47.6%）、5割以上が「暴力的」（57.9%）という印象を持っている。

【性別】では、「面白い」（肯定：男子67.7%、女子36.2%/否定：男子18.1%、女子41.5%）と「かっこいい」（肯定：男子57.6%、女子25.3%/否定：男子25.7%、女子49.2%）が男子は肯定的で、女子は否定的である。「いやらしい」（肯定：男子53.7%、女子41.4%/否定：男子24.8%、女子28.8%）と「暴力的」（肯定：男子64.4%、女子51.3%/否定：男子18.3%、女子20.7%）は男女とも肯定的であるが、男子の方がより多い。【学年別】では、「面白い」（肯定：初—41.0%、中—60.7%、高55.8%）、「かっこいい」（肯定：初—34.7%、中—47.4%、高—43.6%）、「いやらしい」（肯定：初—35.6%、中—49.5%、高—58.9%）、「暴力的」（初—52.5%、中—57.4%、高—65.2%）というように、「面白い」「かっこいい」は中学が最も多いが、「いやらしい」「暴力的」は学年が上がるに従って『肯定派』が増える傾向にある。【性学年別】で見ると、「面白い」（肯定：初男57.9%、初女23.3%、中男76.5%、中女45.6%、高男70.8%、高女39.6%）はどの学年も男子の方が多く、中学男子・高校男子では7割以上がそう感じている。「かっこいい」（肯定：初男49.9%、初女18.8%、中男65.5%、中女30.3%、高男58.9%、高女26.9%）もどの学年も男子の方が多く、中学男子では6割がそう感じている。以上の二つの印象は男女の差が大きい。これに対し、「いやらしい」（肯定：初男36.6%、初女34.6%、中男58.5%、中女40.9%、高男67.2%、高女49.7%）、「暴力的」（肯定：初男61.1%、初女43.4%、中男65.7%、中女49.5%、高男67.8%、高女

62.4%) はどの学年も男子が多いことは同じだが、男女の差が「面白い」「カッコいい」に比べ少ない。「罪悪感」(肯定: 中男14.2%、中女12.5%、高男12.7%、高女6.9%)は中学校が多く、高校女子が低い。

#### ⑤ 日本の雑誌・写真集

全体として、「面白い」(肯定13.4%、否定57.6%)、「カッコいい」(肯定11.8%、否定59.2%)、「役に立つ」(肯定8.7%、否定67.4%)、「いやらしい」(肯定33.5%、否定32.3%)、「暴力的」(肯定22.7%、否定33.7%)というように「いやらしい」という印象が強く、「暴力的」だと2割以上が感じ、「面白い」「カッコいい」「役に立つ」は否定的である。「罪悪感」は12.9%が肯定している。

【性別】では、「面白い」(肯定: 男子17.0%、女子9.5%)「カッコいい」(肯定: 男子14.4%、女子9.1%)「暴力的」(肯定: 男子24.6%、女子20.6%)は男子の方が多い。「いやらしい」(肯定: 男子38.2%、女子28.7%)も男子の方が多い。【学年別】では、「面白い」(肯定: 初-5.2%、中-17.7%、高-17.6%)「カッコいい」(肯定: 初-7.3%、中-15.5%、高-12.7%)「いやらしい」(肯定: 初-24.7%、中-35.9%、高-40.6%)は初等学校と中学校・高等学校の差があるが、「暴力的」(肯定: 初-22.5%、中-22.6%、高-23.2%)はほぼ同じである。【性学年別】に見ると、「面白い」(肯定: 初男5.5%、初女5.0%、中男22.6%、中女13.0%、高男23.6%、高女11.3%)「カッコいい」(肯定: 初男7.2%、初女7.4%、中男20.1%、中女11.1%、高男16.5%、高女8.8%)は中学男子と高校男子が他に比べて多い。「いやらしい」(肯定: 初男22.9%、初女28.7%、中男43.5%、中女28.6%、高男48.9%、高女31.6%)はほぼ男女とも学年が上がるに従って増え、高校女子で3割、中学男子で4割、高校男子で5割近くがそう感じている。「罪悪感」(肯定: 中男17.3%、中女10.6%、高男17.3%、高女6.0%)は中学男子・高校男子が多い。

#### ⑥ 日本の衛星放送

全体として、「面白い」(肯定13.1%、否定58.6%)、「カッコいい」(肯定9.1%、否定60.4%)、「役に立つ」(肯定6.2%、否定68.4%)、「いやらしい」(肯定29.5%、否定34.2%)、「暴力的」(肯定21.8%、否定35.1%)というように、どの印象も否定の方が多いのだが、その中でも比較的肯定が多いものは「いやらしい」と「暴力的」である。「罪悪感」は9.2%が肯定している。

【性別】では、「面白い」『否定派』(男子54.6%、女子61.4%)と「カッコいい」『否定派』(男子57.3%、女子62.7%)は男子より女子の方が多い。「いやらしい」(肯定: 男子34.7%、女子24.2%)、「暴力的」(肯定: 男子37.4%、女子32.8%)は男子の方が多い。【学年別】では、「面白い」(否定: 初-68.1%、中-54.1%、高-51.0%)は学年が低い方が否定的である。「カッコいい」(否定: 初-68.9%、中-54.7%、校-56.6%)は初等学校が低い。「いやらしい」(肯定: 初-20.6%、中-31.0%、高-38.1%)は学年が高い方が肯定的である。「暴力的」(肯定: 初-22.0%、中-19.1%、高-25.2%)は中学校が他と比べてやや低い。【性学年別】で見ると、「いやらしい」(肯定: 初男18.7%、初女22.5%、中男40.7%、中女21.7%、高男46.0%、高女29.7%/否定: 初男48.9%、初女41.6%、中男33.3%、中女33.5%、高男19.5%、高女28.8%)は初等学校では圧倒的に否定が多く、



中学校でも女子がやや否定が多いのに対し、中学男子・高校男子は4割が肯定し、高校女子は肯定も否定もほぼ同じである。

#### ⑦ インターネット上の日本文化

全体として「面白い」(肯定10.5%、否定60.9%)、「かっこいい」(肯定8.8%、否定61.2%)、「役に立つ」(肯定8.5%、否定65.7%)というようにプラスの印象に対しては1割前後で、6割が否定的である。また、「暴力的」(肯定21.4%、否定35.0%)というようにマイナスの印象に対しては肯定が2割、否定は半数以下である。「罪悪感」は肯定が約1割(9.1%)で、5割以上は否定している。

【性別】では、「面白い」(肯定：男子14.4%、女子6.6%/否定：男子56.9%、女子64.9%)と「かっこいい」(肯定：男子12.8%、女子4.8%/否定：男子57.6%、女子65.0%)は肯定が少なく、男子5割、女子6割が否定である。「暴力的」(肯定：男子23.0%、女子19.7%/否定：男子37.9%、女子31.9%)は肯定約2割、否定は3割以上で、男子が肯定的である。

【学年別】では、「面白い」(否定：初—72.4%、中—56.7%、高—53.0%)は学年が低い方が否定的で、「かっこいい」(否定：初—71.1%、中—56.0%、高—56.4%)もほぼ同じ傾向があるといえる。「暴力的」(肯定：初—20.2%、中—20.1%、高—24.4%/否定：初—44.9%、中—32.9%、高—26.3%)は肯定がどの学年も2割で、否定は学年が低い方が多い。【性学年別】で見ると、「罪悪感」(肯定：中男10.9%、中女5.9%、高男14.4%、高女4.9%)は男子が1割と女子に比べて多い。

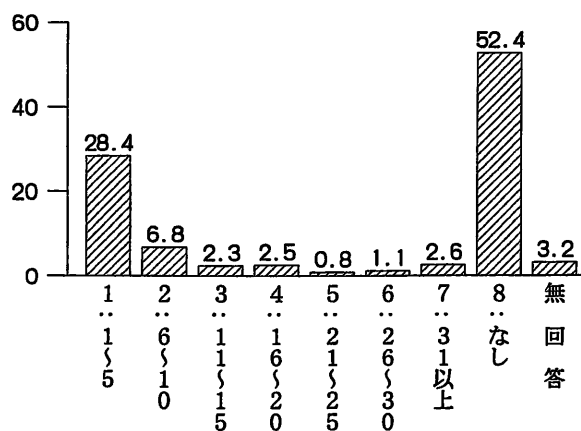
#### (6) 所有数 (図14)

まず、様々な物の所有者率を挙げてみたいと思う。

- 韓国語漫画の単行本 (44.5%)
- 韓国語の翻訳された単行本 (41.3%)
- 韓国語に翻訳されていない日本漫画の単行本 (11.8%)
- 韓国歌謡テープ (88.2%)
- 韓国歌謡CD (64.1%)
- 日本歌謡テープ (15.5%)
- 日本歌謡CD (13.6%)
- 韓国語に翻訳された日本漫画ビデオ (19.6%)
- 韓国語に翻訳されていない日本漫画ビデオ (11.2%)
- 日本のドラマビデオテープ (11.5%)
- 韓国のゲームソフトプログラム (48.3%)
- 日本のゲームソフトプログラム (33.1%)
- 日本のファッション雑誌 (12.5%)
- 日本の女性写真集 (13.9%)
- 日本の学用品 (67.0%)
- 日本で作られた服 (24.3%)
- 日本のキャラクター商品 (56.2%)

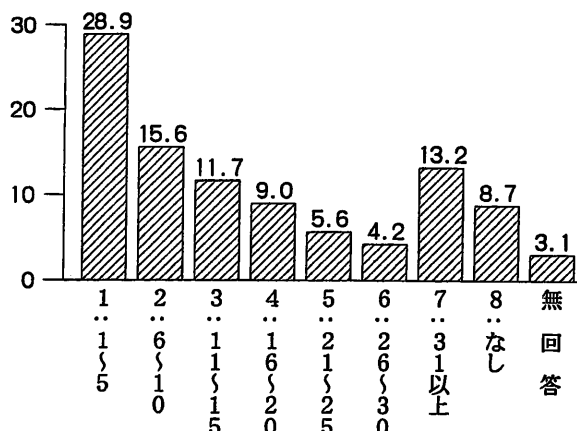
①韓国語漫画の単行本

件数=2359



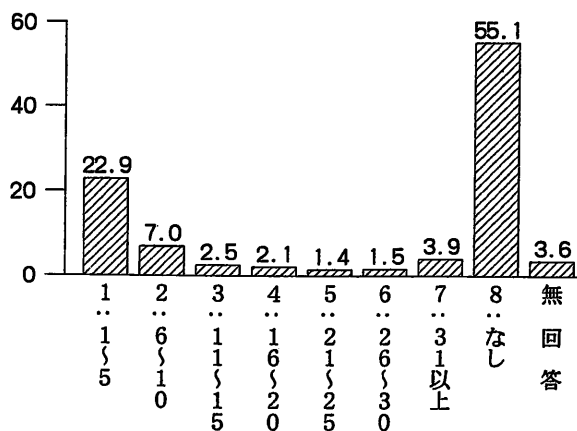
④韓国歌謡テープ

件数=2359



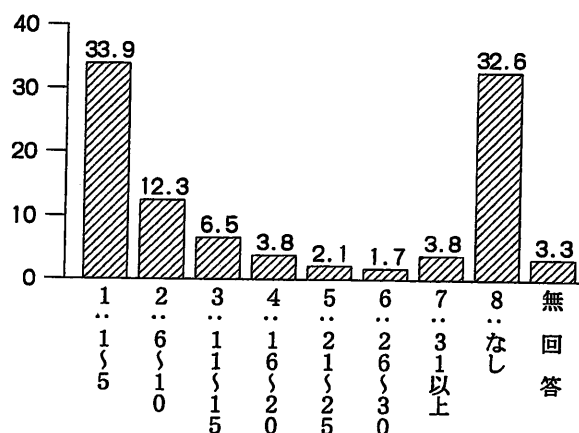
②韓国語に翻訳された単行本

件数=2359



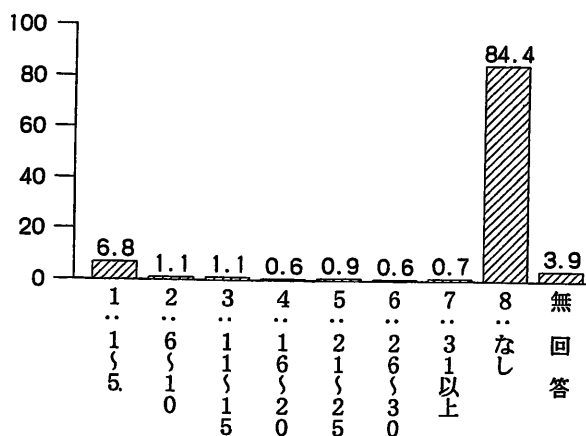
⑤韓国歌謡CD

件数=2359



③韓国語に翻訳されていない日本漫画の単行本

件数=2359



⑥日本歌謡テープ

件数=2359

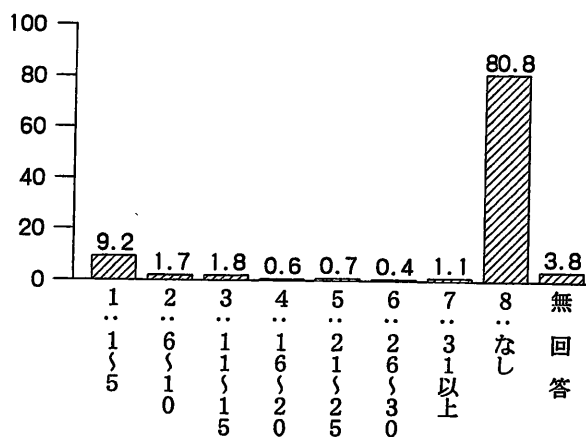
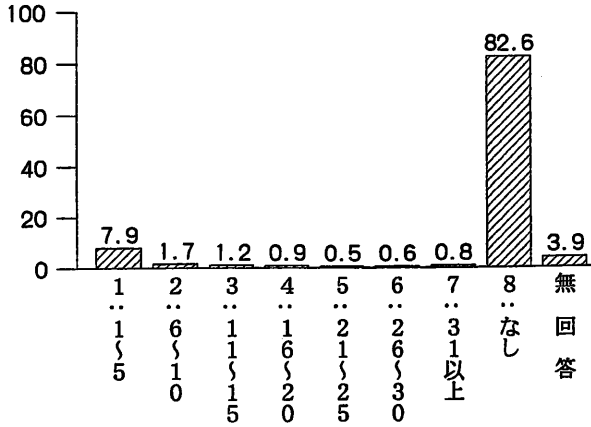


図14 所有数①

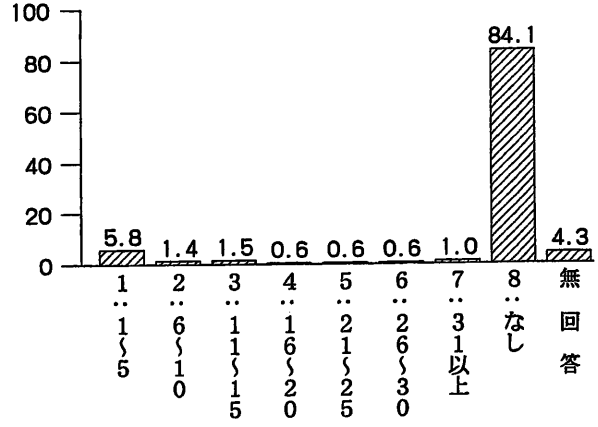
⑦日本歌謡CD

件数=2359



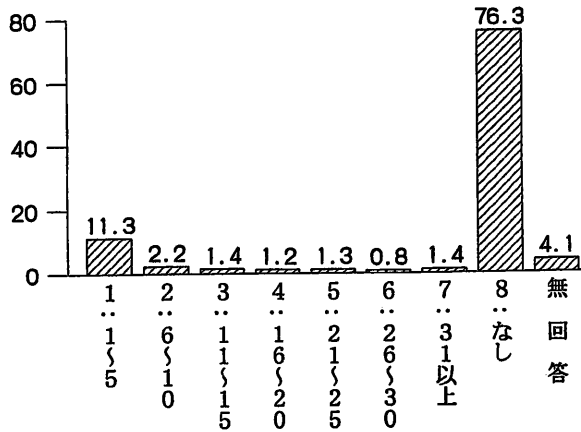
⑩日本のドラマビデオテープ

件数=2359



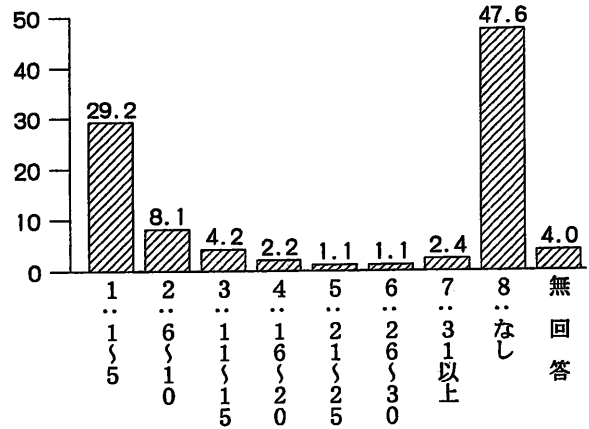
⑧韓国語に翻訳された日本漫画ビデオ

件数=2359



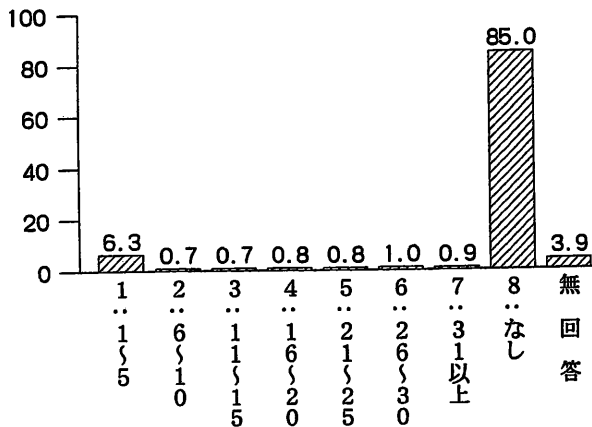
⑪韓国のゲームソフトプログラム

件数=2359



⑨韓国語に翻訳されていない日本漫画ビデオ

件数=2359



⑫日本のゲームソフトプログラム

件数=2359

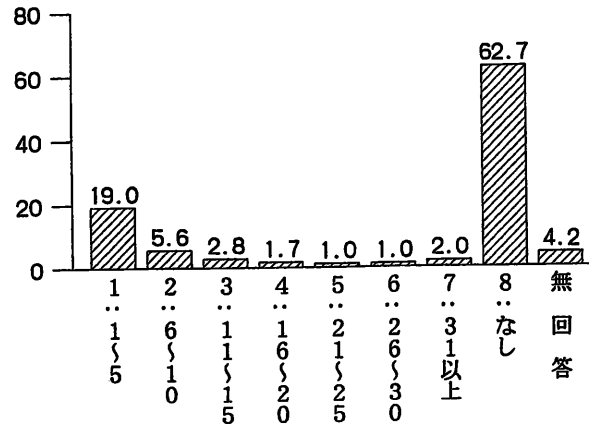
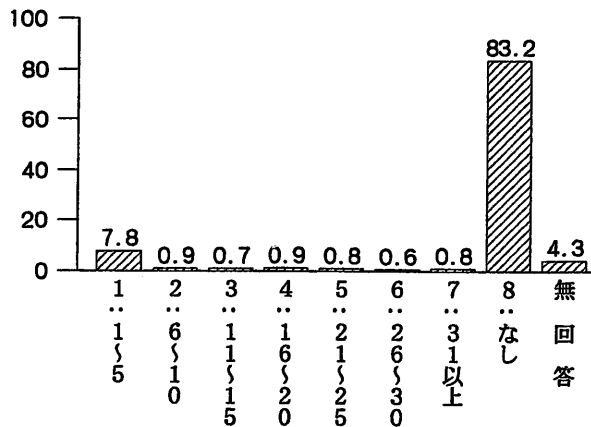
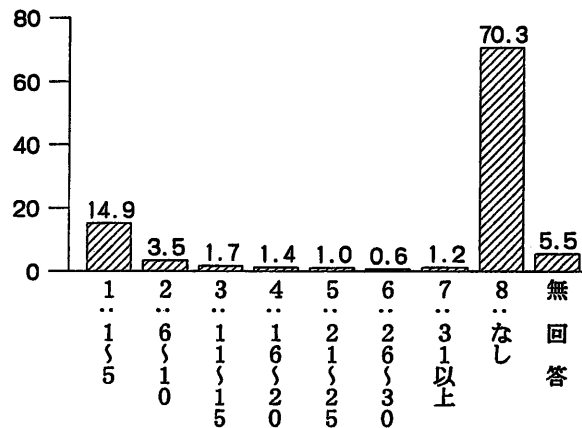


図14 所有数②

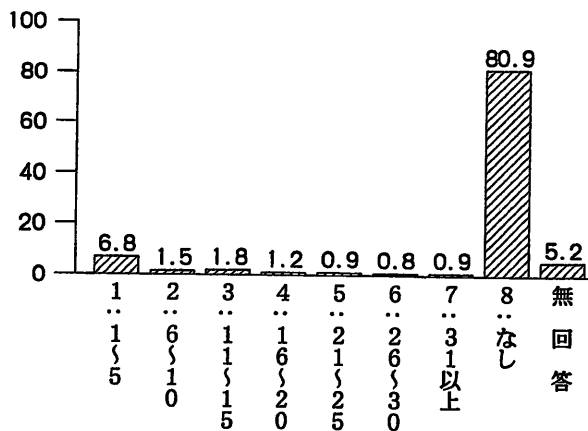
⑬日本のファッション雑誌  
件数=2359



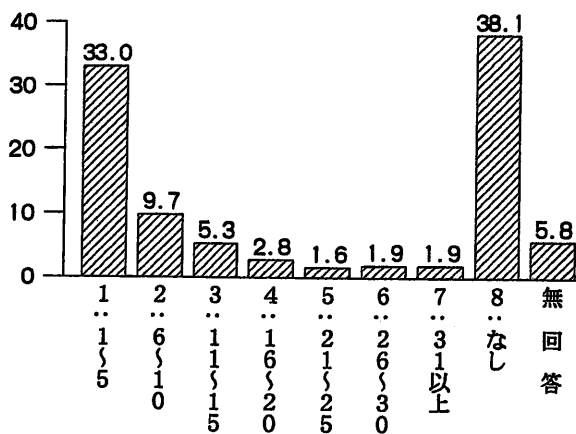
⑭日本でつくられた服  
件数=2359



⑮日本の女性写真集  
件数=2359



⑯日本のキャラクター商品  
件数=2359



⑰日本の学用品  
件数=2359

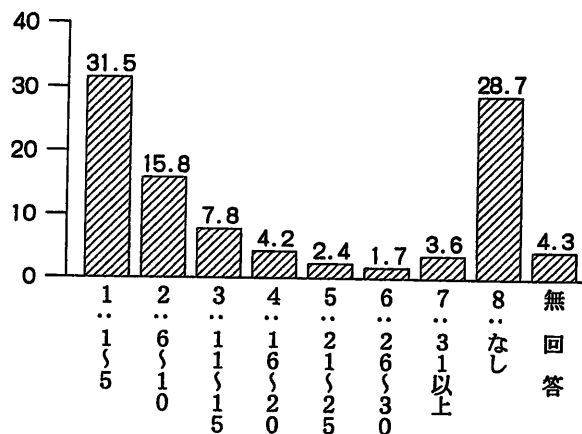


図14 所有数③

韓国の漫画・ゲームソフトは4割以上、CDは6割が所有しており、韓国歌謡のテープは約9割が所有している。それに対し日本に関するものは、「日本の学用品」を約7割が所有、「韓国語に翻訳された単行本」を約4割が所有、「日本のゲームソフトプログラム」を3割が所有、「日本で作られた服」を2割以上が所有、「日本のキャラクター商品」を5割以上が所有、その他も1～2割が所有している。韓国の物も日本の物も『1～5』所有しているのがほとんどで、所有数自体は少ない。

漫画に関して、「韓国語の漫画」(初男51.8%、初女33.2%、中男53.1%、中女38.3%、高男51.3%、高女38.9%)は男子で5割、女子は3割が所有、「韓国語に翻訳された漫画」(初男47.5%、初女26.1%、中男53.1%、中女34.5%、高男53.7%、高女32.6%)は男子4割以上、女子2割以上所有している。「韓国語に翻訳されていない日本の漫画」(初男14.0%、初女7.4%、中男19.3%、中女6.3%、高男17.9%、高女4.4%)は中学男子の約2割が所有している。

テープ・CDに関して、「韓国歌謡のテープ」は初等学校が8割(81.8%)、中学校が9割(91.6%)、高等学校が9割(92.1%)所有しており、「韓国歌謡のCD」は初等学校が5割(50.3%)、中学校が約7割(69.1%)、高等学校が7割(73.5%)所有している。また、「韓国歌謡テープ」だけは『31本以上』所有しているのが高校男子(25.6%)、高校女子(22.3%)で『1～5本』所有(高一男15.5%、高一女13.5%)より多い。「日本の歌謡テープ」(初男11.3%、初女8.6%、中男22.2%、中女9.3%、高男28.4%、高女12.3%)は中学男子が2割、高校男子が3割、その他で約1割が所有している。「日本歌謡のCD」(初男12.3%、初女8.8%、中男19.6%、中女8.4%、高男21.3%、高女9.9%)は初等学校を除いて、その他はテープに比べたらやや低いが、中学校男子・高校男子が2割前後で所有している。

ビデオに関して、「韓国語に翻訳された日本漫画のビデオ」(初男30.3%、初女19.0%、中男24.7%、中女11.0%、高男20.1%、高女12.3%)は初等学校男子が3割所有しており、他の学年も男子は2割以上、女子は1割以上が所有している。「韓国語に翻訳されていない日本漫画のビデオ」(初男12.9%、初女7.2%、中男17.0%、中女5.2%、高男18.1%、高女5.0%)も男子はどの学年も1割以上が所有している。「日本のドラマビデオテープ」(初男13.6%、初女9.4%、中男16.8%、中女6.3%、高男16.0%、高女6.9%)もまた男子はどの学年も1割以上が所有しており、女子より男子の方が所有者率が高い。

ゲームソフトに関して、「韓国のゲームソフトプログラム」(男子56.0%、女子40.4%)も「日本のゲームソフトプログラム」(男子44.9%、女子21.0%)も女子よりも男子の方が所有者が多い。「韓国のゲームソフトプログラム」(初男49.5%、初女37.1%、中男68.8%、中女42.9%、高男51.3%、高女41.5%)は中学男子が約7割と高く、女子は初等学校が3割以上、中学校・高等学校が4割以上所有しており、中学校が学年の中で一番多い。「日本のゲームソフトプログラム」(初男34.3%、初女12.8%、中男56.7%、中女23.5%、高男43.8%、高女26.6%)は女子は学年が上がるに従って所有者率は高くなり、また中学男子が5割以上も所有している。

ファッション雑誌・女性写真集に関して、「日本のファッション雑誌」(男子15.5%、女子9.5%)と「日本の女性写真集」は男子が1割以上と、女子より男子の方が高い。

「日本の学用品」(男子64.7%、女子69.1%)は男子は6割、女子は約7割が所有している。初等学校で約5割(48.1%)、中学校で約8割(79.7%)、高等学校で7割(73.8%)が所有

している。

「日本で作られた服」(初男24.3%、初女22.35%、中男30.2%、中女25.7%、高男23.7%、高女18.8%)は高校女子がやや低いが、他は2割以上が所有している。中学校男子では、3割になる。

「日本のキャラクター商品」(初男44.5%、初女46.8%、中男61.8%、中女69.3%、高男47.7%、高女68.1%)は初等学校と高校男子が4割、他は6割が所有している。

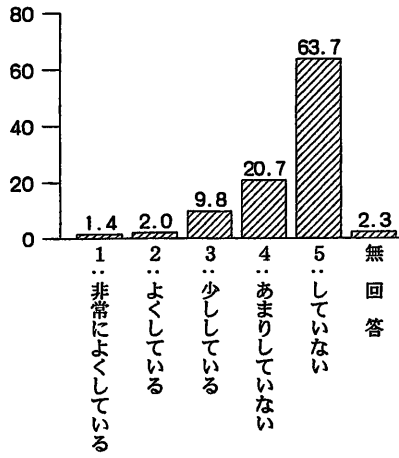
#### (7) 使用頻度 (図15)

まずはじめに、『非常によくしている』『よくしている』『少ししている』を『している派』、『あまりしていない』『していない』を『していない派』と分けることとする。

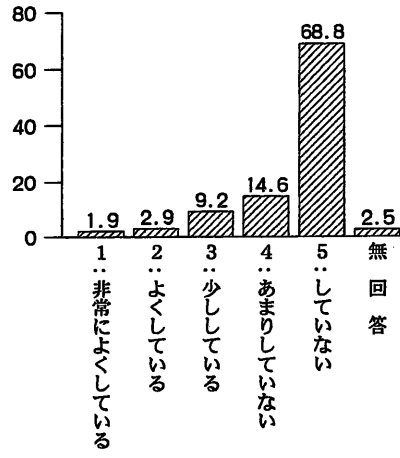
全体として、『している派』が一番多いのは「日本の漫画の主人公をまねる」で14.0%、次が「日本語を使用する」で13.2%と、どちらも1割以上が使用している。また「日本の歌手の歌を歌う」が7.2%、「日本のファッションを真似る」が7.0%で、やや低いが、している子がいる。

【性別】では、「日本の漫画の主人公を真似る」は男子15.2%、女子12.7%、「日本語を使用する」が男子15.0%、女子11.5%、「日本の歌手の歌を歌う」も男子9.2%、女子5.1%で男子の方が多い。これに対して「日本のファッションを真似る」は男子6.3%、女子7.9%とやや女子の方が多い。【学年別】では、「日本のファッションを真似る」(初—4.4%、中—7.9%、高—9.1%)、「日本の歌手の歌を歌う」(初—3.6%、中—6.9%、高—11.5%)は学年が上がるに従って増える傾向があるが、「日本の漫画の主人公を真似る」(初—17.3%、中—14.9%、高—9.6%)は学年が上がるに従って減っている。【性学年別】で見ると、「日本語を使用する」は高校男子が約2割(21.1%)も日本語を使用している。「日本のファッションを真似る」(初男3.9%、初女4.7%、中男4.9%、中女10.8%、高男9.9%、高女8.1%)は中学女子、高校男子、高校女子の1割近くが真似している。「日本の歌手の歌を歌う」(初男3.5%、初女3.7%、中男9.6%、中女4.4%、高男15.0%、高女7.7%)は初等学校ではほぼ同じだが、高校男子がやや多い。「日本の漫画の主人公を真似る」のは初等男子(19.7%)で2割近くもいる。

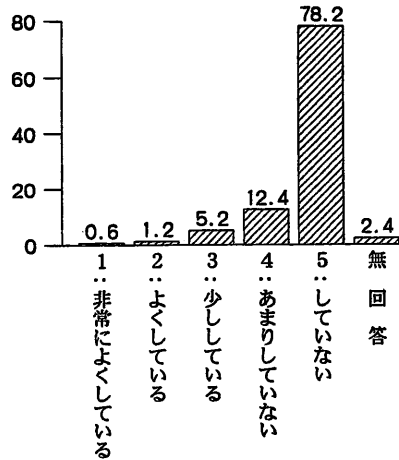
①日本語を使用する  
件数=2359



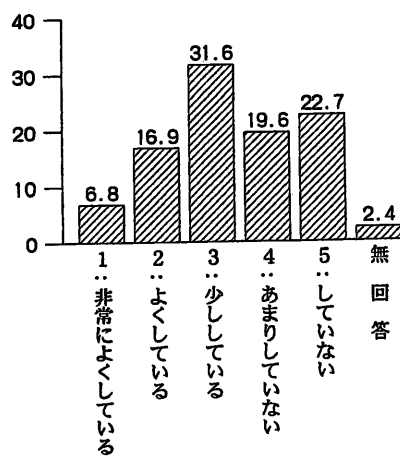
④日本の漫画の主人公をまねる  
件数=2359



②日本のファッションをまねる  
件数=2359



⑤ステッカー写真を撮る  
件数=2359



③日本の歌手の歌を歌う  
件数=2359

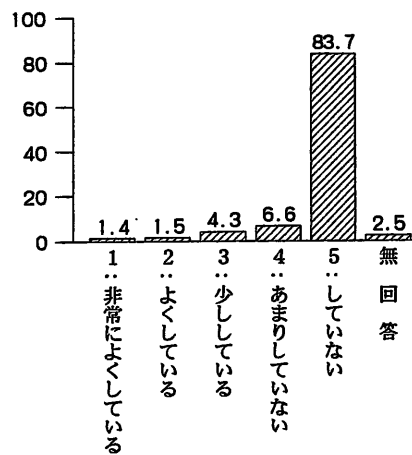


図15 使用頻度

## (8) 最初に接触した年齢 (図16)

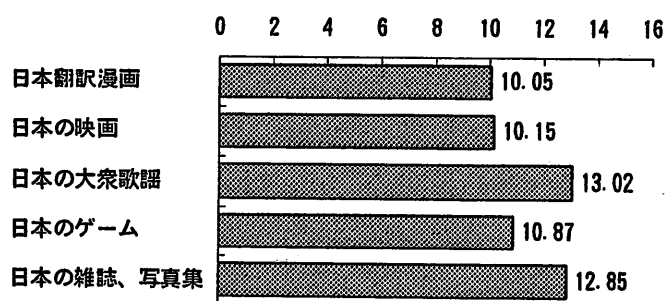


図16 最初に接触した年齢

全体として、最初に接した年齢の平均は、「日本の翻訳漫画」が一番早く10.05歳である。次に「日本の映画」が平均10.15歳で接触している。「日本のゲーム」が10.87歳、「日本の雑誌・写真集」が12.85歳、「日本の衛星放送」が12.88歳で以上は初等学校の時の接触している。また、

「日本の大衆歌謡」(13.02歳)、「インターネットを通じた日本文化の接触」(13.27歳)は、大体13歳くらいで接触している。

【性別】では、「日本の翻訳漫画」(男子9.51歳、女子10.66歳)と「日本のゲーム」(男子10.60歳、女子11.25歳)がやや男子の方が接触が早い傾向にある。【学年別】では、初等学校と中学校は「日本の翻訳漫画」が一番早く、それぞれ8.62歳と、9.97歳で接触している。高等学校は「日本の映画」が一番早く、11.50歳である。「日本の翻訳漫画」(初—8.62歳、中—9.97歳、高—11.53歳)、「日本の映画」(初—8.98歳、中—10.04歳、高—11.50歳)、「日本のゲーム」(初—9.40歳、中—10.99歳、高—12.28歳)はどの学年も小学生の時に最初に接触しているようである。【性学年別】に見ると、「日本の翻訳漫画」は初等学校では男子8.27歳、女子9.02歳とあまり差はないが、中学校では男子9.20歳、女子10.76歳、高等学校では男子10.93歳、女子12.28歳と1歳くらい男子の方が接触年齢が早い。【地区学年別】で見ると、「日本の翻訳漫画」(ソウル：初—8.29歳、中—9.99歳、高—11.12歳、大田：初—8.64歳、中—10.14歳、高—11.89歳、光州：初—8.50歳、中—9.38歳、高—12.45歳、釜山：初—9.04歳、中—10.35歳、高—10.52歳)はソウルの接触年齢が他地域に比べやや早い。

## (9) 初めて見たアニメや漫画の年齢 (図17)

全体として、一番早く見たアニメや漫画は「マジンガーZ」で平均8.03歳である。「未来少年コナン」(8.43歳)、「ガッチャマン」(8.51歳)、「ミンキーモモ」(8.57歳)、「鉄人28号」(8.61歳)、「ど根性ガエル」(8.75歳)、「千年女王」(9.16歳)、「銀河鉄道9 9 9」(9.38歳)、「ベルサイユのバラ」(10.39歳)、「アタックアタック」(12.83歳)、「スラムダンク」(12.85歳)、「セーラームーン」(13.05歳)、「エヴァンゲリオン」(13.40歳)となっている。「セーラームーン」、「エヴァンゲリオン」、「スラムダンク」の接触年齢が遅いのは、他のアニメに比べてこれらが最近のアニメであるためだと思われる。このように「日本のアニメ・漫画」を初めて見たのは8歳から13歳のあいだである。



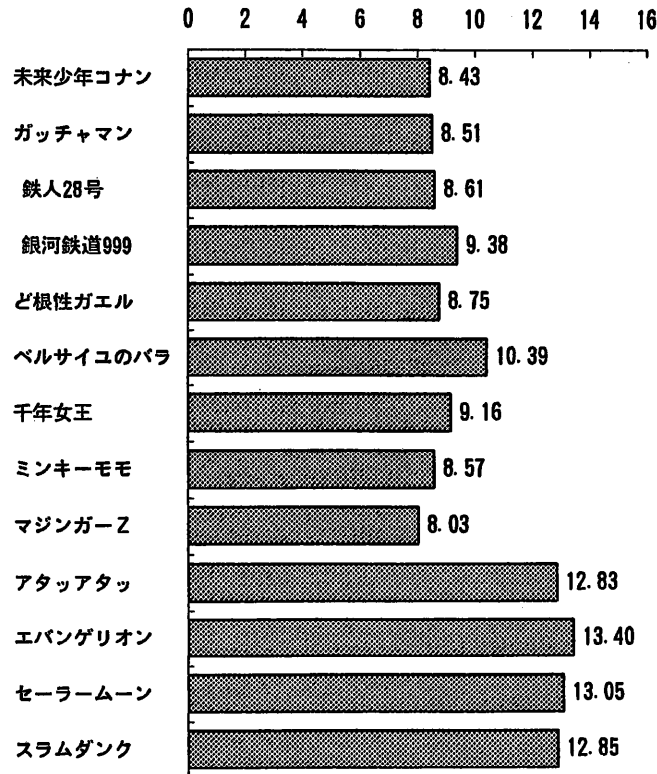


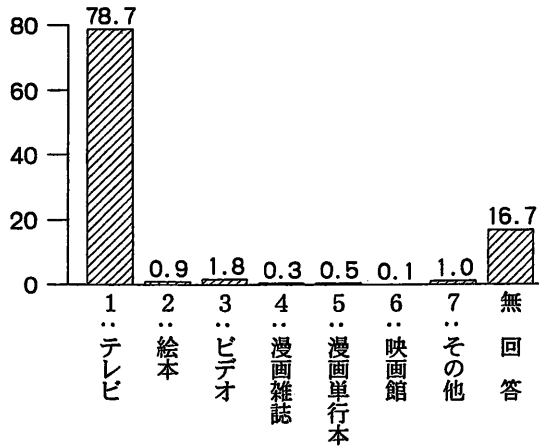
図17 初めて見たアニメや漫画の年齢

【性別】も【学年別】もそれぞれ差がなく、平均が示す値とたいして変わらない。ただ、「ベルサイユのバラ」(初男9.21歳、初女9.10歳、中男10.26歳、中女10.82歳、高男11.38歳、高女11.89歳)や「アタックアタック」(初男11.13歳、初女10.91歳、中男13.14歳、中女13.63歳、高男14.74歳、高女15.48歳)、「セーラームーン」(初男10.96歳、初女10.62歳、中男13.02歳、中女13.55歳、高男15.70歳、高女15.38歳)、「スラムダンク」(初男11.09歳、初女11.31歳、中男12.76歳、中女13.42歳、高男14.25歳、高女14.72歳)、「エバンゲリオン」(初男11.12歳、初女9.76歳、中男13.31歳、中女13.61歳、高男15.88歳、高女15.16歳)は学年が上がるに従って男女とも平均年齢が高くなっている。

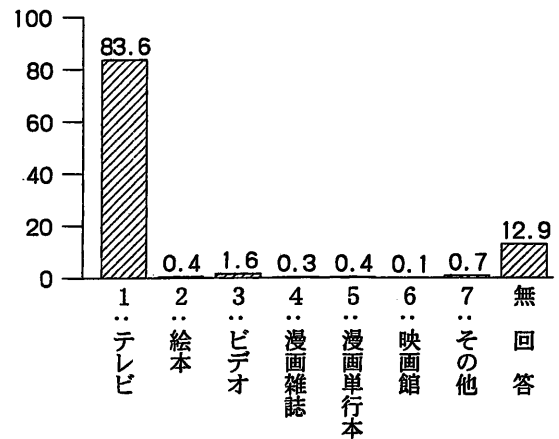
#### (10) 接触媒体 (図18)

全体として、どのアニメや漫画も接触媒体はほとんどが『テレビ』で、6～8割を占めている。ただし、「千年女王」は接触が少なく69.9%が『無回答』である。次に多いのは『ビデオ』だが「エバンゲリオン」(11.7%)、「鉄人28号」(5.8%)、「マジンガーZ」(4.2%)以外は1～3%である。『絵本』『漫画雑誌』は「スラムダンク」(『絵本』2.0%、『漫画雑誌』3.4%)以外は1%前後で、『漫画単行本』も「スラムダンク」の17.3%以外は1%前後である。

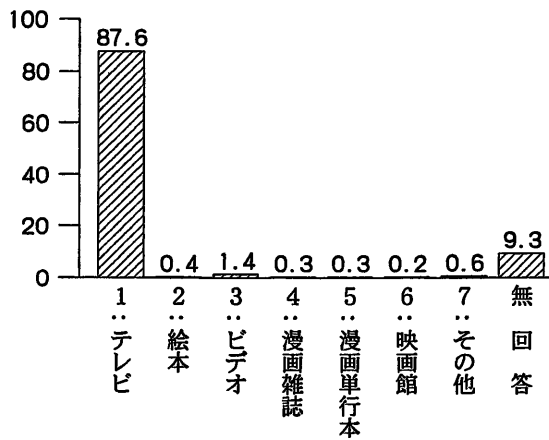
①未来少年コナン  
件数=2359



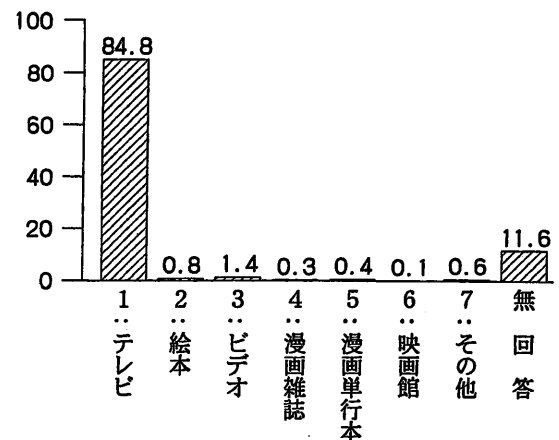
④銀河鉄道999  
件数=2359



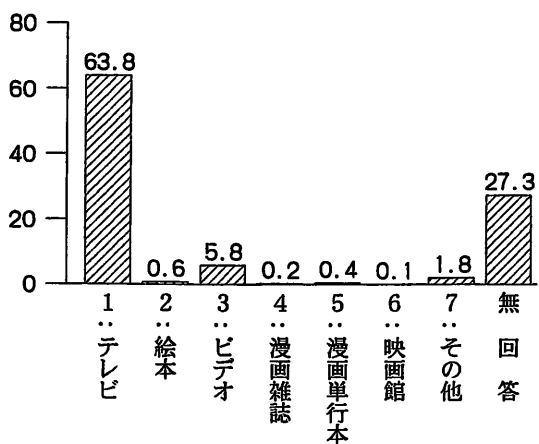
②ガッチャマン  
件数=2359



⑤ど根性ガエル  
件数=2359



③鉄人28号  
件数=2359



⑥ベルサイユのバラ  
件数=2359

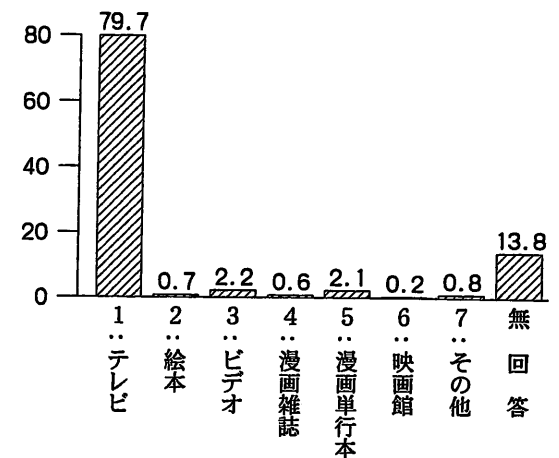
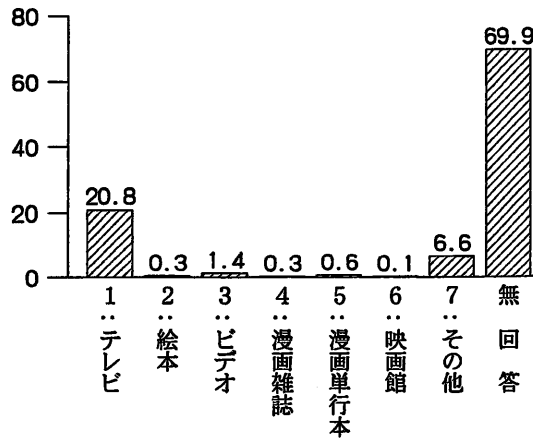
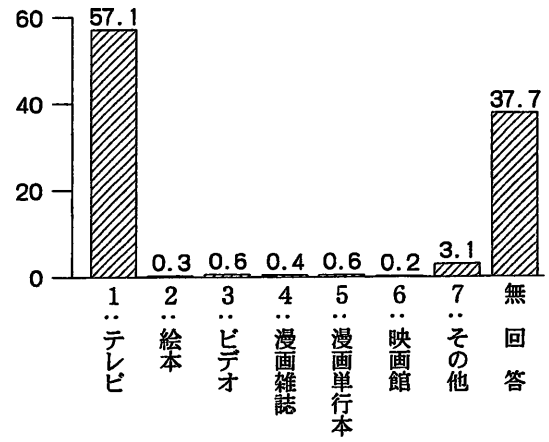


図18 接触媒体①

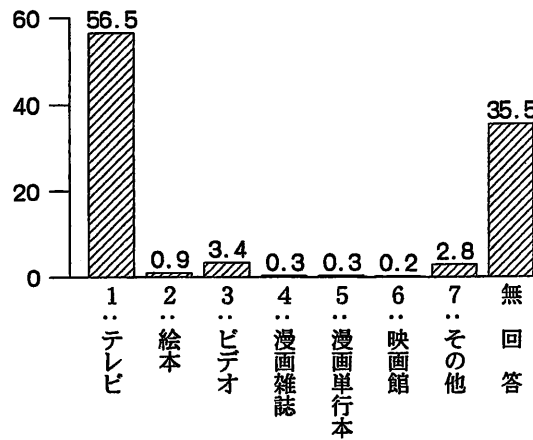
⑦千年女王  
件数=2359



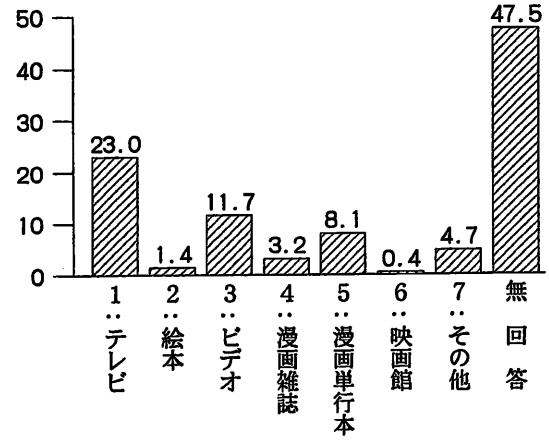
⑩アタックアタック  
件数=2359



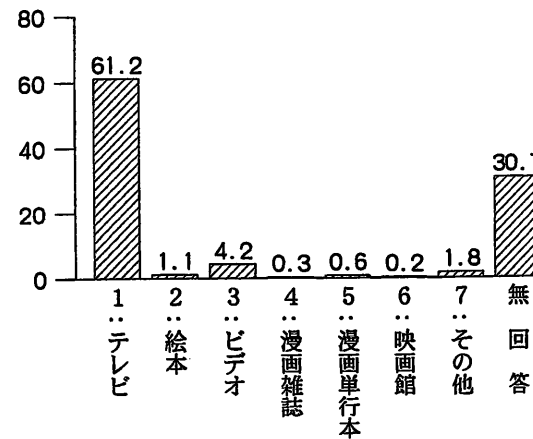
⑧ミンキーモモ  
件数=2359



⑪エバンゲリオン  
件数=2359



⑨マジンガーZ  
件数=2359



⑫セーラーMoon  
件数=2359

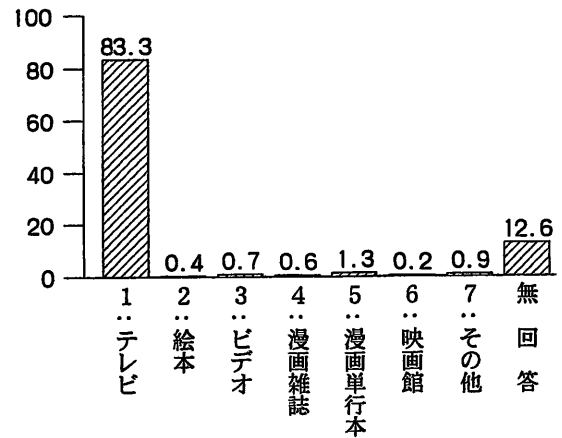


図18 接触媒体②

⑬スラムダンク

件数=2359

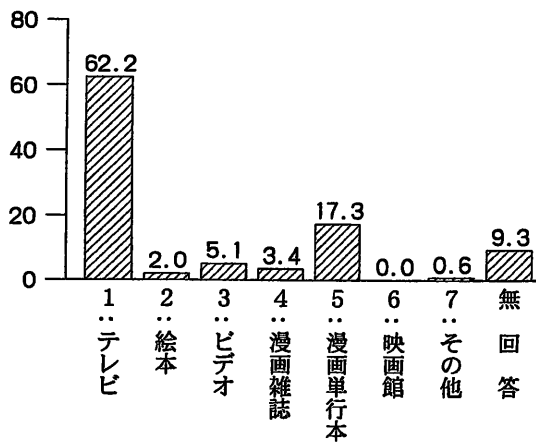
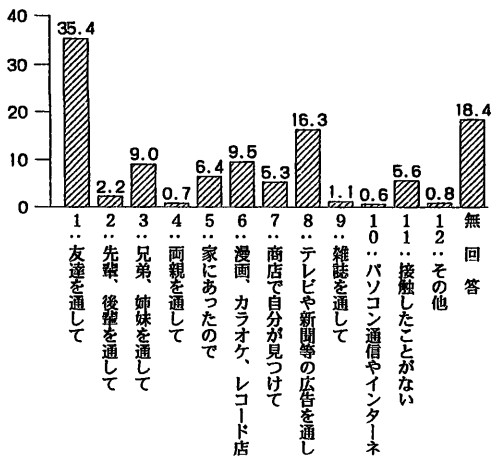


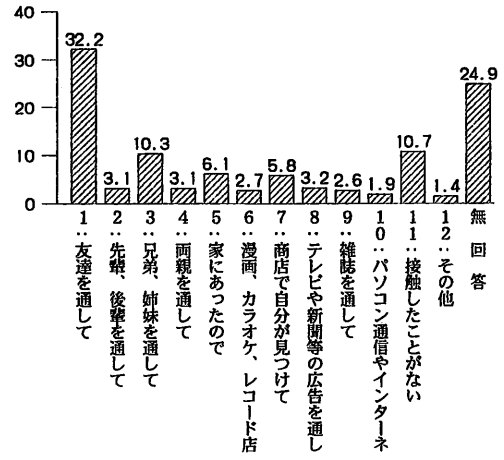
図18 接触媒体③

【性別】では、『無回答』は「ベルサイユのバラ」(男子17.0%、女子10.5%)と「ミンキーモモ」(男子40.8%、女子30.1%)、「ど根性ガエル」(男子11.9%、女子11.3%)で男子の方が多いが、その他では女子の方が多い。「ベルサイユのバラ」と「ミンキーモモ」「セーラーMoon」はどちらかといえば女の子向けのアニメだからであろう。接触媒体は男女とも圧倒的にテレビが多い。【学年別】では、一番接触者の多い『テレビ』を見ると、だいたい学年が上がるに従って接触者が増えているが、「スラムダンク」(初77.3%、中66.1%、高41.8%)、「エヴァンゲリオン」(初26.9%、中24.4%、高17.2%)、「アタックアタック」(初65.6%、中59.3%、高45.4%)は学年が上がるに従って接触者が減っている。【性学年別】に見ると、『テレビ』の割合は「未来少年コナン」(初男76.3%、初女67.8%、中男86.1%、中女75.6%、高男82.2%、高女84.3%)、「ガッチャマン」(初男86.3%、初女79.1%、中男90.2%、中女89.7%、高男88.6%、高女92.3%)、「銀河鉄道999」(初男80.8%、初女81.2%、中男82.7%、中女83.7%、高男85.0%、高女88.7%)で比較的男女の差が少ないが、若干高校女子が高くなっている。「マジンガーZ」は『テレビ』の割合が中学校と高等学校は7～8割だが、初等男子は約6割(56.6%)、中学女子は57.1%で、特に初等女子は低く約4割(38.2%)である。『ビデオ』の割合は初等男子が7.7%、初等女子が2.6%である。「エヴァンゲリオン」は全体的にも『ビデオ』の割合が高く11.7%であったが、高校男子は『ビデオ』が『テレビ』(15.2%)を上回り25.6%で、次いで『漫画単行本』が『テレビ』と同じく15.2%が多かった。中学男子も『ビデオ』の割合は高く19.1%であった。また、「スラムダンク」は全体では『テレビ』(62.2%)の次に『漫画単行本』(17.3%)が多かったが、高校男子は『漫画単行本』が42.6%と一番多く、次いで『テレビ』が28.7%であった。中学男子も『漫画単行本』が23.2%が多かった。「エヴァンゲリオン」と「スラムダンク」に関しては『ビデオ』や『漫画単行本』を接触媒介とする割合が中学・高校男子に多い傾向があるようである。

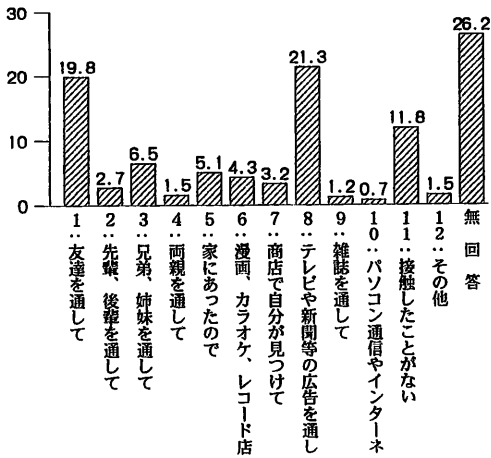
①日本翻訳漫画  
件数=2359



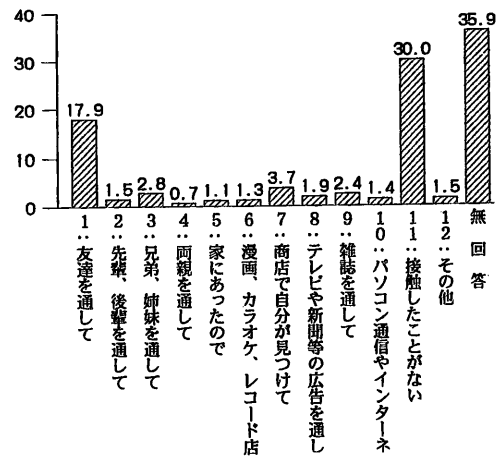
④日本のゲーム  
件数=2359



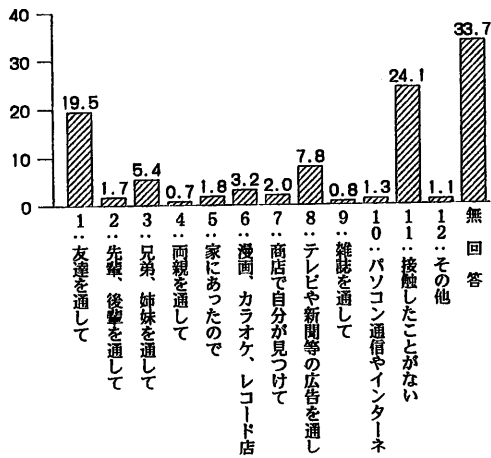
②日本の映画  
件数=2359



⑥日本の雑誌、写真集  
件数=2359



③日本の大衆歌謡  
件数=2359



⑤日本の衛星放送  
件数=2359

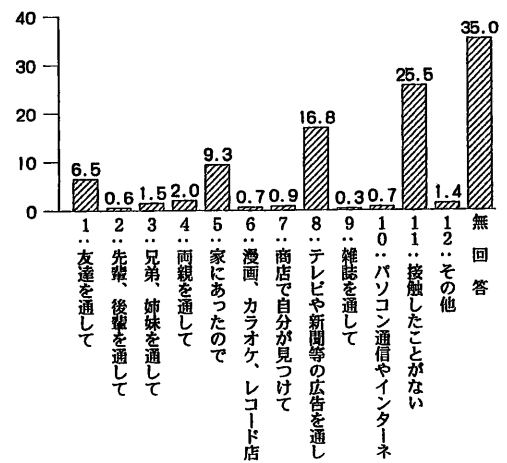


図19 最初に接触したきっかけ①

⑦インターネットによる日本文化の接触

件数=2359

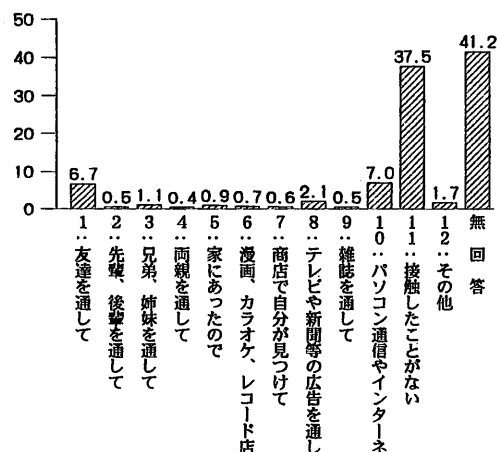


図19 最初に接触したきっかけ②

(11) 最初に接触したきっかけ (図19)

全体として、『友達を通して』が「日本の翻訳漫画」で35.4%、「日本のゲーム」で32.2%と高い。他にも「日本の映画」が19.8%、「日本の大衆歌謡」が19.5%、「日本の雑誌・写真集」が17.9%で、友達の影響が大きいことを示している。

「日本の翻訳漫画」は、【性別】では、『友達を通して』が男女とも多く、男子は約4割(38.7%)、女子は約3割(32.0%)である。『テレビや新聞などの広告を通して』(男子15.6%、女子17.0%)、『漫画・レコード店の人を通して』(男子8.7%、女子10.3%)も1割近くいる。また、『兄弟姉妹を通して』(男子7.4%、女子10.7%)は女子がやや多い。【学年別】では、『友達を通して』(初一18.8%、中一41.4%、高一47.0%)『漫画・レコード店の人を通して』(初一3.7%、中一12.3%、高一12.5%)は学年が上がるに従って増えているが、『テレビや新聞の広告を通して』(初一24.4%、中一16.4%、高一7.9%)は学年が上がるに従って減っている。【性学年別】に見ると、『友達を通して』は初等学校は男女とも約2割(男子20.0%、女子17.5%)であるが、中学校は男女とも4割前後(男子45.9%、女子37.2%)、高等学校は女子が4割以上(41.8%)、男子は5割以上(51.8%)である。また初等学校では『テレビや新聞の広告を通して』(初男21.7%、初女27.2%)が最も多いが、中学・高校になると、『友達を通して』が一番多くなっているようである。

「日本の映画」は【性別】では、男子は『友達を通して』(27.0%)『テレビや新聞の広告を通して』(16.0%)が多く、女子は『テレビや新聞の広告を通して』(26.7%)が多い。【学年別】では『友達を通して』(初一11.4%、中一22.3%、高一26.3%)が学年が上がるに従って増えている。【性学年別】に見ると、初等学校では『接触した事がない』(初男14.0%、初女17.5%)が多いが、接触したことがある中では『テレビや新聞の広告を通して』が多く、初男12.5%、初女18.3%である。中学校では男子は『友達を通して』(中男30.7%、中女14.3%)と『テレビや新聞の広告を通して』(中男21.9%、中女33.5%)が多いが、女子は主に『テレビや新聞の広告を通して』である。高等学校では女子は中学と同じく『テレビや新聞の広告

を通して』高男13.7%、高女28.6%)が多いが、男子は『友達を通して』(高男39.6%、高女11.8%)が約4割である。

「日本の大衆歌謡」は、接しているのが約4割で、男子は24.7%、女子は14.1%が『友達を通して』である。【学年別】では、『友達を通して』(初—5.7%、中—18.8%、高—34.7%)は初等学校では1割以下だが、中学校では約2割、高等学校では3割以上である。【性学年別】で見ると、主なきっかけである『友達を通して』(初男6.5%、初女5.0%、中男22.7%、中女15.0%、高男45.9%、高女22.5%)は男子の割合が高く、『テレビや新聞の広告を通して』(初男5.2%、初女7.3%、中男8.0%、中女11.3%、高男4.8%、高女10.4%)は女子の方が高い。

「日本のゲーム」は、接しているのが男子約8割に対して女子約5割である。男子は大半が『友達を通して』(46.7%)であるが、女子は『友達を通して』(17.4%)と『兄弟姉妹を通して』(15.4%)が多い。【学年別】では、『接触したことがない』(初—14.7%、中—9.8%、高—7.7%)と学年が上がるに従って減っている。【性学年別】で見ると、『友達を通して』(初男35.4%、初女15.2%、中男53.9%、中女21.9%、高男52.3%、高女14.3%)は中学・高校男子の5割以上が最初に接したきっかけである。女子は『兄弟姉妹を通して』(初女9.7%、中女19.2%、高女17.6%)が『友達を通して』とともに多い。

「日本の雑誌・写真集」は、【性別】では、男女とも『友達を通して』が多く、男子が24.0%、女子が11.7%である。【学年別】では、初等学校は接しているのが少ないがその中でも多いのが『友達を通して』(5.9%)である。中学校・高等学校も『友達を通して』(中—21.8%、高—26.8%)が多く、学年が上がるに従って増えている。【性学年別】で見ると、『友達を通して』(初男6.0%、初女5.8%、中男30.2%、中女13.8%、高男37.1%、高女15.7%)は中学校・高等学校で男女の差がある。男子は約3割だが女子は2割に満たない。

「日本の衛星放送」は、【性別】では、『テレビや新聞の広告を通して』(男子17.3%、女子16.3%)と『家にあったので』(男子11.4%、女子7.9%)が多い。【学年別】では、『テレビや新聞の広告を通して』(初—12.0%、中—20.8%、高—18.1%)が多く、次に多かった『家にあったので』(初—4.9%、中—11.6%、高—11.7%)は学年が上がるに従って増えている。【性学年別】で見ると、『友達を通して』(初男1.5%、初女2.1%、中男10.6%、中女4.4%、高男16.5%、高女3.8%)は中学・高校男子は1割を越える。

「インターネットによる日本文化の接触」は、接触者が非常に少ないが、その中でも主なきっかけは『友達を通して』(男子10.7%、女子2.7%/初—2.6%、中—8.9%、高—8.8%)『パソコン通信やインターネットを通して』(男子8.6%、女子5.4%/初—3.3%、中—7.4%、高—10.6%)である。他の文化と同様に、『友達を通して』は中学校・高等学校男子が多い。

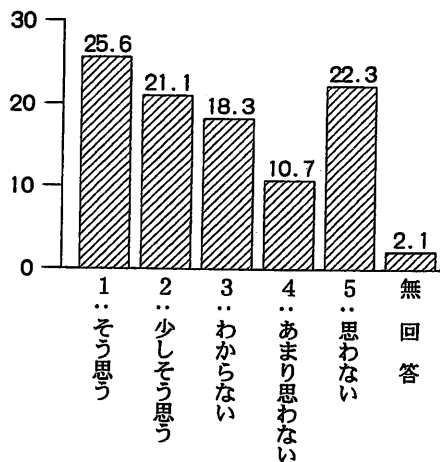
## (12) 日本の漫画についての印象 (図20)

\* 『そう思う』『少しそう思う』を『肯定派』、『あまり思わない』『思わない』を『否定派』とする。

全体として、『肯定派』が多いのは「ストーリーがおもしろい」(肯定79.3%、否定18.0%)、「どんどん次を読みたくなる」(肯定57.9%、否定25.5%)、「出てくる男性や女性がかわいい」(肯定53.0%、否定30.0%)である。『否定派』が特に多いのは、「読んでいると勇気が出てくる」(肯定13.1%、否定59.0%)「読んでいると友達と話ができる」(肯定26.4%、否定48.6%)「読むといろいろな知識を得ることができる」(肯定14.0%、否定61.7%)である。

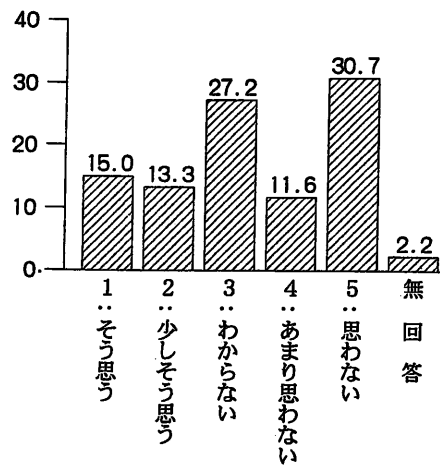
①絵がリアルである

件数=2359



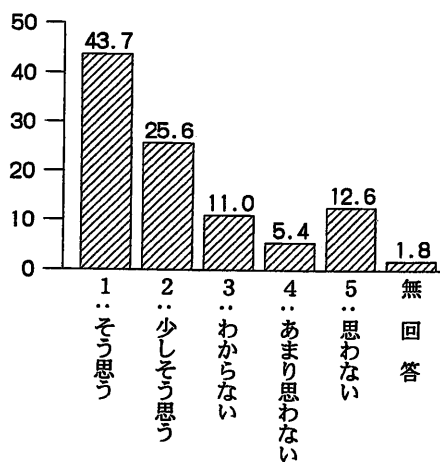
④読んでるとワクワクする

件数=2359



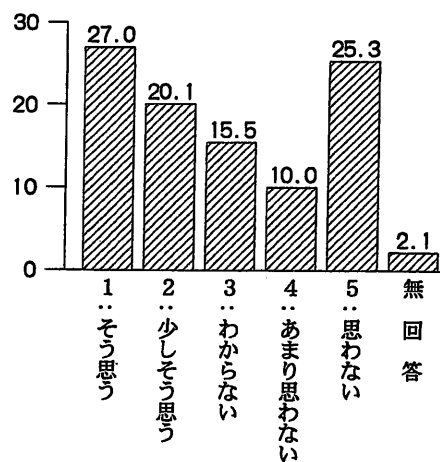
②ストーリーが面白い

件数=2359



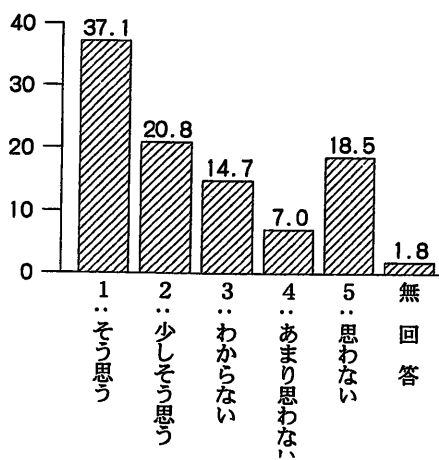
⑤でてくる男性や女性がかっこいい

件数=2359



③どんどん次を読みたくなる

件数=2359



⑥でてくる男性や女性がかわいい

件数=2359

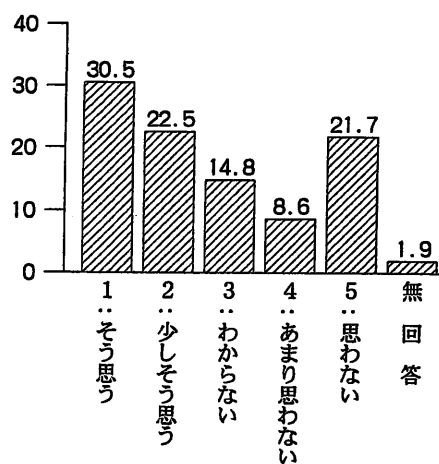


図20 日本の漫画についての印象①



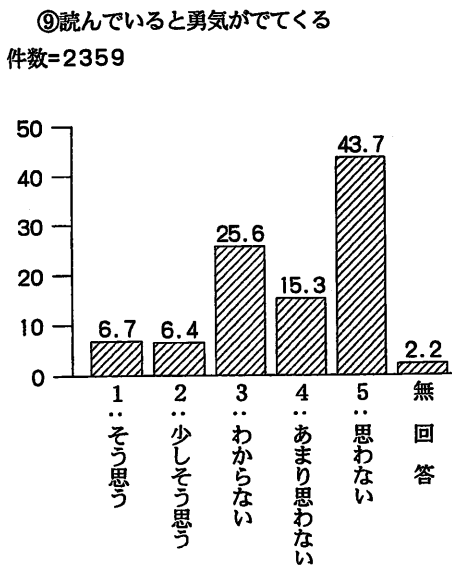
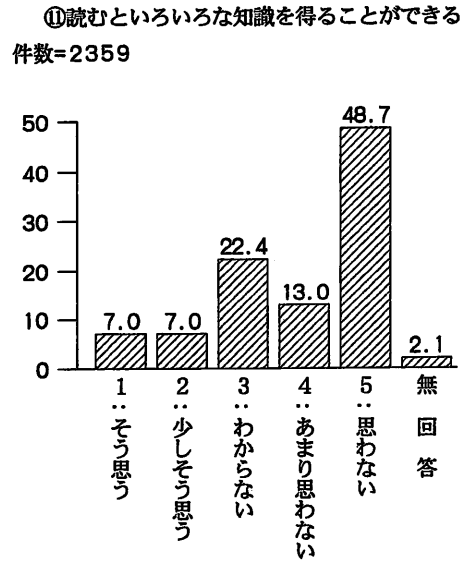
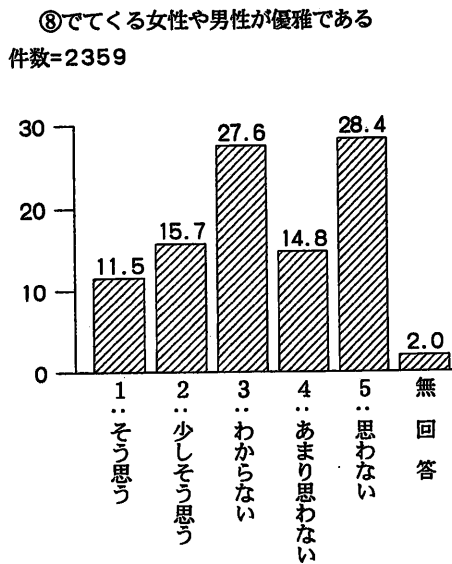
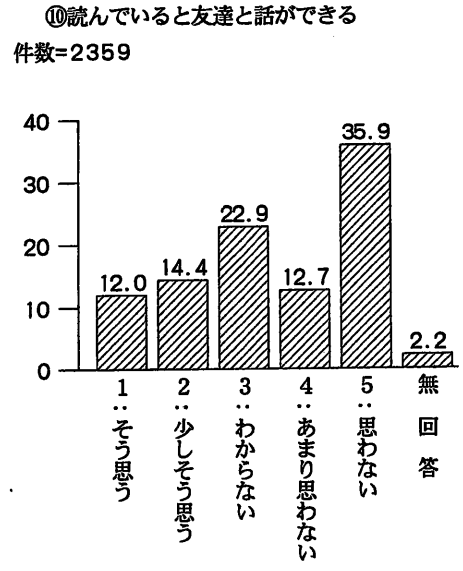
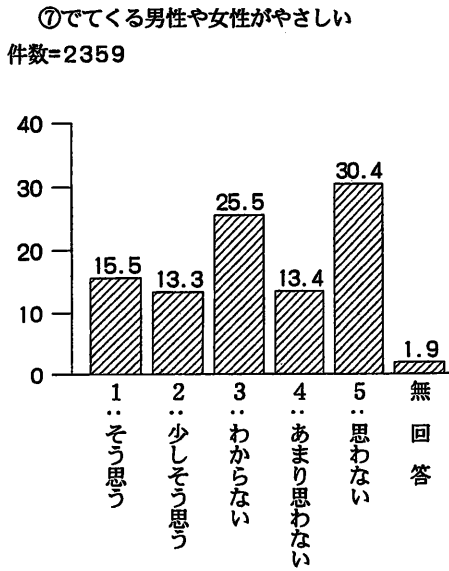


図20 日本の漫画についての印象②

「絵がリアルである」(肯定派：男子53.4%、女子39.7%/否定派：男子28.8%、女子37.3%)は、男女ともに『肯定派』が『否定派』より多いものの、男子の方が『肯定派』の割合が明らかに高い。【学年別】では、『肯定派』(初一30.3%、中一56.5%、高一54.2%)が中学で急激に増え、一番高い値を示し、高校でもほぼその割合は変わらず、中学校、高等学校で、5割以上が肯定している。【性学年別】で見ると、『肯定派』(初男29.9%、初女30.7%、中男65.2%、中女48.3%、高男67.0%、高女40.4%)は中、高男子が共に、7割近くもいる。

「ストーリーがおもしろい」(肯定派：男子72.6%、女子65.9%/否定派：男子16.3%、女子19.7%)は、『肯定派』が男子は7割以上、女子は6割以上と男女ともかなりの割合で肯定している。【学年別】では、『肯定派』(初一56.9%、中一77.6%、高一74.1%)が、中、高で同じくらいの割合を示し、初等学校で5割以上、中学校、高等学校で7割以上が肯定している。【性学年別】でみると、『肯定派』(初男58.7%、初女55.0%、中男78.1%、中女77.1%、高男82.0%、高女65.6%)は、男子は学年が上がるに従って増えていくが、高校で一番男女差が大きくなり、女子が6割以上に対し、男子は8割以上となる。

「どんどん次を読みたくなる」(肯定派：男子63.1%、女子52.7%/否定派：男子20.8%、女子30.4%)も『肯定派』が男女とも『否定派』より多く、男子は6割以上、女子は5割以上が肯定している。【学年別】では、学年が上がるに従って、『肯定派』(初一43.6%、中一58.8%、高一62.3%)が増え、初等学校で4割以上だったのが中学校では約6割が肯定している。【性学年別】でみると、『肯定派』(初男45.5%、初女41.6%、中男72.1%、中女65.5%、高男72.9%、高女50.8%)は学年が上がるに従って男女の差が大きくなり、高等学校では女子5割に対し、男子は7割以上である。

「読んでいるとわくわくする」(肯定派：男子31.1%、女子25.3%/否定派：男子39.6%、女子45.1%)は男女とも『否定派』の方が多く、女子は半数近くが否定している。【学年別】を見ると、初等学校(肯定16.9%、否定56.3%)では明らかに『否定派』が多いが、中学校(肯定36.9%、否定32.4%)では『肯定派』の方が多くなっている。高等学校(肯定30.9%、否定37.9%)では『否定派』の方が多いものの、肯定、否定とも3割以上で大きな差はない。

【性学年別】で見ると、初等学校(肯定：男子17.7%、女子16.0%/否定：男子54.4%、女子58.4%)と中学校(肯定：男子39.4%、女子34.5%/否定：男子32.2%、女子32.5%)は男女ほぼ同じ割合だが、中学校になると、男女とも大幅に『肯定派』が増え、『否定派』よりも多くなっているのがわかる。高等学校(肯定：男子36.2%、女子25.5%/否定：男子31.5%、女子44.8%)では男子は『肯定派』の方が多いが、女子は『否定派』の方が多い。

「出てくる男性や女性がかっこいい」(肯定派：男子47.4%、女子46.8%/否定派：男子33.6%、女子37.1%)は、男女とも『肯定派』が約5割、『否定派』が3割以上となっている。【学年別】では、学年が上がるに従って、『肯定派』が増え、初等学校(肯定30.5%、否定51.1%)では『肯定派』が3割、『否定派』が5割、中学校(肯定58.2%、否定24.4%)では『肯定派』が『否定派』の2倍以上になり、高等学校(肯定53.5%、否定29.5%)では『肯定派』が5割以上、『否定派』が約3割となっている。【性学年別】でみると、初等学校と中学校で男子より女子の方が『肯定派』(初男28.5%、初女32.7%、中男57.8%、中女58.6%、高男57.3%、高女49.2%)が多い。

「出てくる男性や女性がかわいい」(肯定派：男子49.8%、女子56.3%/否定派：男子31.7%、女子28.8%)は、男女とも『肯定派』の方が多い。【学年別】では『肯定派』(初一37.3%、

中—63.4%、高—58.9%)を見ると、中学生が一番多く6割以上で、次に高等学校で約6割となり、初等学校で3割以上となっている。【性学年別】に見ると、『肯定派』(初男—29.2%、初女—45.8%、中男—59.8%、中女—64.0%、高男—61.4%、高女—56.0%)は初等学校と中学校では女子の方が多い傾向にある。

「出てくる男性や女性がやさしい」(肯定：男子32.4%、女子25.2%/否定：男子39.3%、女子48.5%)は男女とも『否定派』の方が多い。【学年別】では、初等学校(肯定33.6%、否定55.1%)は『肯定派』が3割以上、『否定派』が5割以上、中学校(肯定35.0%、否定32.5%)は『肯定派』が3割以上、『否定派』が3割となり、中学校では『肯定派』の方が多くなっている。高等学校(肯定28.1%、否定43.8%)では『肯定派』が約3割、『否定派』が4割以上となっており、高等学校になるとまた『否定派』が増える。【性学年別】でみると、初等学校(肯定：男子21.7%、女子25.7%/否定：男子55.8%、女子54.2%)は男女とも5割以上が『否定派』である。中学校(肯定：男子40.9%、女子29.3%/否定：男子27.8%、女子37.0%)と高等学校(肯定：男子35.3%、女子20.3%/否定：男子33.5%、女子55%)では男子は『肯定派』の方が多く、女子は『否定派』の方が多い。

「出てくる男性や女性が優雅である」(肯定：男子29.7%、女子24.6%/否定：男子39.2%、女子47.3%)は男女とも『肯定派』より『否定派』の方が多く、さらに『否定派』は男子より女子の方が多い。【学年別】では、『肯定派』(初—22.9%、中—30.7%、高—28.0%)は中、高が多く3割で、小学校が2割以上である。『否定派』(初—52.1%、中—35.6%、高—41.8%)は中学校が最も少なく、3割以上で、次に高等学校の4割以上、初等学校の5割以上が続く。【性学年別】でみると、『肯定派』(初男—23.9%、初女—21.7%、中男—33.0%、中女—28.6%、高男—32.5%、高女—23.1%)は中学校と高等学校の男子が3割以上、他は2割以上が肯定している。『否定派』(初男—52.1%、初女—52.1%、中男—32.0%、中女—39.1%、高男—32.7%、高女—51.7%)は中学校男女、高校男子が3割以上で、他は5割以上が否定している。

「読んでいると勇気が出てくる」(肯定：男子16.7%、女子9.4%/否定：男子53.7%、女子64.3%)は男女とも非常に『否定派』が多く、男子は5割以上、女子は6割以上が否定している。【学年別】では、『肯定派』(初—11.5%、中—15.7%、高—12.4%)も『否定派』(初—61.7%、中—53.2%、高—61.9%)も初等学校と高等学校にあまり差は見られないが、それに比べると中学校は『否定派』が少ない。【性学年別】にみると、『肯定派』(初男—13.4%、初女—9.4%、中男—20.3%、中女—11.3%、高男—17.0%、高女—7.4%)は女子より男子の方が多く、特に中学男子に多い。

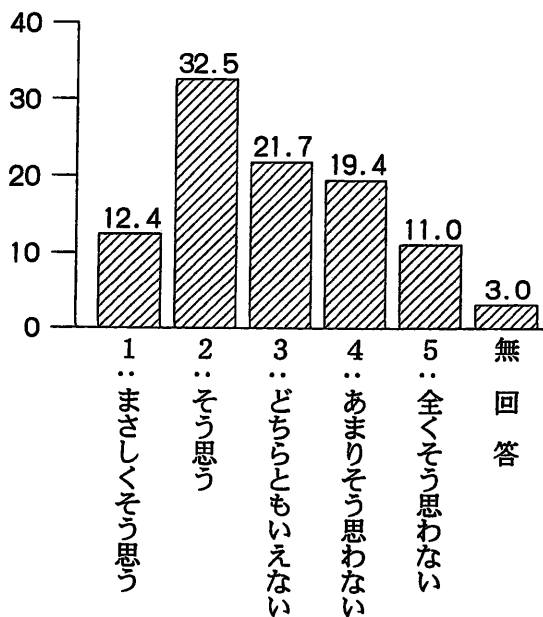
「読んでいると友達と話ができる」(肯定：男子28.2%、女子24.5%/否定：男子45.3%、女子51.8%)は『肯定派』は男女とも2割以上だが、『否定派』は男子が4割以上、女子が5割以上で女子の方が多い。【学年別】では、『肯定派』(初—17.6%、中—32.5%、高—29.2%)は中学校が最も多く3割以上で、次に高等学校の約3割、初等学校の1割以上と続く。【性学年別】に見ると、初等学校(肯定：男子19.2%、女子18.0%/否定：男子57.6%、女子59.7%)も中学校(肯定：男子34.8%、女子30.2%/否定：男子39.6%、女子44.6%)も高等学校(肯定：男子31.3%、女子27.2%/否定：男子38.0%、女子51.1%)も女子より男子の方が肯定的である。

「読むといろいろな知識を得ることができる」(肯定：男子17.7%、女子10.1%/否定：男

子55.5%、女子67.9%)は男女とも『否定派』が多い。特に女子は圧倒的に『否定派』が多く、7割近くが否定している。【学年別】では、初等学校(肯定9.8%、否定67.8%)で『肯定派』が1割未満、『否定派』が約7割である。中学校(肯定16.7%、否定56.4%)と高等学校(肯定15.8%、否定60.0%)では『肯定派』が1割以上、『否定派』が約6割である。【性学年別】に見ると、『否定派』(初男-64.1%、初女-71.8%、中男-51.3%、中女-61.4%、高男-50.0%、高女-70.9%)は男子より女子の方が10ポイント近くも多く、高等学校においては20ポイントの差がある。

(13) 日本や日本人に対する考え (図21)

1) 国民にバイタリティがあり将来性がある国  
件数=1552



2) 経済が衰退し国力が弱くなる  
件数=1552

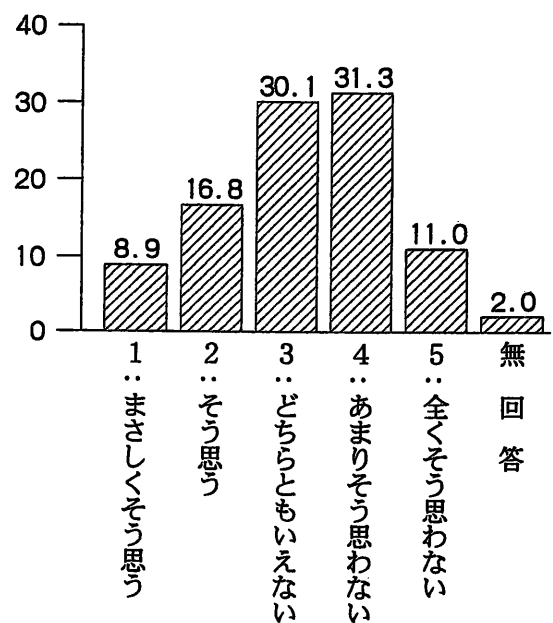
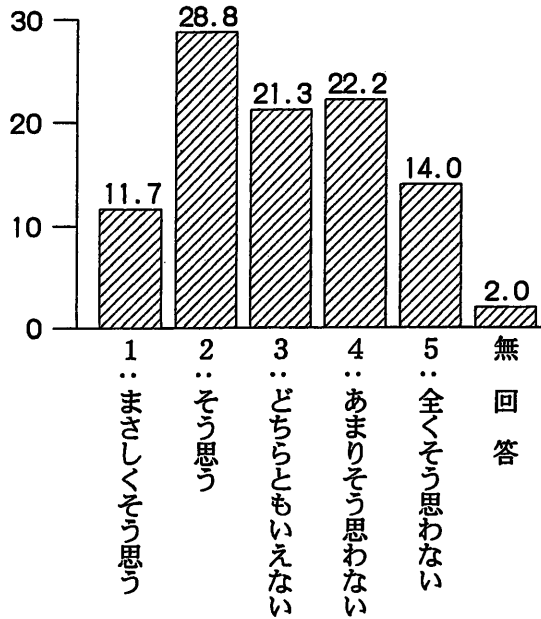


図21 日本や日本人に対する考え①

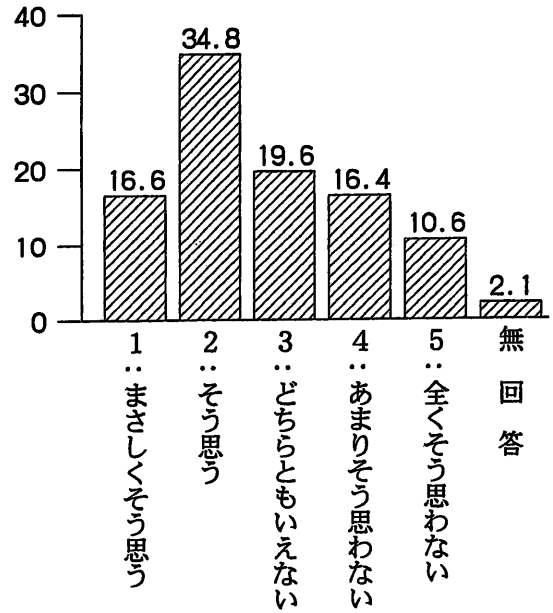
3) 将来、韓国の存在を脅かす国

件数=1552



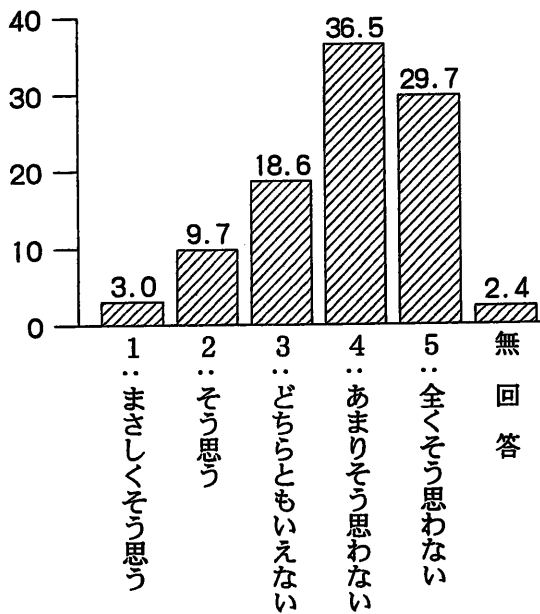
4) 韓国の発展のために協力が必要な国

件数=1552



5) 一般的に国民の考え方が韓国人と同じ

件数=1552



6) 理解できない不可解な国

件数=1552

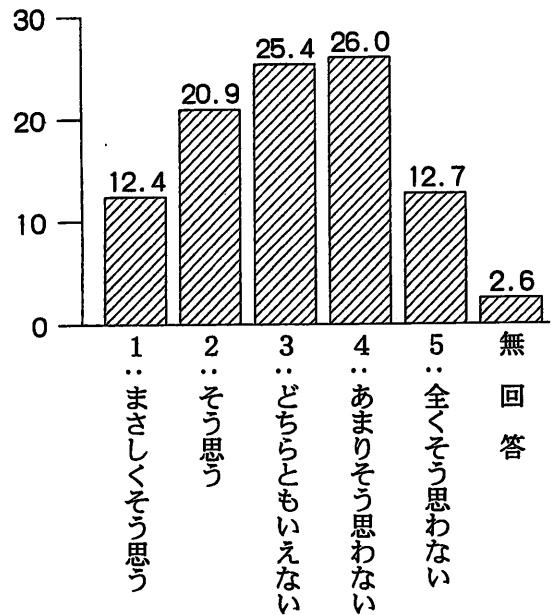
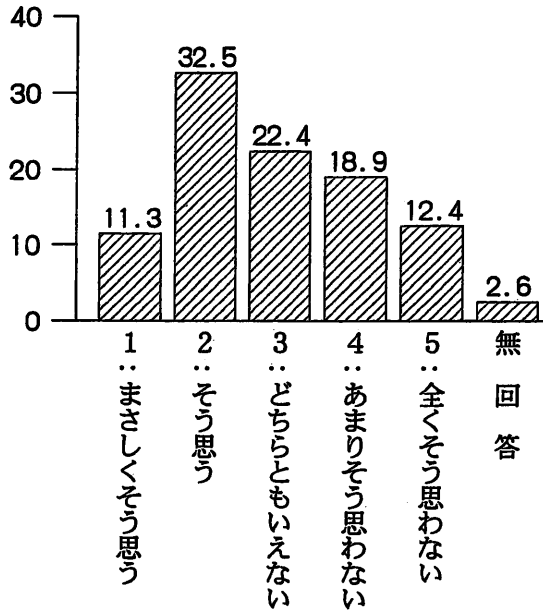
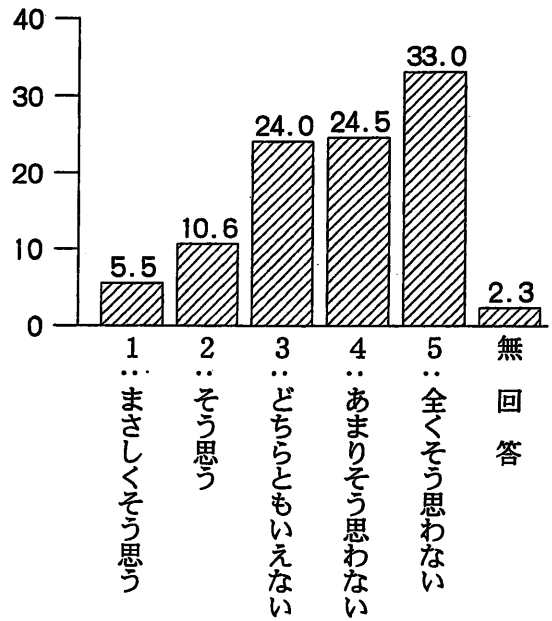


図21 日本や日本人に対する考え②

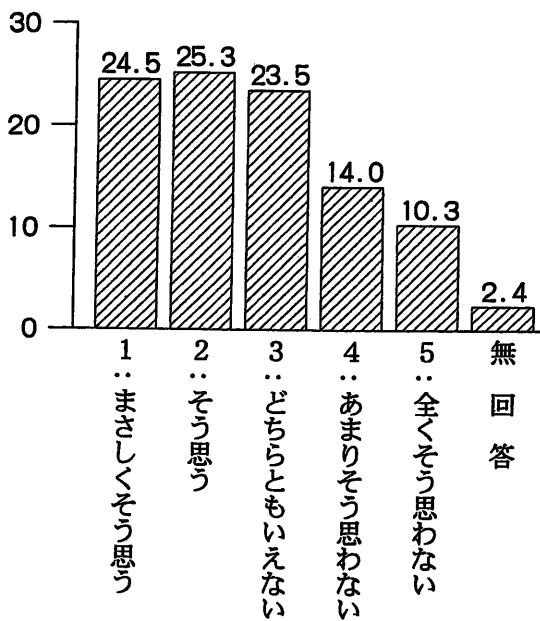
7) 勤勉で優れた資質を持った国  
件数=1552



8) 日本国民の才能が韓国国民より優れている  
件数=1552



9) 韓国は将来日本と対等になる  
件数=1552



10) 日本人に対して親密感を感じる  
件数=1552

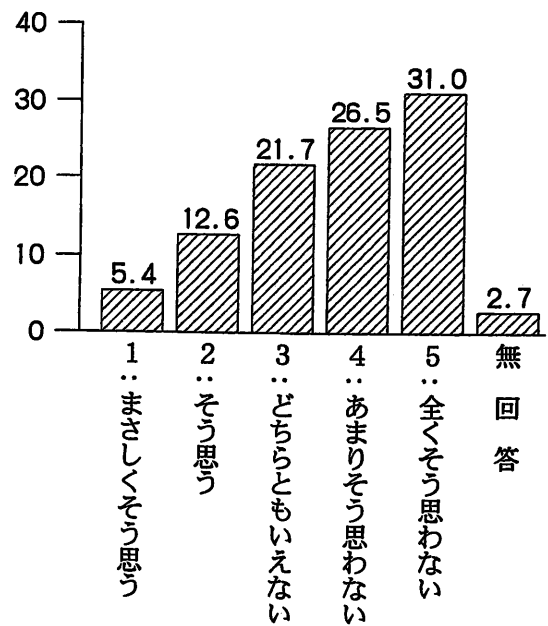
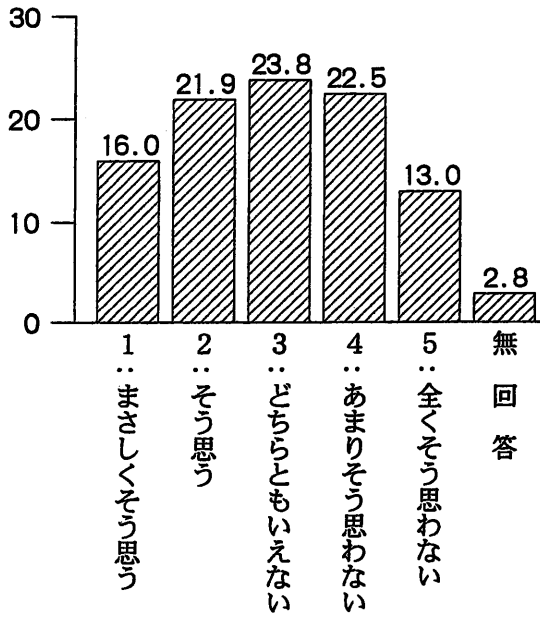
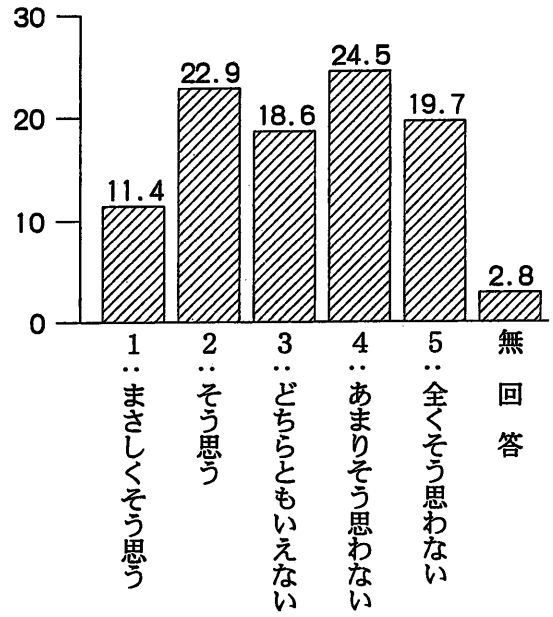


図21 日本や日本人に対する考え③

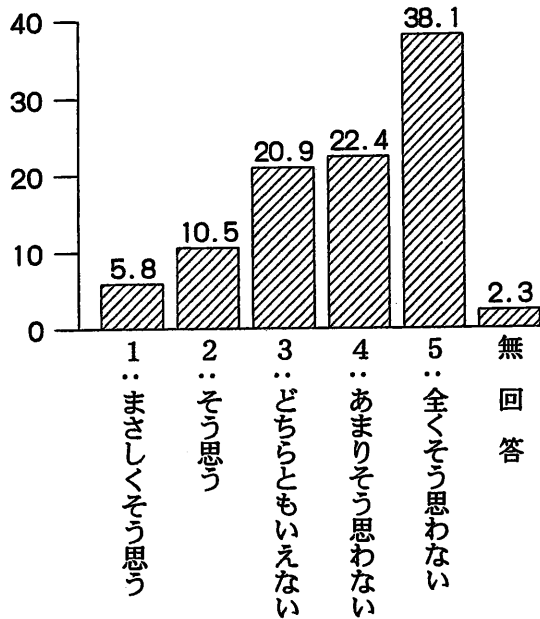
1 1) 日本人に対して敵対感を感じる  
件数=1552



1 2) 日本や日本人に強い関心を持っている  
件数=1552



1 3) 西欧人より日本人が好き  
件数=1552



1 4) 中国人より日本人が好き  
件数=1552

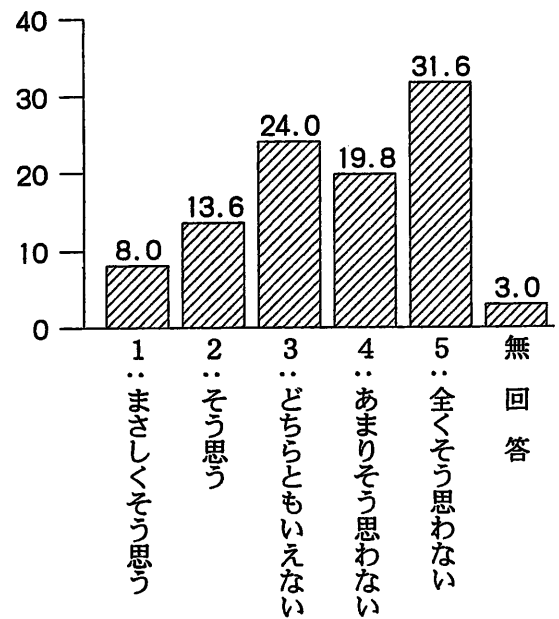
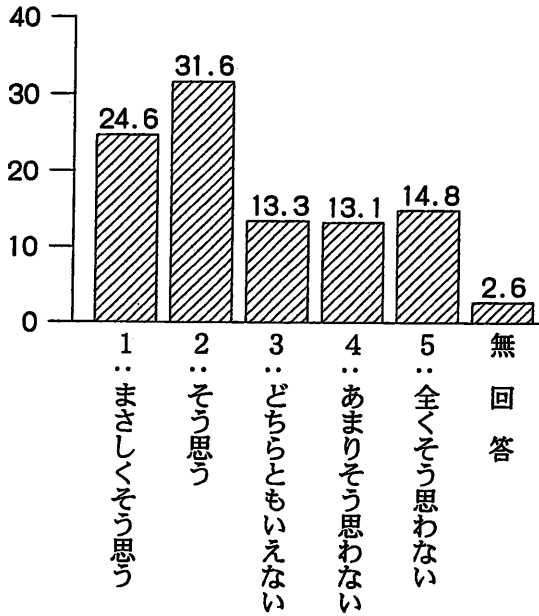
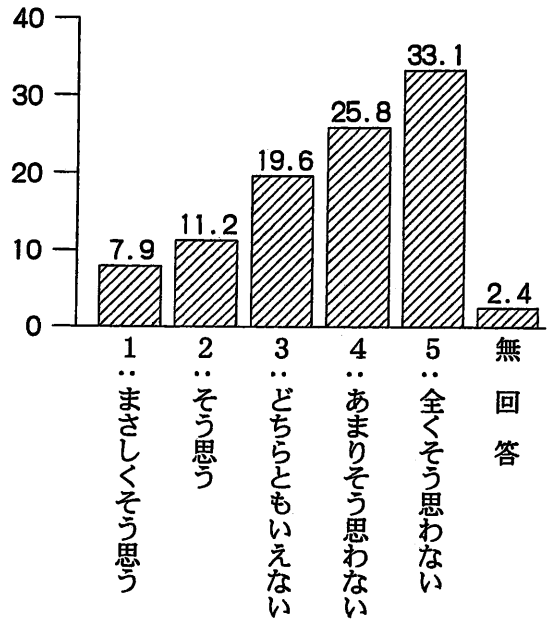


図21 日本や日本人に対する考え④

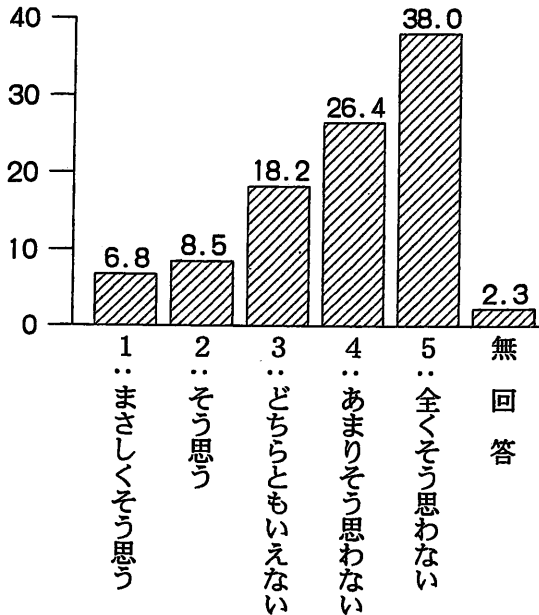
15) 日本に旅行に行きたい  
件数=1552



16) 日本の大学や大学院に行きたい  
件数=1552



17) 日本企業に就職して働きたい  
件数=1552



18) 日本でしばらく生活してみたい  
件数=1552

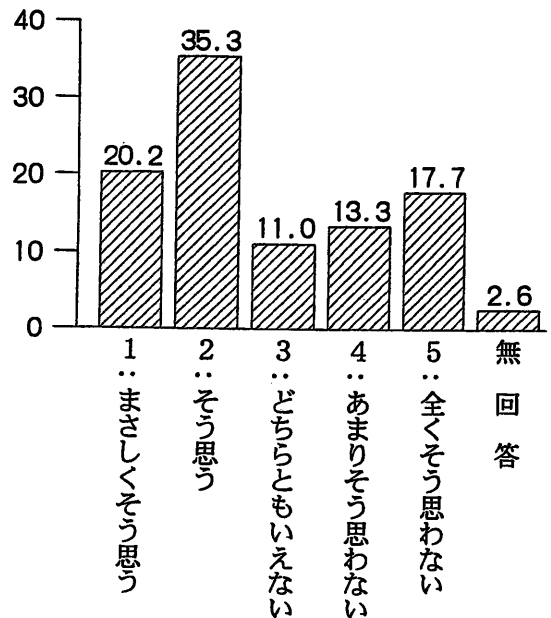
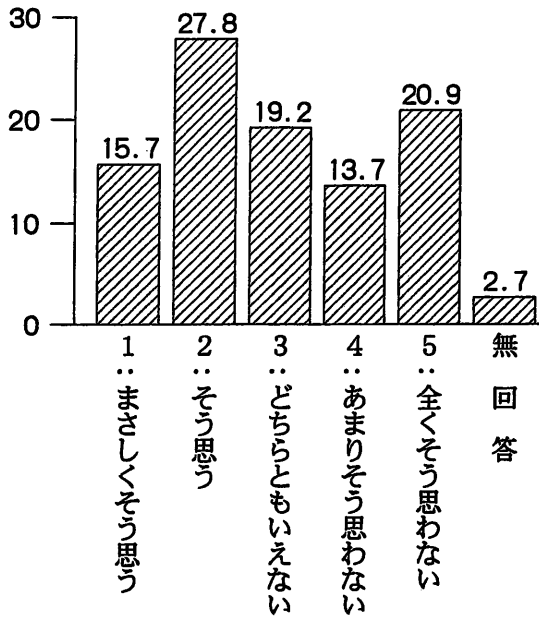


図21 日本や日本人に対する考え⑤



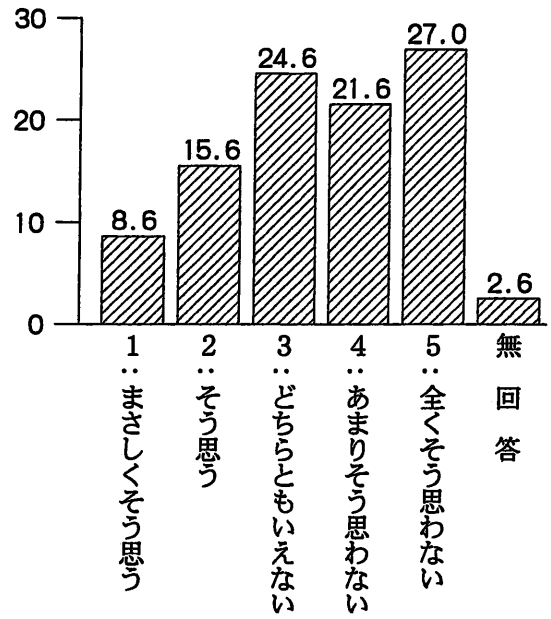
19) 日本人と友達になりたい

件数=1552



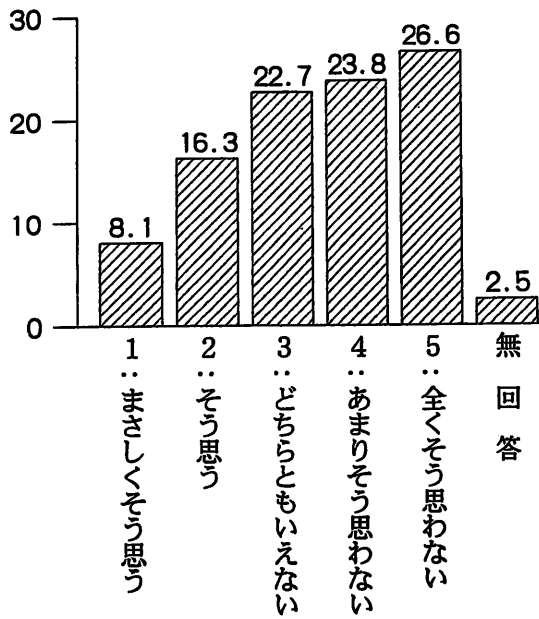
20) 日本人を家に招待したい

件数=1552



21) 日本人と一緒に仕事をしたい

件数=1552



22) 日本語を勉強したい

件数=1552

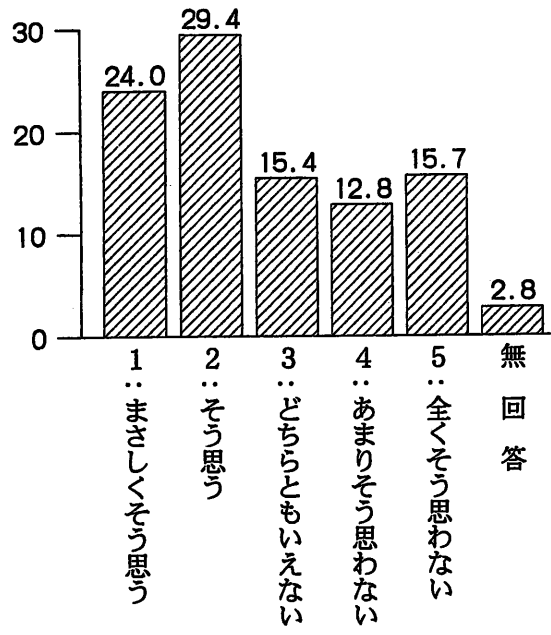
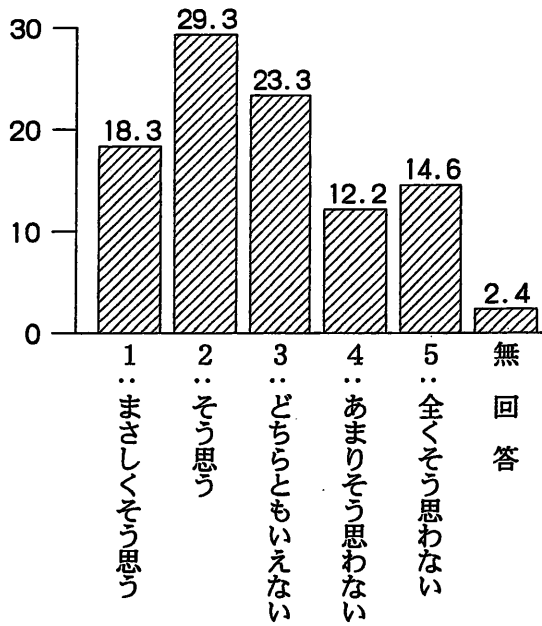
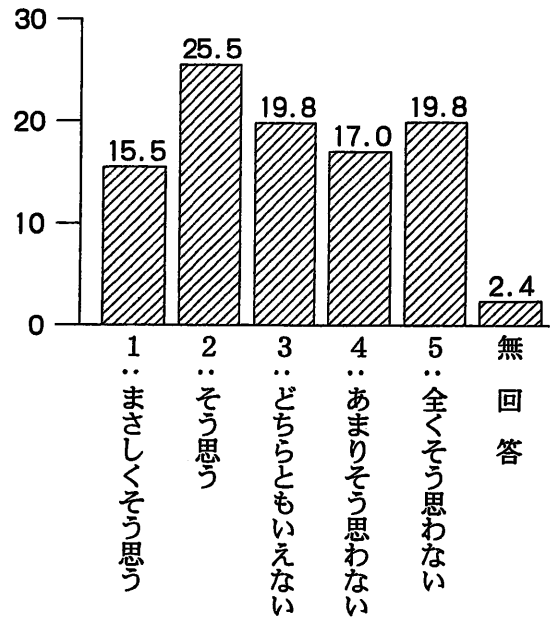


図21 日本や日本人に対する考え⑥

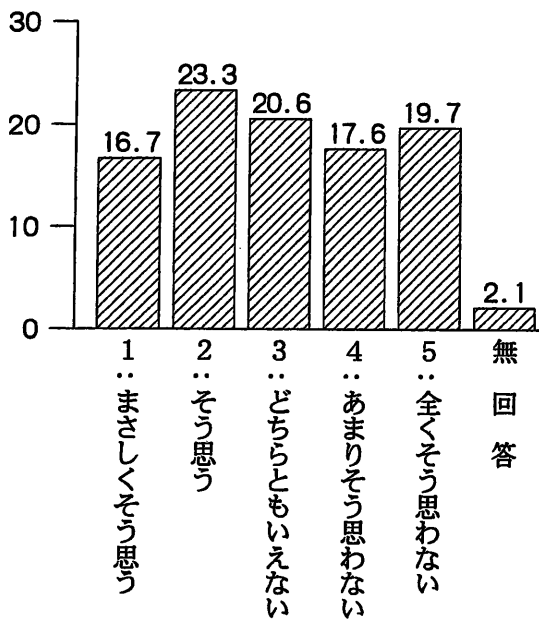
23) 両国の関係を良くするため努力したい  
件数=1552



24) 日本の文化を学びたい  
件数=1552



25) 日本の技術を学びたい  
件数=1552



26) 日本文化や漫画や歌謡等自由に接したい  
件数=1552

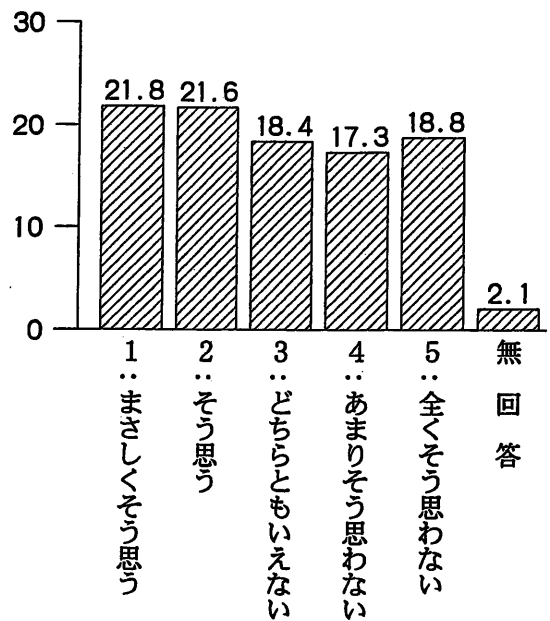


図21 日本や日本人に対する考え⑦

- \* 『まさしくそう思う』と『そう思う』を『肯定派』、『あまりそう思わない』と『まったくそう思わない』を『否定派』とする。また、この質問の対象は中学校と高等学校である。まず、26項目すべての『肯定派』と『否定派』の割合を比較してみる。“→”があるところは、昨年の調査から大きく変わったことを示す。(昨年の%→今年の%)
- 国民にバイタリティがあり、将来性がある国：『肯定派』(44.9%)>『否定派』(30.4%)
  - 経済が衰退し国力が弱くなる：『肯定派』(25.7%)<『否定派』(42.3%)
  - 将来、韓国の存在を脅かす国：『肯定派』(53.6%→40.5%)>『否定派』(36.2%)
  - 韓国の発展のために協力が必要な国：『肯定派』(51.4%)>『否定派』(27.0%)
  - 一般的に国民の考え方が韓国と同じ：『肯定派』(12.7%)<『否定派』(66.2%)
  - 理解できない不可解な国：『肯定派』(33.3%)<『否定派』(38.7%)
  - 勤勉で優れた素質を持った国：『肯定派』(43.8%)>『否定派』(31.3%)
  - 日本の国民の才能が韓国国民より優れている：『肯定派』(16.1%)<『否定派』(57.5%)
  - 韓国は将来日本と対等になる：『肯定派』(49.8%)>『否定派』(24.3%)
  - 日本人に対して親密感を感じる：『肯定派』(18.0%)<『否定派』(69.2%→57.5%)
  - 日本人に対して敵対感を感じる：『肯定派』(50.6%→37.9%)>『否定派』(35.5%)
  - 日本や日本人に強い関心を持っている：『肯定派』(34.3%)<『否定派』(44.2%)
  - 西欧人より日本人が好き：『肯定派』(16.3%)<『否定派』(60.5%)
  - 中国人より日本人が好き：『肯定派』(21.6%)<『否定派』(63.7%→51.4%)
  - 日本に旅行に行きたい：『肯定派』(46.1%→56.2%)>『否定派』(40.8%→27.9%)
  - 日本の大学や大学院に行きたい：『肯定派』(18.1%)<『否定派』(58.9%)
  - 日本企業に就職して働きたい：『肯定派』(15.3%)<『否定派』(74.5%→64.4%)
  - 日本でしばらく生活してみたい：『肯定派』(55.5%)>『否定派』(31.0%)
  - 日本人と友達になりたい：『肯定派』(33.4%→43.5%)>『否定派』(50.0%→34.6%)
  - 日本人を家に招待したい：『肯定派』(24.2%)<『否定派』(61.4%→48.6%)
  - 日本人と一緒に仕事をしたい：『肯定派』(24.4%)<『否定派』(61.7%→50.4%)
  - 日本語を勉強したい：『肯定派』(42.8%→53.4%)>『否定派』(42.5%→28.5%)
  - 両国の関係を良くするために努力したい：『肯定派』(47.6%)>『否定派』(38.4%→26.8%)
  - 日本の文化を学びたい：『肯定派』(29.9%→41.0%)>『否定派』(50.7%→36.8%)
  - 日本の技術を学びたい：『肯定派』(40.0%)>『否定派』(37.3%)
  - 日本文化や漫画や歌謡等に自由に接したい：『肯定派』(29.7%→43.4%)>『否定派』(52.3%→36.1%)

この中で、(1)~(9)を〔国に対する考え〕、(10)~(14)を〔人に対する考え〕、(15)~(26)を〔行動に対する考え〕とする。

まず〔国に対する考え〕だが、「国民にバイタリティがあり、将来性がある国」「勤勉で優れた素質を持った国」は4割以上が肯定、「経済が衰退し国力が弱くなる」は4割以上が否定、「理解できない不可解な国」も約4割が否定、「韓国の発展のために協力が必要な国」は約5割が肯定、さらに「将来、韓国の存在を脅かす国」の『肯定派』はまだ『否定派』より多いものの、昨年からかなり少なくなっていることを考えると、国に対しては比較的プラスに評価し、協力が必要と考えていると言える。しかしその一方では、「一般的に国民の考え方が韓

国人と同じ」は6割以上が否定、「日本の国民の才能が韓国国民より優れている」も約6割が否定、そして「韓国は将来日本と対等になる」は約5割が肯定と、日本をマイナスに評価し、日本より韓国のほうが優れていると考えているとも言える。【性別】では、「韓国の発展のために協力が必要な国」(肯定：男子57.7%、女子44.9%)は男子は約6割なのに対し女子は4割以上である。「韓国は将来日本と対等になる」(肯定：男子53.7%、女子45.7%)は男子が5割以上肯定しているのに対して8ポイント低い。「理解できない不可解な国」(肯定：男子29.9%、女子36.7%)は女子が3割以上肯定しているが、男子は3割に満たない。庫の3項目は男女の差が見られたが、他は男女ほぼ同じである。【学年別】では、「経済が衰退し国力が弱くなる」(肯定：中—26.6%、高—24.6%/否定：中—43.0%、高—41.5%)と「勤勉で優れた素質を持った国」(肯定：中—43.9%、高—43.7%/否定：中—31.8%、高—30.7%)は学年による差がほとんどない。学年による差が特に見られるのは「韓国の発展のために協力が必要な国」(肯定：中—43.9%、高—59.2%/否定：中—32.9%、高—20.7%)で、中学校が4割強肯定に対し、高等学校は約6割が肯定しており、明らかに『肯定派』が多い。また、「理解できない不可解な国」(肯定：中—29.8%、高—37.0%/否定：中—42.2%、高—35.5%)は中学校では『否定派』が多いが、逆に高等学校では若干『肯定派』が多い。

次に〔人に対する考え〕で、「親密感を感じる」は約2割が肯定し、約6割が否定しているが、昨年比で『否定派』は減少している。また逆の「敵対感を感じる」では『肯定派』が大幅に減少し、『否定派』とともに約4割で、ほとんど差がない。このことにより、日本人に対する印象はかなり向上したと言える。また、親密感を持っていないからと言って必ずしも敵対感を持っているわけではないようである。「強い関心を持っている」は4割以上が否定しているが、3割以上は日本に関心を持っている。「西欧人より日本人が好き」は肯定が1割以上、否定が6割、「中国人より日本人が好き」は肯定が2割、否定が5割で日本人より西欧人・中国人のほうが好きなのである。【性別】では、「親密感を感じる」(肯定：男子19.0%、女子17.0%/否定：男子56.5%、女子58.6%)は男女差はない。だが「敵対感を感じる」(肯定：男子35.5%、女子40.4%/否定：男子34.3%、女子36.7%)は『肯定派』が女子が5ポイント男子を上回り、やや敵対感を抱いている。「強い関心を持っている」(肯定：男子37.1%、女子31.4%/否定：男子38.2%、女子50.4%)は『肯定派』はやや男子の方が多い。『否定派』は明らかに女子のほうが多く、5割が否定している。「西欧人より日本人が好き」(肯定：男子22.5%、女子10.0%/否定：男子50.2%、女子70.7%)も「中国人より日本人が好き」(肯定：男子23.9%、女子19.2%/否定：男子45.8%、女子57.1%)も男子の方が『肯定派』が多く、女子は否定的である。【学年別】では「親密感を感じる」(肯定：中—19.0%、高—17.0%/否定：中—56.5%、高—58.6%)は学年による差はほとんどない。「敵対感を感じる」(肯定：中—35.8%、高—40.1%/否定：中—37.2%、高—33.8%)は学年が上がるに従って若干『肯定派』が増える。「強い関心を持っている」(肯定：中—33.7%、高—35.0%/否定：中—44.8%、高—43.8%)は学年による差がない。「西欧人より日本人が好き」(肯定：中—17.2%、高—15.5%/否定：中—58.6%、高—62.4%)と「中国人より日本人が好き」(肯定：中—24.1%、高—19.0%/否定：中—47.7%、高—55.3%)は学年が上がるに従って『否定派』が増える。

最後に〔行動に対する考え〕である。昨年と比べてこの行動に対する考え方がもっとも大きく変化している。と言うのは、昨年の調査では『否定派』より『肯定派』の方が多かった

項目が12項目中4項目だったのに対し、今年の調査では8項目に増えているからである。特にその中で『肯定派』が多かった項目は「日本に旅行に行きたい」「日本でしばらく生活してみたい」「日本語を勉強したい」の3項目で、5割以上が肯定している。『肯定派』の方が多く、残りの5項目も4割から約5割が肯定している。『否定派』の方が多かった項目は「日本の大学や大学院に行きたい」、「日本企業に就職して働きたい」、「日本人を家に招待したい」、「日本人と一緒に仕事をしたい」の4項目で5割から6割が否定している。【性別】では、「日本の技術を学びたい」（肯定：男子47.2%、女子32.8%／否定：男子31.3%、女子43.4%）と「日本の文化等に自由に接したい」（肯定：男子47.3%、女子39.6%／否定：男子31.4%、女子40.8%）は男子は『肯定派』の方が多く、女子は『否定派』の方が多く。他の項目は男女とも『肯定派』または『否定派』である。その中で『肯定派』の男女の割合を比較していくと、「日本でしばらく生活してみたい」（肯定：男子52.6%、女子58.5%）、「日本語を勉強したい」（肯定：男子48.3%、女子58.6%）、は女子のほうが『肯定派』が多い。逆に『否定派』に着目してみると、「日本の大学や大学院に行きたい」（否定：男子55.9%、女子62.1%）、「日本企業に就職して働きたい」（否定：男子60.3%、女子68.3%）、「日本人を家に招待したい」（否定：男子43.0%、女子54.2%）、「日本人と一緒に仕事をしたい」（否定：男子46.6%、女子54.5%）、「両国の関係を良くするために努力したい」（否定：男子23.1%、女子30.4%）は女子のほうが『否定派』が多い。【学年別】では「日本人と友達になりたい」（肯定：中—40.1%、高一47.2%）、「日本語を学びたい」（肯定：中—49.3%、高一57.6%）、「日本文化を学びたい」（肯定：中—36.9%、高一45.3%）、「日本の技術を学びたい」（肯定：中—34.1%、高一46.2%）以外は特に学年による大きな差は見られない。さらに「日本企業に就職して働きたい」（肯定：中—16.3%、高一14.2%）だけは『肯定派』が中学校の方が多く、その他の項目はすべて高等学校の方が多く。

以上、行動に対する考えを見てきたわけだが、5割を越す『肯定』の意見が得られる項目が出てきたことは、大きな変化ととらえることができるだろう。（昨年では肯定が5割を越す項目はなかった。）このことからだけでも韓国の現在の中、高生の意識の急激な変化が読み取れる。さらにどの項目も『肯定派』が最低1割以上いる。この数は、日本の中学生・高校生に、韓国や、韓国人に対する同様の質問をした場合得られる回答を考えれば、決して少ない数ではないと思われる。反日・嫌日・抗日意識を持つ反面、程度の差はあるが、日本に興味・関心を持ち、自由に交流したいという意識が成長してきたことの表れではないかと思われる。

※本調査結果をまとめるにあたり、研究室の滝沢知音（3年）、伊藤 妙（3年）、白根麗子（3年）、工藤麻耶（3年）、長岡みゆき（3年）の協力を得た。名前を記して感謝の意を表しておく。